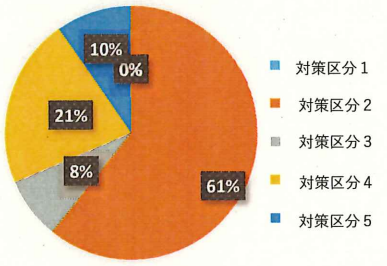
名張市

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報

市町名	名張市	三重県
人口（人）	76,729	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	12.4%	12.4%
森林面積(ha)	6,835.43	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	6,835.43	348,833.49
森林率(%)	53.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	13.3	10.1

対策区分別事業費割合



＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	2	危険木伐採事業	3,325,700	3,325,700		3,325,700				
2	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	682,675	682,675		682,675				
3	2	人家裏危険木伐採事業	2,282,000	2,282,000		2,282,000				
4	2	災害からライフラインを守る事前伐採事業	1,980,000	495,000		495,000				
5	3	みて・さわって・森のわくわく体験事業	373,560	373,560			373,560			
6	3	学校林整備事業	400,000	400,000			400,000			
7	3	森林環境教育推進事業	100,000	100,000			100,000			
8	4	県産材に親しむことができる木育推進事業	847,000	847,000				847,000		
9	4	森と人とをつなぐ憩いの空間作り事業	1,564,200	1,564,200				1,564,200		
10	5	森林公園等環境活用整備事業	780,000	780,000					780,000	
11	5	桜並木保全管理事業	300,000	300,000					300,000	
12	-	基金積立事業	903,441	903,441						903,441
計			13,538,576	12,053,576	0	6,785,375	873,560	2,411,200	1,080,000	903,441

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量（ha・m）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業	19.65ha	7,499,800	7,499,800	災害緩衝林一体型整備事業の実施（間伐）
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業	115m	1,980,000	495,000	名張市 夏秋 地内で実施

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	名張市では「暮らしに身近な森林づくり」に優先的に取り組み、市民が安全に生活を送れるように、道路沿いなどで繁茂している木々の伐採や、人家裏にあって倒木の恐れのある危険木の伐採費用を補助することによって、生活環境の向上を図っています。また、児童の森林環境教育を積極的に推進しており、地域の自然を大切にし身近な森林環境をつくるボランティア団体の活動を支援することで、保育・幼稚園児～小学生が森林や緑を楽しむ環境を整備しています。
事業実施により得られた効果	「災害に強い森林づくり」に沿った事業を実施するまでは、あまり手入れをされることなく放置され、市民の生活圏を脅かしていた森林が整備されたことにより、市民がより安心して暮らせるようになった。また、「県民全体で森林を支える社会づくり」に沿った事業の実施により、森林への関心が高まる昨今において、森林環境教育を推進し、次代を担う子どもたちが森林や緑に対する関心を深めることで森林の重要な役割に気付くきっかけづくりとなった。
情報発信への取組	事業内容やその成果については広報誌及びHP、ラジオ放送により、広く市民に周知している。また、事業実施現場にはのぼり旗や看板を設置することで、みえ森と緑の県民税の存在を最大限周知できるよう努めた。保育・幼稚園、小学校関連の事業については、保護者だより等で事業実施の周知時に財源にはみえ森と緑の県民税が活用されていることを記載した。 ほかに、「森と人とをつなぐ憩いの空間作り事業」で名張市役所1階に授乳室を設置し、付近にみえ森と緑の県民税に関するパネル展示することで、市庁舎を訪れる大勢の方に向けて県民税の周知に努めた。

＊評価の参考として、別紙「森林環境譲与税事業の実績」を添付すること。

（参考資料）

令和2年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		（円）	内、譲与税
1	森林整備推進協議会　報償費・旅費	22,000	22,000
2	間伐実施事業補助金	204,000	204,000
3	緊急間伐推進事業	800,000	800,000
4	森林経営管理事業	6,710,000	6,710,000
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	7,736,000	7,736,000

第７号様式（その２）

令和　２　年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
1	危険木伐採事業				
事業費	3,325,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,325,700	0	0

1. 事業の目的

市道、通学路等及び市有施設の周辺や緑地（市有地）にあって、倒木の恐れがある危険木の伐採を行い、道路施設・公共施設や市民の財産を保全し、暮らしの安全・安心を確保する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市道、通学路、スクールバス通行路及び市が所有する公共性・公益性の高い施設（小学校・中学校・保育所・幼稚園・公民館・市民センター・図書館等）の周辺にあって、台風等により倒木の恐れのある危険木の伐採を行った。また、緑地（市有地）にあって、台風等により道路や周辺の人家等に倒木の恐れのある危険木の伐採を行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張市

【補助率等】

補助事業ではないため該当しない。

【箇所数】

19箇所

【事業量】

危険木伐採除去箇所数　19箇所

【事業実施期間】

令和2年4月1日～令和3年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

名張市民（77,250人）【R3.4.1時点】

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

地域住民及び学校関係者の声や、市による現地確認等により、危険性や緊急性等を総合的に検討し、優先順位を決定した。

【事業実施により得られた効果】

通学路沿いの危険木を除去したことにより、災害時等に倒木の危険が無くなり、子ども達の通学時の安全・安心が確保された。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

実施箇所は、市道沿いであるため、市民の通行の妨げになる可能性もあり、税をPRする看板を設置することは難しいことから施業中のみのぼり旗を設置した。しかし、今後、市広報や学校教育の場において、住民に森林づくりの重要性を周知していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

地域住民や学校関係者等に、「道路に覆いかぶさっていた木が無くなって安心できる。」等の声をいただいた。今後も、通学路の安全が維持されるよう、パトロールを行い、危険木が発見した場合には早急に対応していく。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	名張市

番号	事　業　名				
1	危険木伐採事業				
事　業　費	3,325,700 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			3,325,700	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

市による委託契約

【実施方法の選定理由】

市有地にある災害時等に倒木等の恐れがある危険木の中でも、緊急性の高い通学路沿いの整備を行った。

【契約方法と落札率または補助率等】

市の契約関係規則に基づき、19件を実施。

【契約相手方の選定理由】

設計の範囲内であったため、全て見積り業者と契約している。

【事業費の積算根拠】

職員が造園修景積算マニュアル等によって詳細に設計。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

市道や緑地の安全性の確保により、通行する可能性のある名張市民全員が受益を受けられる。

【公的関与の必要性】

市が所有する緑地等の立木を伐採することから、市が実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市のホームページ
広報誌掲載	実施前・中	市の広報誌（広報なばり）
のぼり設置	実施中	伐採箇所
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市

事業名	危険木伐採事業

7. 写真

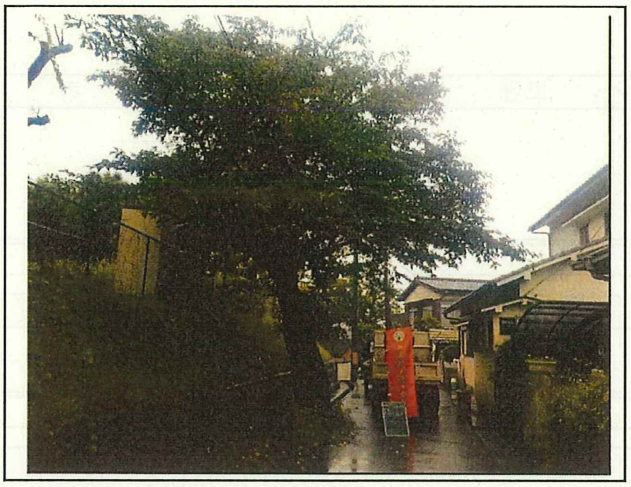


写真１
伐採作業実施前【市道桜ヶ丘6号線】

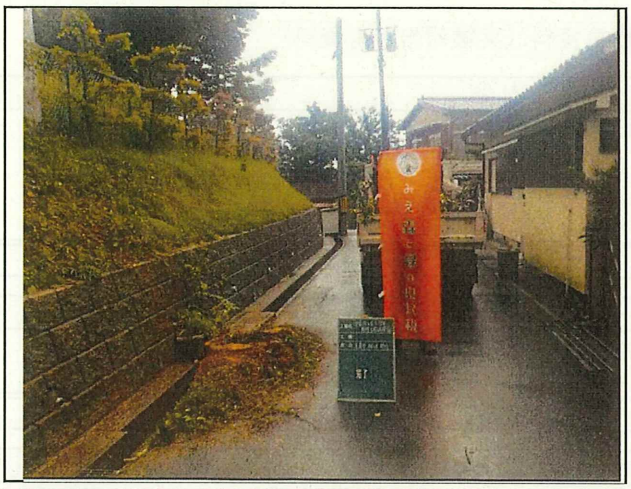


写真2
伐採作業完了【市道桜ヶ丘6号線】



写真3
伐採作業実施前【市道桜ヶ丘23号線】

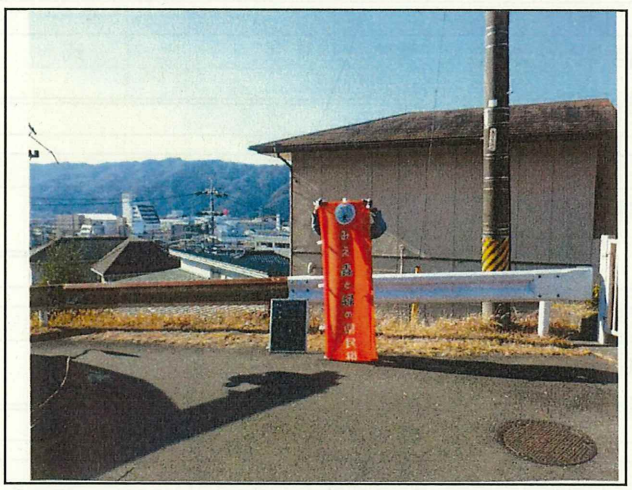


写真4
伐採作業完了【市道桜ヶ丘23号線】

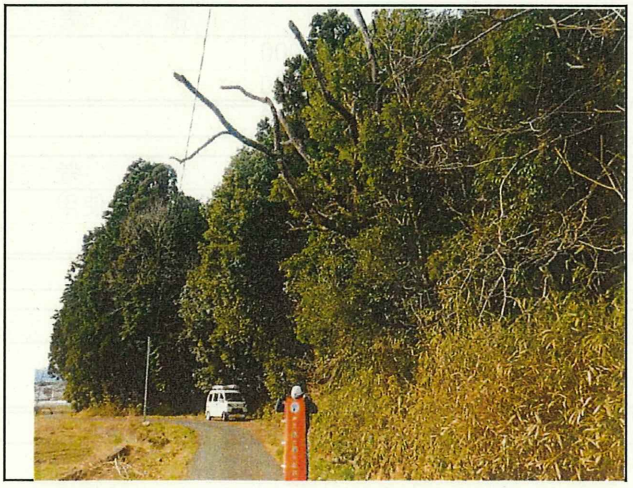


写真5
伐採作業前【市道うぐいす台9号線】



写真6
伐採作業後【市道うぐいす台9号線】

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	名張市

事業名	危険木伐採事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
通学路沿い等危険木伐採作業	箇所	19.00		3,325,700	
事業費				3,325,700	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
市道桜ヶ丘6号線	危険木伐採作業	式	1.00		90,500	
	消費税額				9,050	
	計				99,550	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
美旗8-2号線緑地	樹木伐採作業	式	1.00		250,000	4本伐採
	消費税額				25,000	
	計				275,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
百合が丘西6番町緑地	樹木伐採作業	式	1.00		245,000	3本伐採
	消費税額				24,500	
	計				269,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
春日丘5番緑地	樹木伐採作業	式	1.00		141,000	6本伐採
	消費税額				14,100	
	計				155,100	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
百合が丘6番町緑地	樹木伐採作業	式	1.00		245,000	4本伐採
	消費税額				24,500	
	計				269,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
百合が丘22号緑地	樹木伐採作業	式	1.00		35,000	
	消費税額				3,500	
	計				38,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
つつじが丘南5番町緑地	樹木伐採作業	式	1.00		100,000	
	消費税額				10,000	
	計				110,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
池の台19号緑地	危険木伐採作業	式	1.00		118,000	高所作業車使用
	消費税額				11,800	
	計				129,800	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
百合が丘2号緑地	危険木伐採作業	式	1.00		20,000	針葉樹9本
					2,000	雑木数十本
	計				22,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
すずらん台東4番町緑地	危険木伐採作業	式	1.00		272,000	
	消費税額				27,200	
	計				299,200	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
市道桜ヶ丘12号線	危険木伐採作業	式	1.00		72,000	
	消費税額				7,200	
	計				79,200	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
市道広坊青蓮寺線	危険木伐採作業	式	1.00		115,000	
	消費税額				11,500	
	計				126,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
市道うぐいす台9号線	危険木伐採作業	式	1.00		189,000	
	消費税額				18,900	
	計				207,900	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
市道平尾桜ヶ丘線	危険木伐採作業	式	1.00		270,000	
	消費税額				27,000	
	計				297,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
市道下比奈知夏見線	危険木伐採作業	式	1.00		270,000	
	消費税額				27,000	
	計				297,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
市道矢川竜口線	危険木伐採作業	式	1.00		224,250	消費税込
	計				224,250	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
比奈知文化センター	危険木伐採作業	式	1.00		90,000	7本伐採
	消費税額				9,000	
	計				99,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
比奈知文化センター	危険木伐採作業	式	1.00		30,000	1本伐採
	消費税額				3,000	
	計				33,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
市道桧尾3号線	樹木伐採作業	式	1.00		267,000	
	消費税額				26,700	
	計				293,700	

第７号様式（その２）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事業費	682,675 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			682,675	0	0

1. 事業の目的

未利用間伐材の利用を推進することにより、木質バイオマス資源の活用を図ると共に、森林の多面的機能の発揮を図る。

間伐材の搬出が困難等の理由で森林内に放置されている未利用間伐材を名張市内の森林から搬出及び運搬する経費を助成することで搬出を促進し、木質バイオマス燃料として活用するとともに、森林の持つ多面的機能の向上を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

木質バイオマスの利用促進を図るため、未利用間伐材を名張市内の山林から伊賀管内のＦＩＴに基づく木質バイオマス燃料買取実施場所まで搬出及び運搬に要する経費を助成した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張市内の森林において木質バイオマス用未利用間伐材の搬出を行う者として名張市に登録した者。

【補助率等】

定額補助(2,500円/トン)

【箇所数】

補助事業実施者：7名、整備が行われた山林：7箇所

【事業量】

未利用間伐材の搬出　237.07トン

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

事業に参画する林家　約20名

市民・県民（本事業において森林整備が行われることによる森林の多面的機能の向上とバイオマス利用推進による森林環境保全の受益者）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

補助事業実施者により選定

【事業実施により得られた効果】

利用率の低い未利用間伐材のバイオマス資源利用が推進された。また、未利用残材の処理を推進することにより、災害時の林地残材の流出防止に繋がった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

森林所有者によって管理

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

補助事業実施者からは、本補助事業によって「未利用間伐材の搬出に取り組みやすくなった。今後もこの補助を活用して山の整備を行いたい」といった意見があった。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事業費	682,675 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			682,675	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

補助事業のため、該当しない。

【契約方法と落札率または補助率等】

補助率：定額補助（2,500円/トン）

補助対象事業費：未利用間伐材の搬出及び運搬経費を支援することに要する経費

【契約相手方の選定理由】

補助事業のため、該当しない。

【事業費の積算根拠】

名張市内の山林から搬入先事業所までの間伐材の搬出・運搬経費を上回らない額。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

市内各地の山林から資材が搬出されることで、森林の持つ多面的機能の向上が図られ、地元住民へと還元される。

【公的関与の必要性】

名張市では未利用間伐材の利用推進及び、木質バイオマス資源の活用を図っているため、市が関与し実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者が適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市のホームページ
のぼり設置	実施中	木質バイオマス燃料買取実施場所
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	名張市

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業

7. 写真



写真１
搬入状況



写真2
搬出状況



写真3
搬出状況



写真4
搬出材



写真5
搬出材



写真6
搬入状況及びPRのぼり旗

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
間伐材の搬出・運搬にかかる経費補助	t	273.07	2500.00	682,675	
事業費		273.07	2,500	682,675	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出森林の所在地（中知山）	搬出経費	t	88.60	2,500	221,500	
	計		88.60	2,500	221,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出森林の所在地（神屋）	搬出経費	t	20.16	2,500	50,400	
	計		20.16	2,500	50,400	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出森林の所在地（神屋）	搬出経費	t	16.07	2,500	40,175	
	計		16.07	2,500	40,175	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出森林の所在地（美旗中村）	搬出経費	t	3.67	2,500	9,175	
	計		3.67	2,500	9,175	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出森林の所在地（神屋）	搬出経費	t	27.39	2,500	68,475	
	計		27.39	2,500	68,475	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出森林の所在地（布生）	搬出経費	t	111.45	2,500	278,625	
	計		111.45	2,500	278,625	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
未利用間伐材搬出森林の所在地（長瀬）	搬出経費	t	5.73	2,500	14,325	
	計		5.73	2,500	14,325	

第７号様式（その２）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
3	人家裏危険木伐採事業				
事業費	2,282,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,500,424	781,576	0

1. 事業の目的

人家裏にある危険木を伐採することで、災害を未然に防止し住民の通常の暮らしの安全・安心を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

人家裏にあり、災害時等に倒木の危険がある木で、おおむね樹高が人家と木との距離以上の木の伐採について、伐採に要する費用のうち１本あたり10,000円以内で助成を行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域住民

【補助率等】

１本あたり10,000円以内での補助（１か所当たり上限 300,000円）

【箇所数】

13箇所

【事業量】

230本の危険木を伐採

【事業実施期間】

令和2年4月1日～令和3年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

13世帯

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

補助事業申請から人家裏にあり、災害時等に倒木の危険がある木で、おおむね人家と木との距離が樹高以下の木を選定

【事業実施により得られた効果】

災害時等に人家に危険を及ぼす恐れのある樹木の伐採により、災害を未然に防止し、住民の通常の暮らしの安全・安心が確保された。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

森林所有者によって管理

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

補助事業実施者からは、本補助事業によって「実施前は災害のたび倒木の心配をしていたが、今では安全な生活をおくることができている。」などの反応があった。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	名張市

番号	事　業　名				
3	人家裏危険木伐採事業				
事　業　費	2,282,000　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,500,424	781,576	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

補助事業のため該当しない。

【契約方法と落札率または補助率等】

１本あたり10,000円以内での補助（１か所当たり上限 300,000円）

【契約相手方の選定理由】

補助事業のため、該当しない。

【事業費の積算根拠】

参考見積りによる。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

市内13の地域で事業を実施し、幅広く受益を受けることができた。

【公的関与の必要性】

災害を未然に防止し住民の通常の暮らしの安全・安心を図るため、市が関与し実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者が適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市のホームページ
広報誌掲載	実施前・中・後	市の広報誌（広報なばり）
のぼり設置	実施中	伐採箇所
パネル展示	実施前後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	名張市

事業名	人家裏危険木伐採事業

7. 写真



写真１
事業実施前（上三谷）

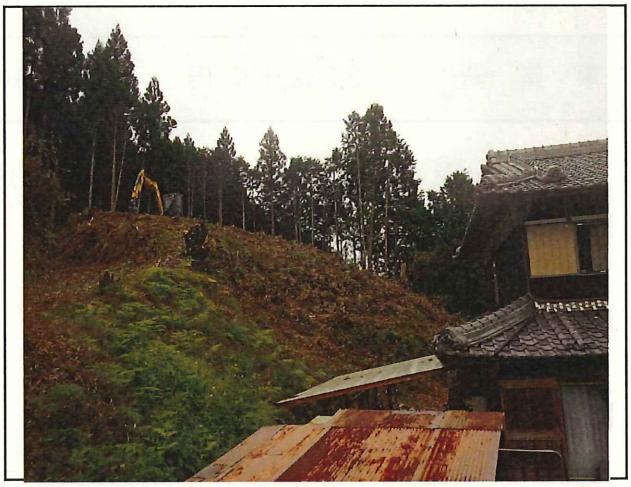


写真2
事業実施後（上三谷）



写真3
事業実施前（赤目町一ノ井）



写真4
事業実施後（赤目町一ノ井）



写真5
事業実施前（滝之原）



写真6
事業実施後（滝之原）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	名張市

事業名	人家裏危険木伐採事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
人家裏危険木伐採事業	一式	1.00	212,000	212,000	２３本伐採
人家裏危険木伐採事業	本	207.00	10,000	2,070,000	1本1万円以上
事業費	本	230		2,282,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
安部田	人家裏危険木伐採	本	23.00	9,217	212,000	消費税込み
	計				212,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
安部田	人家裏危険木伐採	本	1.00	10,000	10,000	消費税込み
	計				10,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
滝之原	人家裏危険木伐採	本	22.00	10,000	220,000	消費税込み
	計				220,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
奈垣	人家裏危険木伐採	本	10.00	10,000	100,000	消費税込み
	計				100,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
奈垣	人家裏危険木伐採	本	20.00	10,000	200,000	消費税込み
	計				200,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
上三谷	人家裏危険木伐採	本	30.00	10,000	300,000	消費税込み
	計				300,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
赤目町一ノ井	人家裏危険木伐採	本	12.00	10,000	120,000	消費税込み
	計				120,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
短野	人家裏危険木伐採	本	30.00	10,000	300,000	消費税込み
	計				300,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
夏秋	人家裏危険木伐採	本	5.00	10,000	50,000	消費税込み
	計				50,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
薦生	人家裏危険木伐採	本	2.00	10,000	20,000	消費税込み
	計				20,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
赤目町長坂	人家裏危険木伐採	本	30.00	10,000	300,000	消費税込み
	計				300,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
滝之原	人家裏危険木伐採	本	30.00	10,000	300,000	消費税込み
	計				300,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
奈垣	人家裏危険木伐採	本	15.00	10,000	150,000	消費税込み
	計				150,000	

第７号様式（その２）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
4	災害からライフラインを守る事前伐採事業				
事業費	495,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			495,000	0	0

1. 事業の目的

電力会社等と市町及び県が連携して、台風等における倒木被害からライフラインを守るため、危険木と想定される立木等の事前伐採を行い、安心安全な市民生活を確保する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

各地区の要望等を把握し、電力会社等及び三重県と連携して、台風などの倒木被害によりライフラインを寸断する恐れのある危険木の事前（計画）伐採を実施した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張市

【補助率等】

全事業費のうち、4分の1を市負担とする。（電力会社1/2,県1/4,市1/4)

【箇所数】

１箇所　名張市 夏秋 地内

【事業量】

立木伐採 616本、Ｌ＝115m、W18m　　1,980,000円

【事業実施期間】

令和２年６月24日～令和３年２月19日

【受益者、参加者、利用者数等】

ライフラインの保全により未然に停電を防いだ地区住民

緑が丘 2,283人、八幡 142人、夏秋 64人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

令和2年8月28日に開催した令和2年度名張市災害からライフラインを守る事前伐採推進協議会において、三重県及び名張市、電気事業者の3者で協議の上決定した。

【事業実施により得られた効果】

台風等の災害が発生した場合のライフラインの寸断を未然に防ぐことができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

森林所有者によって適切に管理される

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

地元住民からは「災害が発生しても停電の心配がなくなって嬉しい。また、道路の見通しも良くなった。」との反応があった。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	名張市

番号	事　業　名				
4	災害からライフラインを守る事前伐採事業				
事　業　費	495,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			495,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託事業

【実施方法の選定理由】

危険木の伐採には高度な技術と資格が必要であるため

【契約方法と落札率または補助率等】

条件付き一般競争入札、落札率 77.25%

【契約相手方の選定理由】

契約相手方の落札により決定

【事業費の積算根拠】

3者見積もりによる

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

重要な主要電線に沿った箇所で事業を実施したことで、多くの住民が受益を受けた

【公的関与の必要性】

三重県及び名張市はライフラインを保全することで、災害に備え住民の安全な生活を守る必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者が適切に管理する

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市のホームページ
のぼり設置	実施中	整備箇所
チラシ配布	実施前	地域住民への事業実施の周知
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	名張市

事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業

7. 写真



写真１
事業実施前（名張市 夏秋 地内）



写真2
事業実施前（名張市 夏秋 地内）



写真3
事業実施中（名張市 夏秋 地内）



写真4
事業実施中（名張市 夏秋 地内）



写真5
事業実施後（名張市 夏秋 地内）



写真6
事業実施後（名張市 夏秋 地内）

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり

市町名	名張市

事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
災害からライフラインを守る事前伐採事業	式	1.00	1,980,000	1,980,000	
事業費				1,980,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
災害からライフラインを守る事前伐採事業	胸高直径 10cm未満	本	288.00		1,980,000	入札によるため
	胸高直径 10cm以上16cm未満	本	107.00			単価の算出不可
	胸高直径 16cm以上22cm未満	本	69.00			
	胸高直径 22cm以上28cm未満	本	69.00			
	胸高直径 28cm以上	本	83.00			
	諸経費	式	1.00			
	計				1,980,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	名張市

番号	事　業　名				
5	みて・さわって・森のわくわく体験事業				
事　業　費	373,560 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			373,560	0	0

1. 事業の目的

上野森林公園内の探検や木製品の製作を通し、森の豊かな自然に親しみふれあう、野外体験保育を実施する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

公立保育所４施設と公立幼稚園２園が３グループに分かれ、上野森林公園を探検したり、自然の物を使って製作を楽しんだ。（①名張幼稚園・桔梗南幼稚園　②赤目保育所・錦生保育所　③薦原保育所・大屋戸保育所）

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張市

【補助率等】

補助事業ではないため該当しない。

【箇所数】

公立保育所4箇所・公立幼稚園2箇所

【事業量】

各グループ年１回実施

上野森林公園内の探索（五感で自然を体験する活動）と、保育所間の交流を図った。

上野森林公園内での製作（自然の物を使った作品づくり）を体験した。

【事業実施期間】

令和2年4月1日～令和3年3月31日（10月21日、22日、27日に野外体験実施）

【受益者、参加者、利用者数等】

錦生保育所　10名(内3名職員)、赤目保育所　25名(内4名職員)、桔梗南幼稚園　27名(内5名職員)

大屋戸保育所　20名(内4名職員)、薦原保育所　8名(内2名職員)、名張幼稚園　32名(内5名職員)

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

上野森林公園では職員により、上野森林公園内の探検や木製品の製作時に森林や木々の形状、香り、肌触りについて講義を行っていただくことができる。

【事業実施により得られた効果】

森林公園での体験を通して、森林への興味関心を持つ素地を育成することができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

施設等整備ではなく、該当しない。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

参加した児童からは、「またお父さん、お母さんと来る」というような声が聞かれ、次も楽しみにしている姿が見られた。また、保護者からも「自然の中で気持ちよく普段できないあそびを楽しむことができました。自然の中で過ごすことで新たな発見や経験をさせて頂きました。」という声が聞かれた。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	名張市

番号	事　業　名				
5	みて・さわって・森のわくわく体験事業				
事　業　費	373,560 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			373,560	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

借り上げたバスで上野森林公園まで移動し、森林公園の職員から森についての講義を受けた。

【実施方法の選定理由】

上野森林公園では職員により、上野森林公園内の探検や木製品の製作時に森林や木々の形状、香り、肌触りについて講義を行っていただくことができる。
バス借り上げについては賃借料、講師費用については報償費として支払った。

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約

【契約相手方の選定理由】

森林公園内の探索ができ、講義を受けることができるため。

【事業費の積算根拠】

事業者の参考見積による

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

市内の公立保育・幼稚園児が参加した。

【公的関与の必要性】

森林環境教育の推進を図るため、市が関与し実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設等整備ではなく、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市のホームページ
学校だより等掲載	実施後	園のたよりで掲示・紹介
パネル展示	実施後	各施設のテラス
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	名張市

事業名	みて・さわって・森のわくわく体験事業

7. 写真



写真１
出発前の記念撮影



写真2
森林公園内探索

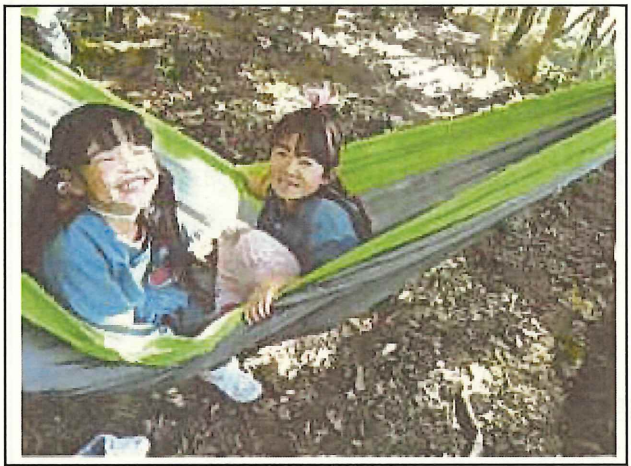


写真3
森の遊園地（ハンモック）



写真4
森の遊園地（どんぐり探し）



写真5
森の遊園地（ロープの綱渡り）

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	名張市

事業名	みて・さわって・森のわくわく体験事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
森林公園バス研修	式	1.00	373,560	373,560	
事業費				373,560	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
自然体験プログラム実施講師謝礼	報償費	式	4.00	15,000	60,000	
	消費税額				6,000	
	計				66,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
自然体験プログラム参加費	参加費	式	99.00	400	39,600	
	消費税額				3,960	
	計				43,560	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
自然体験プログラム実施自動車借上げ料(10/21)	自動車借上げ料（大型）	式	1.00	60,000	60,000	
	消費税額				6,000	
	自動車借上げ料（中型）	式	1.00	50,000	50,000	
	消費税額				5,000	
	計				121,000	

も「自然の中で気	名称	単位	数量	単価	金額	備考
自然体験プログラム実施自動車借上げ料(10/22)	自動車借上げ料（大型）	式	1.00	69,000	69,000	
	消費税額				6,900	
	計				75,900	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
自然体験プログラム実施自動車借上げ料(10/27)	自動車借上げ料（大型）	式	1.00	61,000	61,000	
	消費税額				6,100	
	計				67,100	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
6	学校林整備事業				
事業費	400,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			400,000	0	0

1. 事業の目的

これまで放置され、荒廃が進んでいた学校林を整備することにより、小学生が学校生活において森林に親しむ豊かな環境を再生し、森林や緑に対する理解を深める機会を創出する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

小学校の荒廃していた学校林において、危険木や枯損木の除伐、歩道の整備、古タイヤを活用した遊具などの整備を行った。さらに、整備した学校林において、木育体験として間伐体験を実施することで森林の手入れの重要性等を学習し、森林や緑に対する理解をより深めた。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

薦原地域づくり委員会

【補助率等】

全額補助

【箇所数】

１箇所（薦原小学校 学校林）

【事業量】

学校林までのアクセス道整備、山林広場整備

「森の先生」を招いて間伐の見学や丸太運び体験の実施

学校林面積　1,334㎡

【事業実施期間】

令和2年4月1日～令和3年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

受益者：学校林を活用する薦原保育所・薦原小学校の児童、PTA、地域団体　約200名

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

学校林を有しており、学校から要望があったため実施した。

【事業実施により得られた効果】

学校林を整備したことにより、学校林を活用した森林環境教育を行うことができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

学校林は今後も地域づくり組織等により、継続的に整備を行い、環境教育を行うフィールドとして引き続き活用していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

参加児童は林業を体験する貴重な機会となった。学校関係者、地域ボランティアが多く参加し、整備した学校林を教育活動を行うことができる有益な場とすることができた。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
6	学校林整備事業				
事業費	400,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			400,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

補助事業のため該当しない。

【契約方法と落札率または補助率等】

全額補助

【契約相手方の選定理由】

補助事業のため、該当しない。

【事業費の積算根拠】

地域づくり組織が徴取した参考見積りによる。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

薦原小学校の児童のみでなく薦原保育所の児童も森林環境教育の場として活用した。また、市内の保育士への森林環境教育研修の会場としても活用した。

【公的関与の必要性】

森林環境教育の推進を図るため、市が関与し実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

所有者から学校林として継続使用することについて了承を得ており、今後も学校林として学校や地域が適切に管理していく。また、既に数十年の間、学校林として提供を受けており、今後も学校林として学校授業などで継続利用していく予定であり、転用などは想定していない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市のホームページ
広報誌掲載	実施前	市の広報誌（広報なばり）
のぼり設置	実施中	整備箇所（学校林内）
標識・標柱等設置	実施中・後	整備箇所（学校林内）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	名張市

事業名	学校林整備事業

7. 写真



写真１
森の先生による授業



写真2
森の先生による授業



写真3
間伐材を利用したコースターの作成



写真4
間伐材を利用したコースターの作成



写真5
整備後の学校林



写真6
整備後の学校林

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	名張市

事業名	学校林整備事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
学校林整備	式	1.00	400,000	400,000	
事業費				400,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
学校林整備	学校林整備	式	1.00	400,000	400,000	
	計				400,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
7	森林環境教育推進事業				
事業費	100,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			100,000	0	0

1. 事業の目的

全国的に森林環境教育の重要性が高まる中で、初等教育の過程において森林・自然への理解や関心を高めるため、地区の自治協議会が小学校で森林教育を行う場合に補助する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内小学校で実施する、森林公園・学校林等でのフィールドワークなどの体験型学習及び森林の公益的機能に関する学習会等、森林環境教育として相応しい活動内容の事業に対し、活動費用の補助を行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

桔梗が丘自治連合協議会

【補助率等】

定額補助　ただし、１校につき100,000円を上限とする。

【箇所数】

1校（桔梗が丘南小学校）

【事業量】

1校（桔梗が丘南小学校）　補助事業費：100,000円

【事業実施期間】

令和2年4月1日～令和3年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

受益者：桔梗が丘南小学校　4,5,6年生　95名　参加したボランティアスタッフ　62名

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

桔梗が丘地内の小学生に自然環境の大切さ、里山の役割について学習の機会を設けるとともに、その保全の取り組みについて理解を深めるため。

【事業実施により得られた効果】

森林環境教育を受けた児童及びボランティアスタッフが、森林・自然への理解と関心を深めることができた。また、地域づくり協議会を中心としたボランティアスタッフが率先して、森林・自然を通し地域の小学生と交流する機会となった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

施設等整備ではなく、該当しない。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

児童は豊かな自然環境の中でのクイズラリーや木工体験に真剣に取り組み、ボランティアで参加した地域住民とも交流を深めることができた。先生方からも「貴重な機会をいただき大変ありがたい。今後も継続してほしい。」との声をいただいた。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
7	森林環境教育推進事業				
事業費	100,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			100,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

補助事業のため該当しない。

【契約方法と落札率または補助率等】

全額補助

【契約相手方の選定理由】

補助事業のため、該当しない。

【事業費の積算根拠】

桔梗が丘自治連合協議会が徴取した参考見積りによる。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

森林環境教育を受けた、桔梗が丘東小学校の3,4年生のみならずボランティアに参加した桔梗が丘地内の住民も幅広く受益を受けた。

【公的関与の必要性】

森林環境教育の推進を図るため、市が関与し実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設等整備ではなく、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市のホームページ
のぼり設置	実施中	整備箇所（森林公園内）
チラシ配布	実施中	保護者等（缶バッチの配布）
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町村	名張市

事業名	森林環境教育推進事業

7. 写真

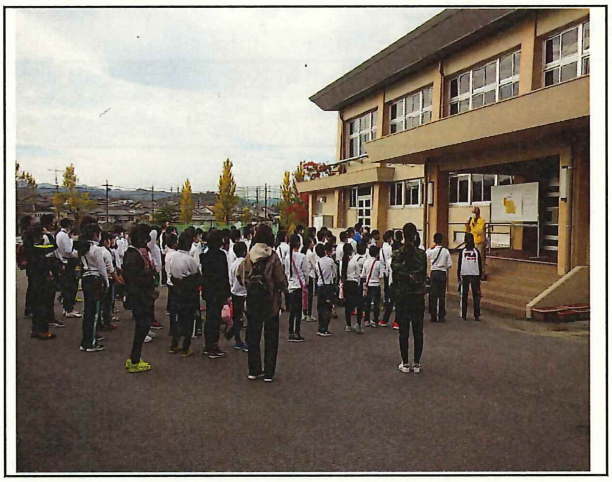


写真1
桔梗南小生徒　集合



写真2
東山ふれあいの森へ出発



写真3
東山ふれあいの森内に設置された問題に挑戦



写真4
東山ふれあいの森観察しながら歩く



写真5
チェーンソーの使い方を教わる



写真6
大勢のボランティアスタッフも参加

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	名張市

事業名	森林環境教育推進事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
森林環境教育推進事業	式	1.00	100,000	100,000	
事業費				100,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
森林環境教育推進事業	学習用資材等購入費	式	1.00		100,062	
	自己資金による減額	式	1.00		-62	
	計				100,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
8	県産材に親しむことができる木育推進事業				
事業費	847,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			847,000	0	0

1. 事業の目的

現在、子ども、特に就学前児童にとっては、身の回りの机やいす、遊具などさまざまなものが身近にある木々からできることを実感する機会がほとんど無い状況である。

県産材を用いた備品・遊具等を保育所等に設置することで、身近な森林にある木々が工夫次第でさまざまな形に変えて利用できることを実感できるような木育を実施し、積極的に森林や木々に関わることができる発想豊かな子どもを育てる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

鷹原保育所に三重県産材を使用した遊具を設置した。また名張市内の公立保育所4箇所及び公立幼稚園2箇所で木育の授業を実施した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張市

【補助率等】

補助事業ではないため該当しない。

【箇所数】

遊具の設置　1箇所（鷹原保育所）、　木育の授業　公立保育所4箇所及び公立幼稚園2箇所

【事業量】

木製遊具の設置、木育の授業

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

公立保育所4箇所　約190名、公立幼稚園2箇所　約120名、職員及び保護者等

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

保育等を担当する部署（福祉子ども部保育幼稚園室）が、各公立保育所及び公立幼稚園に要望調査を行い、選定した。

【事業実施により得られた効果】

○県産材に触れ、親しむことができた。　○身近な木々が、さまざまな物になり活用できることを知った。　○既製品にはない形状・香り・肌触りを通して五感を刺激し、記憶にとどめることができた。　○安らぎある空間の整備ができた。
○県産が活用されていることを知った子どもが保護者など周りの大人に伝える効果があった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

今後も導入した遊具を活用するとともに、木育に取り組んでいく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

保育所で働く職員から「木製品の木の温かみに触れる機会が増えることは子供にとって良いことです。」と好評を得た。
また木育の授業を受けたこどもたちから「森がいろんな仕事をしてくれていることがわかった。」との感想があった。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
8	県産材に親しむことができる木育推進事業				
事業費	847,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			847,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

市による委託契約

【実施方法の選定理由】

公立保育所の備品の購入であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約

【契約相手方の選定理由】

安全性の高い県産材を用いた木製備品・遊具等の納品ができるため。

【事業費の積算根拠】

事業者の参考見積による

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

公立保育所4箇所　約190名、公立幼稚園2箇所　約120名、職員及び保護者等

【公的関与の必要性】

公立保育所等の管理者である市が管理していく。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

保育所備品であるため転用などが想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市のホームページ
広報誌掲載	実施前・中	市の広報誌（広報なばり）
学校だより等掲載	実施後	園のたよりで掲示・紹介
パネル展示	実施後	各施設のテラス
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市

事業名	県産材に親しむことができる木育推進事業

7. 写真



写真１
木製遊具の設置



写真2
木製遊具の設置



写真3
木製遊具で遊ぶこどもたち



写真4
木育の授業



写真5
木育の授業



写真6
木育の授業

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	名張市

事業名	県産材に親しむことができる木育推進事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
備品購入費	式	1.00	847,000	847,000	
事業費				847,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
遊具の購入	備品購入費	式	1.00	770,000	770,000	
	消費税額				77,000	
	計				847,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
9	森と人をつなぐ憩いの空間作り事業				
事業費	1,564,200 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,564,200	0	0

1. 事業の目的

乳児期から木の薫る空間に触れ親しむことで、木々を身近に感じられるように県産材を使用した授乳室（授乳・おむつ交換の場）を庁舎内に設置する。また、授乳室内外にパネルを展示し、利用する保護者に森の働きやみえ森と緑の県民税の活用について伝え、木材の良さや利用の意義を周知する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

県産材を使用した授乳室（授乳・おむつ交換の場）を庁舎内に設置し、森林の働きやみえ森と緑の県民税の活用方法などをパネル展示した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張市

【補助率等】

補助事業ではないため該当しない。

【箇所数】

１箇所

【事業量】

木製授乳室１棟、椅子等

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

庁舎を利用する　親子　1日平均５組程度、　　1年間の開庁日　260日×５組＝1,300組/年

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

保育等を担当する部署（福祉子ども部保育幼稚園室）が、名張市役所内での授乳室の必要性を感じ、選定した。

【事業実施により得られた効果】

授乳室を利用することで、木々のぬくもりやリラックス効果を感じるとともに、付近に設置した森の働きやみえ森と緑の県民税の活用方法についてのパネルを目にすることで事業の意義を知る機会となった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

今後も木材の良さや森林の働きについて学ぶ場として活用していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

授乳室の利用者から「木製品の木の温かみがあり、リラックスすることができる。」と好評を得た。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	名張市

番号	事　業　名				
9	森と人をつなぐ憩いの空間作り事業				
事　業　費	1,564,200 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,564,200	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

市による委託契約

【実施方法の選定理由】

名張市の備品購入であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約

【契約相手方の選定理由】

安全性の高い県産材を用いた木製備品等の納品ができるため。

【事業費の積算根拠】

事業者の参考見積による

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

庁舎を利用する　親子　1日平均5組程度、　　1年間の開庁日　260日×5組＝1,300組/年

【公的関与の必要性】

庁舎内の設備のため市が管理していく。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市の所有であるため、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市のホームページ
広報誌掲載	実施後	市の広報誌（広報なばり）
のぼり設置	実施後	授乳室付近
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	名張市

事業名	森と人をつなぐ憩いの空間作り事業

7. 写真



写真１
授乳室の設置



写真2
授乳室の設置

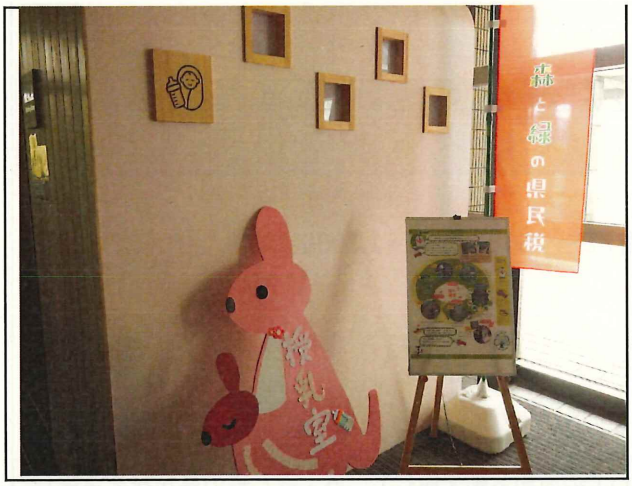


写真3
授乳室の設置



写真4
授乳室の設置

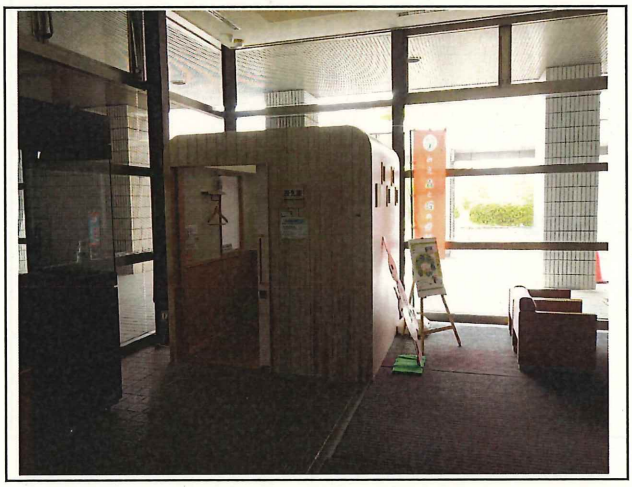


写真5
授乳室の設置



写真6
授乳室の設置

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	名張市

事業名	森と人をつなぐ憩いの空間作り事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
備品購入費	式	1.00	1,564,200	1,564,200	
事業費				1,564,200	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
授乳室本体の購入	備品購入費	式	1.00	1,180,000	1,180,000	
	消費税額				118,000	
	計				1,298,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
授乳室内の家具等の購入	備品購入費	式	1.00	242,000	242,000	
	消費税額				24,200	
	計				266,200	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計				0	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
10	森林公園等環境活用整備事業				
事業費	780,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			780,000	0	0

1. 事業の目的

市民の憩いの場である森林公園などを地域住民らによるボランティアで整備することにより、住民の森林や緑に対する理解をさらに深めるとともに、自然に親しむ豊かな生活環境を作る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

事業内容は次の通り。

① 東山ふれあいの森：多くの住民が自然に親しむ公園として利用できるよう、公園内の倒木等の整理、除草作業などを行った。

② 桔梗が丘地内の森林公園：森林環境教育や地域のイベントなどに利用できるよう、ナラ枯れなどによる枯れ木や倒木の整理、遊歩道の整備、植樹などを行い、里山としての保全活動を進めた。

③ 箕曲地内の森林：森林環境教育の一環として、小学生などが箕曲地内の森林内を散策できるよう、遊歩道の整備、草刈、枯れ木の伐採を行った。また憩いの場作りのためのベンチを設置した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内地域づくり組織（ひなち地域ゆめづくり委員会、桔梗が丘自治連合協議会、箕曲地域づくり委員会）

【補助率等】

定額補助（上限300千円）ひなち地域ゆめづくり委員会ー240千円、桔梗が丘自治連合協議会ー240千円、箕曲地域づくり委員会ー300千円

【箇所数】

３箇所

【事業量】

東山ふれあいの森　倒木等の整理、除草作業（延べ作業人数45名）

桔梗が丘地内の森林公園　枯れ木や倒木の整理、遊歩道の整備、植樹（約16名のスタッフにて年間21回の保全活動）

箕曲地内の森林　遊歩道の整備、草刈、枯れ木の伐採、ベンチの設置（延べ作業人数32名）

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

整備によって森林に親しむ豊かな生活環境が向上する地域住民：　比奈知地域：人口 1,248 人、 587 世帯　桔梗が丘：人口 8,576 人、 3,871 世帯　　箕曲地域：人口 2,773 人、 1,396 世帯（名張市統計書2020版）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

地域づくり組織からの補助申請箇所について、職員が書類確認、聞き取り、現地確認等により現状を把握し、実施の必要性を検討して交付を決定している。

【事業実施により得られた効果】

森林公園の整備を住民主体の地域づくり活動の一環として実施することにより、市民が身近な森林に愛着や親しみを持ち、優しく公園を利用し、こころ豊かな生活が送れるようになった。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
10	森林公園等環境活用整備事業				
事業費	780,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			780,000	0	0

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

今回の整備によって、身近な森林公園の整備の必要性を再認識しており、今後も引き続き、地域づくり組織によって実施後の状況が保たれるよう管理する。購入した備品は今後も公園の管理に活用される。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

地域づくり組織からは、「地域内の森林や森林公園の整備を行うことで、地域住民の交流が増え、地域住民同士の親交を深めることができたと感じる。」「子どもたちの森林環境教育に活用することができ、森の役割や大切さを感じてもらえる。」との声をいただいている。

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

地域住民が自ら整備することにより、地域で親しまれ、使いやすい森林公園になる。また、地域住民が公園に愛着を持つことで、より公園を大切にしていくきっかけとなる。

【契約方法と落札率または補助率等】

補助率：定額補助（森林公園等を地域づくり組織が自ら整備し、維持し、又は管理する事業に要する経費）

【契約相手方の選定理由】

補助事業であるため、該当しない。

【事業費の積算根拠】

森林公園等を地域づくり組織が自ら整備し、維持し、又は管理する事業に要する経費を補助対象としており、職員が書類により支出内容を確認している。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

事業は地元住民のボランティア活動によって実施。

整備によって森林に親しむ豊かな生活環境が向上する地域住民：比奈知地域：人口 1,248 人、 587 世帯　桔梗が丘：人口 8,576 人、 3,871 世帯、　箕曲地域：人口 2,773 人、 1,396 世帯（名張市統計書2020版）

【公的関与の必要性】

実施箇所は市の所有地や都市公園のため、公的関与の必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

実施箇所は市の所有地や都市公園のため、転用等の可能性は無い。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
10	森林公園等環境活用整備事業				
事業費	780,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			780,000	0	0

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市のホームページ
チラシ配布	実施後	地域づくり住民
のぼり設置	実施中	整備箇所
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市

事業名	森林公園等環境活用整備事業

7. 写真



写真１
草刈作業【東山ふれあいの森】



写真2
伐木の運搬作業【東山ふれあいの森】



写真3
遊歩道の整備【桔梗が丘地内の森林公園】



写真4
植樹作業【桔梗が丘地内の森林公園】



写真5
枯木伐採作業【箕曲地内の森林】



写真6
ベンチの設置【箕曲地内の森林】

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	名張市

事業名	森林公園等環境活用整備事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
東山ふれあいの森整備	箇所	1.00	240,000	240,000	
桔梗が丘地内の森林公園整備	箇所	1.00	240,000	240,000	
箕曲地内の森林	箇所	1.00	300,000	300,000	
事業費			780,000	780,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
東山ふれあいの森整備	備品整備費用	式	1.00		240,000	消費税込み
	消耗品等購入費	式	1.00		5,874	消費税込み
	自己資金による減額				-5874	
	計				240,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
桔梗が丘地内の森林公園整備	資材・消耗品等購入費	式	1.00		174,673	消費税込み
	機械等備品購入費	式	1.00		65,450	消費税込み
	自己資金による減額				-123	
	計				240,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
箕曲地内の森林	苗木代	式	1.00		5,858	消費税込み
	肥料・薬剤費	式	1.00		16,280	消費税込み
	用具代	式	1.00		25,537	消費税込み
	ベンチ設置費	式	1.00		14,800	消費税込み
	進入路整備費	式	1.00		275,000	消費税込み
	自己資金による減額				-37,475	
					300,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
11	桜並木保全管理事業				
事業費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0

1. 事業の目的

樹勢が衰え開花状況が悪くなった名張中央公園の桜並木に、地域住民らが専門家の意見を参考にボランティアとして施肥することにより、住民の森林や緑を思う気持ちの醸成や身近な緑に親しむ機会を創出する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

毎年多くの市民が参加する「名張桜まつり（令和2年度は新型コロナウイルスの影響で中止）」の会場である名張中央公園の桜並木の樹勢が衰え、開花状況が悪くなっている。地域住民から子どもを中心に参加者を募り、ボランティア活動によって施肥を行うことで、森林を思う気持ちの醸成や樹木も適切に管理しなければ枯れてしまうこと、身近な森林に親しむためには手入れが必要であることが実感できる機会を創出した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

名張桜まつり実行協議会

【補助率等】

定額補助（上限300千円）

【箇所数】

１箇所（名張中央公園）

【事業量】

保全活動一式（施肥、薬剤散布）　300千円

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

名張中央公園を利用する市民

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

毎年、多くの市民が参加する「名張桜まつり（令和２年度は新型コロナウイルスの影響で中止）」において、来場者に美しい桜を見ることで自然に親しんでもらうため。

【事業実施により得られた効果】

名張桜まつり実行協議会を主体に多くの市民ボランティアの参加により、樹勢の衰えた桜の木に施肥を実施することができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

今後も名張桜まつり（令和２年度は新型コロナウイルスの影響で中止）の開催を通じて、市民が自然に親しむことのできる機会を創出していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

参加したボランティアからは、「名張の春の風物詩である桜まつりの開催に一役買うことができて良かった。」との声も聞かれた。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	名張市

番号	事業名				
11	桜並木保全管理事業				
事業費	300,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			300,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

補助事業のため該当しない。

【契約方法と落札率または補助率等】

全額補助

【契約相手方の選定理由】

補助事業のため該当しない。

【事業費の積算根拠】

事業者の参考見積による

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

多くの市民ボランティアが参加し、名張中央公園を利用する市民が受益を受けた。

【公的関与の必要性】

「名張桜まつり」は市主催のイベントであり、桜を満開にしイベントを成功させる為に市が関与し実施する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設等整備ではなく、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	市のホームページ
広報誌掲載	実施前	市の広報誌（広報なばり）
のぼり設置	実施中	整備箇所
標識・標柱等設置	実施中・後	整備箇所
チラシ配布	実施前	地域住民へのボランティア参加募集
パネル展示	実施後	市庁舎、県庁舎、イベント会場

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	名張市

事業名	桜並木保全管理事業

7. 写真

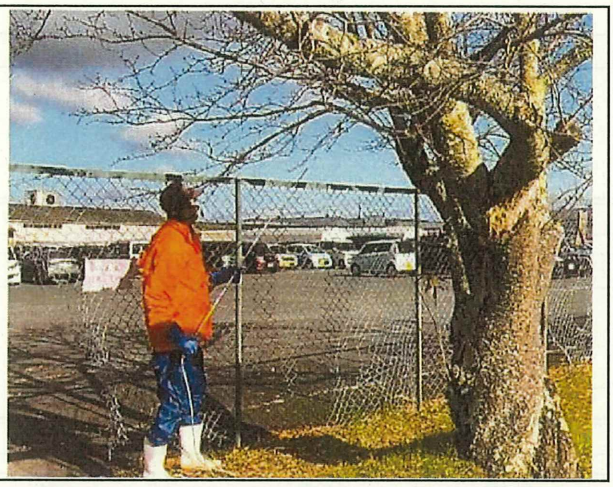


写真１
苔落とし作業



写真2
ボランティアスタッフによる薬剤散布作業



写真3
ボランティアスタッフによる薬剤散布作業



写真4
ボランティアスタッフによる薬剤散布作業

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	名張市

事業名	桜並木保全管理事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
桜並木保全管理事業	式	1.00	300,000	300,000	
事業費				300,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
桜並木保全管理事業	肥料・薬剤購入費	式	1.00		300,000	
	計				300,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

伊賀市

令和2年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報

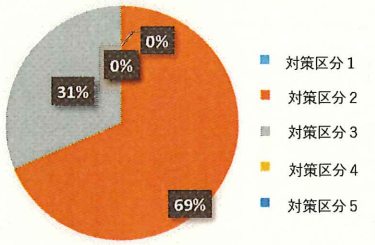
市町名	伊賀市	三重県
人口（人）	86,306	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	11.2%	12.4%
森林面積(ha)	33,952	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	32,599	348,833.49
森林率(%)	61.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	12.1	10.1

＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	2	みんなの里山整備活動推進事業	5,800,000	5,800,000		5,800,000				
2	2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業	5,836,810	5,836,810		5,836,810				
3	3	親子ではじめる木育推進事業	2,334,650	2,334,650			2,334,650			
4	3	伊賀の森っこ育成推進事業	1,782,037	1,782,037			1,782,037			
5	3	地域の森と緑のつながり支援事業	500,000	500,000			500,000			
6	3	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）	700,000	700,000			700,000			
7	－	みえ森と緑の県民税市町交付金基金積立事業	2,345,503	2,345,503						2,345,503
計			19,299,000	19,299,000	0	11,636,810	5,316,687	0	0	2,345,503

３．　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量（ha・m）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業	25.15	7,810,000	7,810,000	間伐実施
森林再生力強化対策事業	－	－	－	－
災害からライフラインを守る事前伐採事業	－	－	－	－

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	当市の森林面積率は、61%であり、周囲が森林に囲まれた立地にある。そのような背景を踏まえ、災害に強い森林づくりと住民全体で森林を支える仕組みづくりの両立を図ることが必要であることから、暮らしに身近な森林を住民自らの手で整備する事業を推進しているとともに、木育を始めとして森林や緑を大切に思う人づくりに繋がる教育活動を支援する事業を推進している。
事業実施により得られた効果	みんなの里山整備活動推進事業では、事業を通して地域の山林として位置づけることで、維持管理する方向性が地区等で拡がっている。未利用間伐材バイオマス利用推進事業においても、木材搬出量が年々増加傾向にあり、災害に強い森林づくりのみならず、森林所有者が間伐作業へ携わる機会の増大に貢献している。木育関連事業で実施したアンケートでは、木のぬくもりの良さについて回答する意見も見受けられ、森林の持つ重要性についての周知が進んでいる。
情報発信への取組	みえ森と緑の県民税の認知度をより高めるため、今年度は２回の時期に分けて、市内で放映されるＣＡＴＶ（伊賀上野ケーブルテレビ）を活用して、みえ森と緑の県民税の目的や必要性を周知した。伊賀市では、木育から森林整備まで幅広く事業展開している市町交付金事業の全事業について紹介し、中でも、「森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）」の紹介では、生徒がプレゼンテーションしている様子の写真や完成品の写真、配置箇所等を説明し、県民税を身近に感じられる内容で周知した。 また、今年度は新型コロナウイルス感染症対策の観点から、市内の農産物等イベントへの木育ブース出展による情報発信活動は中止となったが、みえ森と緑の県民税に関するアンケート等を実施したほか、伊賀市役所庁舎内にて、木製品の展示と合わせて木使いの重要性を伝えるパネル展示、みえ森と緑の県民税に関するパネル展示を三重県伊賀農林事務所と共同で実施し、森林の重要性とともに県民税の周知に努めた。

（参考資料）

令和２年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		（円）	内、譲与税
1	③ 私有林整備	12,089,000	12,089,000
2	⑦ その他（森林整備）	9,630,000	9,630,000
3	① 意向調査の準備作業	3,021,000	3,021,000
4	⑰ 基金積立（森林整備等）	31,489,000	31,489,000
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	56,229,000	56,229,000

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市

番号	事　業　名				
1	みんなの里山整備活動推進事業				
事　業　費	5,800,000　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			5,800,000		

1. 事業の目的

地域住民の主体的な参加のもと、地域や生活に密着した緑の環境づくりや里山・竹林を再生するために自治会等が行う活動に対して支援することにより、身近な里山環境を豊かにすること及び地域住民による持続的な森を支える社会づくりの形成を目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

緑の環境づくりや生活に密着した里山の再生、荒廃竹林や危険木伐採を行う自治会等の地域ボランティア活動に対して、その活動に必要な費用を補助金（上限250,000円/団体）として交付する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域住民が組織する自治会等の団体

【補助率等】

対象活動に必要な用具・燃料費等の活動経費　10/10　（ただし。上限25万円/団体）

【箇所数】

28箇所

【事業量】

支援予定地域団体数：28団体　整備面積：18.1ha

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

受益者：市内住民　活動団体数：28団体　　活動参加者：延べ人数1,067人

波及効果：地域の人々が身近な森林の整備を行うことで、幅広い人に森林への興味関心を育むことができた

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

補助金交付申請により、事業目的に沿ったものであるか判断した。

【事業実施により得られた効果】

既存の森林整備事業では整備が難しい暮らしに身近な里山等の整備を、地域住民の作業によって実施できた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

持続的に管理する地域の里山等として位置づけ、地域住民の生活環境に欠かせないものとして活用される。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

住民参加による森林整備の必要性に対する理解が深まり、継続的に取り組みたいとの声が多かった。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	伊賀市

番号	事　業　名				
1	みんなの里山整備活動推進事業				
事　業　費	5,800,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			5,800,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
自治会等から提出された補助金交付申請を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。
【実施方法の選定理由】
里山や竹林等を地域住民の手で再生していくため、補助金制度として運用している。
【契約方法と落札率または補助率等】
対象活動の用具費等経費10/10以内（ただし、上限25万円/団体）
【契約相手方の選定理由】
該当なし
【事業費の積算根拠】
対象活動の用具費等経費10/10以内（ただし、上限25万円/団体）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
地域住民で場所を選定し、主体的に整備することから、地域住民が幅広く利用できる事業である。
【公的関与の必要性】
地域の里山等として整備するため、特定の個人への利益となるものでなく、公的な支援が妥当である。
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
地域共有の場としての里山等を事業対象としているため、転用等は想定されない。
持続管理する必要性について指導している。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
TV（行政チャンネル等）	実施後	市民全体に取組事例を説明し、県民税の目的や必要性をPRした。
パネル展示	実施後	市民が行き交う場所に設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置した。
チラシ配布	実施前	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
のぼり設置	実施中	必要に応じて、事業箇所に県民税のぼりを設置し、周辺住民へのPRを図った。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2．暮らしに身近な森林づくり

市町名	伊賀市

事業名	みんなの里山整備活動推進事業

7．写真



写真1



写真2

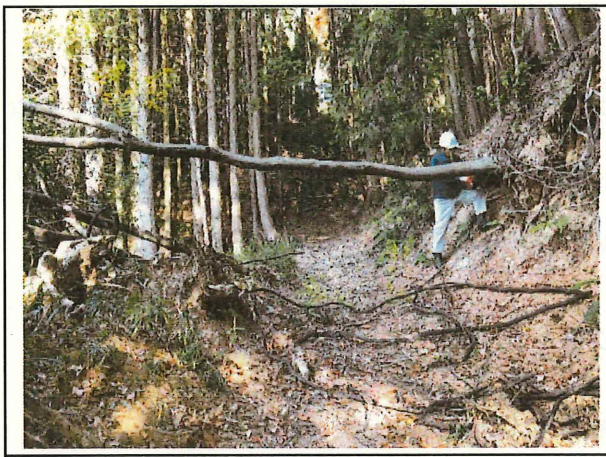


写真3



写真4



写真5

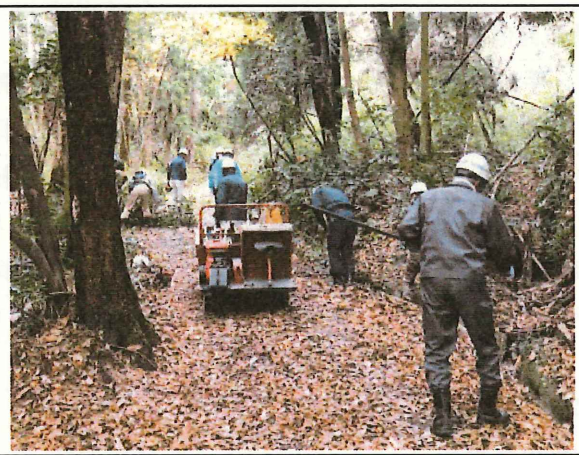


写真6

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	伊賀市

事業名	みんなの里山整備活動推進事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
みんなの里山整備活動推進事業補助金	団体	28.00	上限250,000円	5,800,000	
事業費				5,800,000	

作業内容	名称	人数	整備面積	活動内容	補助金額	備考
みんなの里山整備活動推進事業一覧	法花区	96	0.70	里山内登山道整備	250,000	
	下阿波区	14	0.05	危険木伐採	247,000	
	須原区	18	0.05	危険木伐採	250,000	
	音羽区	25	0.10	支障木除去	250,000	
	佐那具町自治会	38	0.50	支障木撤去、危険木伐採	126,000	
	坂下区	62	1.20	河川立木・土砂撤去立木伐採	250,000	
	中矢区	80	2.40	枯れ木、支障竹林除去	250,000	
	諸木区	20	0.60	荒廃竹林撤去、公園内竹林整備	161,000	
	妙楽地区	90	1.00	雑草木除去、道路支障木・倒木除去	249,000	
	勝地区	100	2.00	道路の雑木草の除去、道路の障害木・倒木処理	249,000	
	瀧区	11	0.10	危険木撤去	163,000	
	猪田大東区	42	0.50	里山内荒廃参道整備	42,000	
	奥馬野自治区	35	0.10	支障木撤去	132,000	
	小杉区	98	0.60	草刈り、支障木伐採	116,000	
	伊勢路区	25	0.50	通行支障木撤去、里山整備	250,000	
	大内区	17	1.00	倒木伐採	184,000	
	喰代区	25	0.50	支障木撤去	152,000	
	大江区	38		支障木伐採	250,000	
	上津地区住民自治協議会	14	0.03	支障木除去	210,000	
	鍛冶屋自治会	20	0.10	里山危険木撤去	240,000	
	西山自治会	74	0.65	里山内支障木撤去	250,000	
	中馬野区	15	0.10	里山周辺環境整備	249,000	
	東高倉区	36	5.50	里山内支障木t撤去	250,000	
	大字御代区	30	0.40	里山内荒廃竹林整備	250,000	
	中友田区	19	0.20	里山内危険木撤去、支障木処理	250,000	
	四十九町自治会	8	0.20	枝払い整備	250,000	
	北山区	17	0.05	支障木撤去	230,000	
	種生区	10	0.20	支障木撤去	50,000	
	計	1,077			5,800,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
事例① 大内区	危険木伐採工事費	1	式	ー	121,000	危険作業は業者委託可
	里山整備機械購入費	ー	ー	ー	56,200	チェーンソー、混合油、チップソーなど
	チェーンソー安全講習受講料	1	式	ー	5,000	
	傷害保険料	名	20.00	90	1,800	
	計				184,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
事例② 西山自治会	里山整備機械購入費	ー	ー	ー	194,744	
	機械レンタル料				124,621	
	計				319,365	

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	伊賀市

番号	事業名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事業費	5,836,810 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			5,836,810		

1. 事業の目的

森林所有者等による未利用間伐材の搬出を推進することにより、木質バイオマス資源の有効活用を図ると共に、森林所有者等の意識啓発や暮らしに身近な森林における林地残材の減少を図り森林整備の促進につなげる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

発電用チップに用いる間伐材等由来の木質バイオマス証明材を、市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業者に買い取ってもらうために必要な搬出及び運搬に要する経費の一部を助成する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

補助事業：森林所有者等

【補助率等】

補助率：　間伐材等由来の木質バイオマス証明材 １ｔ当り　2,500円

※当該年度における造林補助事業等の搬出材積として加算している間伐材を除く。

【箇所数】

補助申請毎の伐採届による間伐箇所と連動する。

【事業量】

補助事業：未利用間伐材搬出　2,333ｔ（前年：1,553t）　搬出件数　延べ30件　5,831,350円

補助事業推進にかかるアンケート実施　5,460円（役務費）

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

森林所有者等搬出件数　45件

波及効果：森林の整備が進むことにより、森林の持つ公益的機能の向上の恩恵を受けることができる

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

補助金交付申請による

【事業実施により得られた効果】

土砂災害等の被害拡大につながる林地残材を減らすことにより、くらしの安心・安全を守る災害に強い森林づくりに寄与したほか、森林所有者等に森林整備の必要性を身近に感じてもらうことにより、森林への意識が高まった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

森林所有者自らが取り組むことをきっかけに、森林整備の必要性に対する意識が高まった。

間伐材を搬出することで、流木等被害が軽減されることが想定される。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

今年度助成を受けた複数の森林所有者などから継続的に取り組みたいとの声があった。

また、年々間伐材搬出量は増加傾向にあり、伊賀市の森林所有者が林業に触れる機運が高まっている。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	伊賀市

番号	事　業　名				
2	未利用間伐材バイオマス利用推進事業				
事　業　費	5,836,810　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			5,836,810		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
申請時に提出された補助金交付申請書を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。
【実施方法の選定理由】
森林整備の必要性に対する意識向上のため、適正なバイオマス材であるか等を判断するため、補助金制度として運用している。
【契約方法と落札率または補助率等】
補助率：未利用間伐材　1t当たり　2,500円
【契約相手方の選定理由】
該当なし
【事業費の積算根拠】
補助率：未利用間伐材　1t当たり　2,500円　間伐・搬出コスト未満となるように補助率を設定。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
林地残材の減少により土砂災害等の軽減につながる。
【公的関与の必要性】
市内の森林整備を進めていくため、公的支援（経費補助）による間伐材搬出作業の推進が必要であるため。
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
引き続き、森林が適正に管理されるよう指導している

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
TV（行政チャンネル等）	実施後	市民全体に取組事例を説明し、県民税の目的や必要性をPRした。
パネル展示	実施後	市民が行き交う場所に設置し、県民税アンケート記載台も併せて設置した。
広報誌掲載	実施前	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
チラシ配布	実施前	事業の目的、概要案内や県民税を財源としていることをPRした。
のぼり設置	実施中	バイオマス材搬入場所に設置し、県民税が財源であることをPRした。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

平成28年度からの継続事業。

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	伊賀市

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業

7. 写真



写真1
間伐された森林の様子



写真2
間伐材搬出のようす

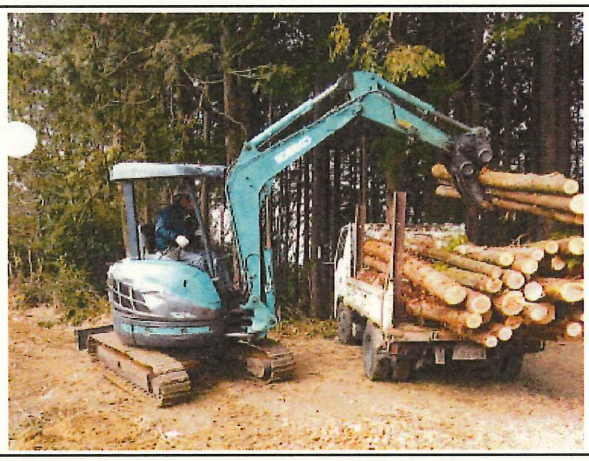


写真3
間伐材搬出のようす



写真4
間伐された森林の様子



写真5
間伐材搬出のようす

写真6

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	伊賀市

事業名	未利用間伐材バイオマス利用推進事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
補助金交付	t	2332.54	2,500	5,831,350	
事業推進にかかるアンケート実施	枚	65.00	84	5,460	役務費 （返信用切手）
事業費				5,836,810	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	伊賀市

番号	事業名				
3	親子ではじめる木育推進事業				
事業費	2,334,650 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,334,650		

1. 事業の目的

親子での「木育」推進。

古くから「森」や「木」が身近にあった伊賀市では、健やかな子どもの成長と森林の持続的整備に必要な適切な木材利用の推進を図り、森をささえる社会づくりにより地域そのものの価値を高める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

・幼児期からの「木育」と「食育」を関連させた事業として、親子共に木のぬくもりを共有できる物として、出生のお祝いに伊賀のヒノキの薫る木製フォトフレームをプレゼントする。

・1歳半検診時に木製（伊賀産材）のスプーンを、3歳児検診時に木製（三重県産材）の子ども用のお箸を保健師の手から、木育リーフレットの配布にあわせてプレゼントする。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

伊賀市

【補助率等】

補助事業でなく、該当しない。

【箇所数】

市内全域

【事業量】

フォトフレーム　出生時　520個

木のスプーン　１歳半検診時　540本

木の子ども用お箸　３歳児検診時　600膳

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

新生児：520人、１歳半児：540人、３歳児：600人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

乳幼児期から親子で木と触れ合える機会を幅広く提供するため。

【事業実施により得られた効果】

親子で木の薫りとぬくもりを感じることで、ふれあいを通じた「木育」「食育」を組み合わせた子どもの健全育成。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

施設整備等ではなく、該当しない。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

「木育」のチラシと共に直接プレゼントしており、三重県産材及び伊賀産材であることからも好評を得ている。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	伊賀市

番号	事　業　名				
3	親子ではじめる木育推進事業				
事　業　費	2,334,650 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			2,334,650		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
入札（スプーン、箸）、物品の購入、配布
【実施方法の選定理由】
伊賀産材、三重県産材を指定、みえ森と緑の県民税を活用した事業であることを伝えるため、可能な限り手渡しできる方法を選定
【契約方法と落札率または補助率等】
木のスプーン、木のお箸については一般競争入札、木製フォトフレームについては市規定により発注購入した。
【契約相手方の選定理由】
会計規則に基づき、木のスプーン、木のお箸については一般競争入札により決定。木製フォトフレームについては市内の木材取引実績のある事業者への発注（市規定による）
【事業費の積算根拠】
去年度実績及び参考見積により積算し入札

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
出生され、伊賀市に住民登録された児童を対象
保健師より「木育」のチラシと共に検診対象児全員に直接プレゼント
【公的関与の必要性】
多くの市民（乳幼児）に配布物による木のぬくもりを感じてもらうため。
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	伊賀市ホームページ内にて事業の目的等の内容を公開した。
チラシ等配布	実施中	フォトフレーム、スプーン、子ども用お箸に事業の目的等を記載したチラシを添付のうえ配布した。
TV（行政チャンネル等）	実施後	市民全体に取組事例を説明し、県民税の目的や必要性をPRした。
アンケート実施	実施中	親に対する県民税を活用した旨のPRをこめたアンケートを実施した。
パネル展示	実施後	県と協同で市庁舎イベントブースで県民税PRパネル展示を行った。

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	伊賀市

事業名	1.親子ではじめる木育推進事業

7. 写真



写真1
箸及び配布チラシ



写真2
スプーン及び配布チラシ



写真3
フォトフレーム（表）

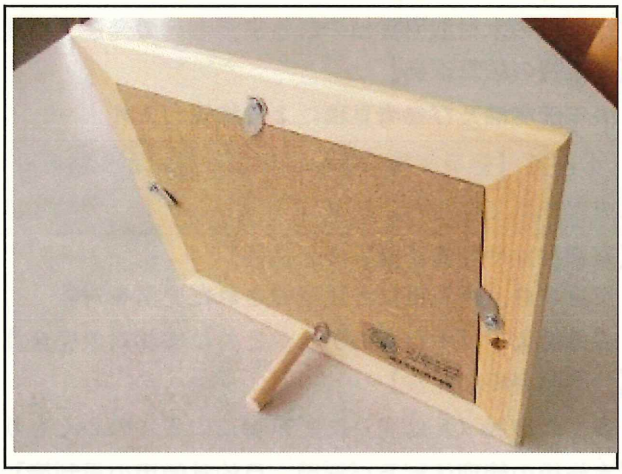


写真4
フォトフレーム（裏）



写真5
包装状態の箸及びスプーン

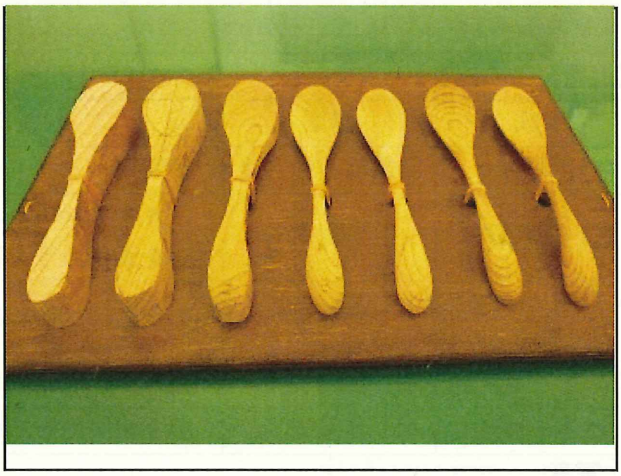


写真6
スプーンのイメージ

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	伊賀市

事業名	親子ではじめる木育推進事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
フォトフレーム　出生時	個	520.00	1,210	629,200	
木のスプーン　１歳半検診時	本	540.00	1,760	950,400	
木の子ども用お箸　３歳児検診時	膳	600.00	1,243	745,800	
お渡し用封筒	箱	2.00	2,774	5,548	
表示用ラベル	袋	2.00	1,851	3,702	
事業費				2,334,650	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	伊賀市

番号	事業名				
4	伊賀の森っこ育成推進事業				
事業費	1,782,037 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,782,037		

1. 事業の目的

森林環境への関心や要望が高まるなか、次代を担う子ども達の森林・林業への理解と関心を学校教育の場においても学習できるようにする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を行う実行委員会等が実施する、森林のはたらきや森林・林業の歴史についての学習活動、木工利用、木工体験（竹材等も含む）、間伐体験、里山整備活動、植物・樹木観察、野生生物・昆虫観察など、森林・自然や木と関連した森林環境教育にふさわしい内容の活動に対して、活動費用を補助する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内の小中学生を対象に森林環境教育に関する活動を実施する実行委員会等

【補助率等】

補助率：10/10　※小学校を対象とする場合、６年生の学級数×10万円を、中学校を対象とする場合、３年生の学級数×10万円を交付上限とする。

【箇所数】

12箇所（学校）

【事業量】

事業量：市内小中学校　12校40学級で実施、　　事業費：1,782,037円（補助金額）

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

参加生徒児童総数783人

波及効果：生徒に森林環境教育や木工体験を実施し、身近な森林への興味関心を育んだ。

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

補助金交付申請による。事業目的にあった事業であるか確認した。

【事業実施により得られた効果】

市内に在学している小中学生が「森のせんせい」などの講師から、森のはたらきや林業について学習することができ、森林環境や木材等に関して知識理解を深めることが出来た。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

取組の成果として、学級通信等への掲載や事後学習などが積極的に行われ、森林について学ぶ機会を持続的に構築できている。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

各学校からは、児童生徒の森林に対する興味・関心・意欲が深まり、実生活に活かすことが出来ているとの声を多数頂いている。学校担当者からは、森林教育を行う上で、必要不可欠な取り組みとの声もある。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	伊賀市

番号	事業名				
4	伊賀の森っこ育成推進事業				
事業費	1,782,037 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,782,037		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
実行委員会等から提出された補助金交付申請を審査し、交付要綱に適合している場合は、補助金を支出する。
【実施方法の選定理由】
森林環境教育等に対して意欲的な団体を選定する必要があるため、補助金制度として運用している。
【契約方法と落札率または補助率等】
補助率：10/10　※小学校を対象とする場合、６年生の学級数×10万円を、中学校を対象とする場合、３年生の学級数×10万円を交付上限とする。
【契約相手方の選定理由】
該当なし
【事業費の積算根拠】
補助率：10/10　※小学校を対象とする場合、６年生の学級数×10万円を、中学校を対象とする場合、３年生の学級数×10万円を交付上限とする。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
市内の小中学校生徒を対象としており、多くの生徒に森林環境を学ぶ機会を与えている。
【公的関与の必要性】
市内の小中学校生徒を対象としており、より多くの生徒に森林環境教育を実施するため必要である。
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
施設等整備ではなく転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	事業を実施した小中学校のHPで学校の保護者や生徒に対し、事業実施内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を図った。
TV（行政チャンネル等）	実施後	市民全体にPRを行うために、行政チャンネル（ＣＡＴＶ）を通じて、県民税及び事業のＰＲを行った。
チラシ等配布	実施前	学校担当者に対し、校長会の際に本事業の内容について説明した。
学校だより等掲載	実施後	事業を実施した小中学校の学校だよりやホームページで保護者や生徒に対し、「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を図った。
パネル展示	実施後	伊賀市役所内にて「みえ森と緑の県民税」事業についての説明パネルを展示した。

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	３．森を育む人づくり	市町名	伊賀市

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業

7．写真



写真1
木工体験（おもちゃのカラコロ作成）



写真2
ビオトープ作成



写真3
しいたけ菌打ち活動

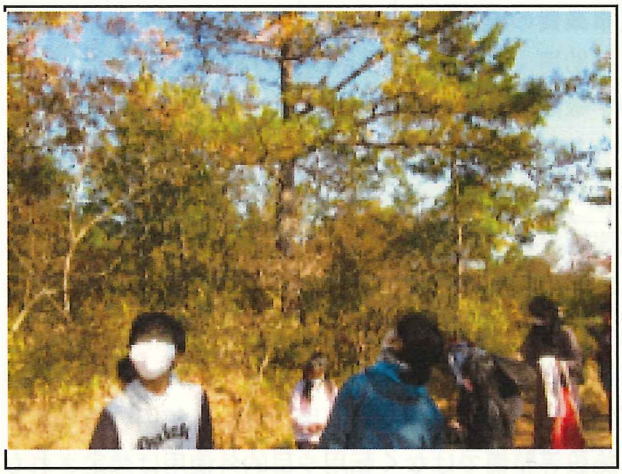


写真4
森林環境教育

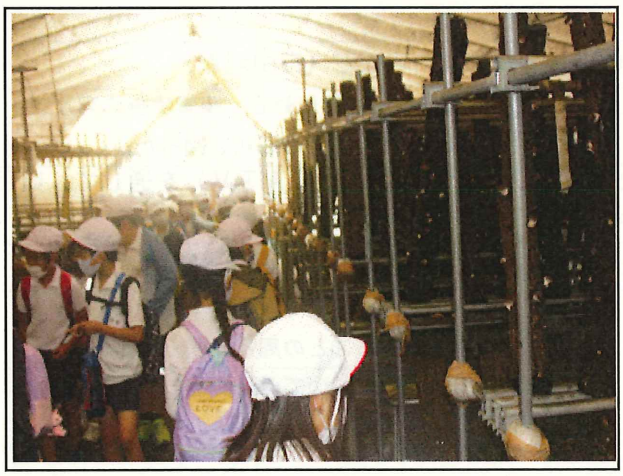


写真5
しいたけ原木ハウス見学

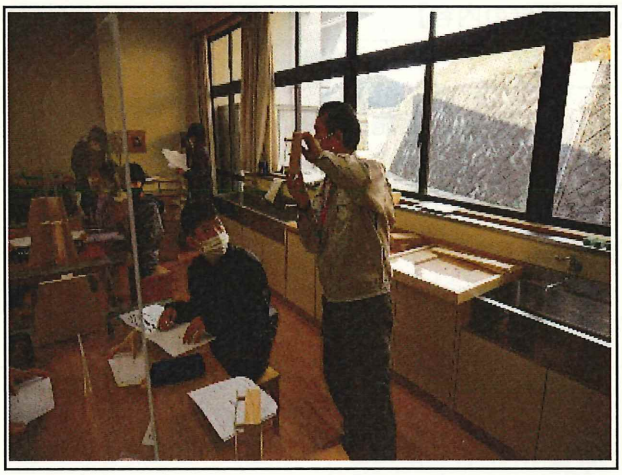


写真6
卒業制作（木製時計盤作成）

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	伊賀市

事業名	伊賀の森っこ育成推進事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
伊賀の森っこ育成推進事業補助金交付	学級			1,782,037	12団体
事業費				1,782,037	

作業内容	名称	学級数	参加人数	単価	金額	備考
学校教育における森林環境教育・木工体験・林業体験	崇広中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	4	144.00		286,128	
	島ヶ原小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	6	77.00		100,000	
	府中小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	33.00		100,000	
	青山中学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	60.00		111,475	
	成和東小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	1	17.00		100,000	
	西柘植小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	46.00		100,000	
	上野西小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	10	184.00		400,000	
	阿山小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	47.00		125,240	
	神戸小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	23.00		55,000	
	玉滝小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	2	22.00		100,000	
	上野東小学校伊賀の森っ子育成推進事業実行委員会	3	84.00		204,194	
	壬生野小学校伊賀の森っこ推進事業実行委員会	5	46.00		100,000	
	計				1,782,037	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	伊賀市

番号	事　業　名				
5	地域の森と緑のつながり支援事業				
事　業　費	500,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			500,000		

1. 事業の目的

地域住民が森林・林業にふれあう機会が少なくなってきているため、地域における森林環境・林業に関する教育活動を支援することで、地域住民や子どもたちが共に森林・林業等への関心を持ち、身近な生活における森と緑のつながりを感じられることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

補助事業　：住民自治協議会等が実施主体として、森・緑・木材と地域とのつながりを目的に行う一般募集の森林・林業・環境学習・木工などのイベントや研修活動に対して、必要な費用を補助する。
※今年度は、新型コロナウイルス感染症対策等の影響により補助申請が無く、実績なし。

研究委託等：三重大学と連携して、地域の林業振興につながる研究を行う。伊賀市の森林・林業の現状把握と検討を行い、材木搬出コスト及び木質バイオマスの搬出促進に寄与する報告書を作成した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

補助事業　：住民自治協議会等

研究委託等：地域の林業の再生プラン支援を三重大学と共同で地域に入って行う。

【補助率等】

補助事業　：対象経費に10/10（ただし上限5万円）

【箇所数】

補助事業　：０（新型コロナウイルス感染症対策により、補助事業申請無し）

研究委託等：共同研究（みえ森と緑の県民税市町交付金推進に係る研究）１件

【事業量】

共同研究委託１件

【事業実施期間】

令和２年４月１日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

森林所有者

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

補助金交付申請による

【事業実施により得られた効果】

補助事業：なし（新型コロナウイルス感染症対策により、補助事業申請無し）

研究委託：地域の森林・林業再生プランの策定に向けた地域資源や意識調査の分析を通して、地域の現状を把握することができた。未利用間伐材バイオマス利用推進事業の推進にかかる研究を実施し、翌年度以降の搬出補助金を見直す（増額）ための基礎データとした。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	伊賀市

番号	事　業　名				
5	地域の森と緑のつながり支援事業				
事　業　費	500,000　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			500,000		

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

施設整備等ではなく、該当しない。

研究委託については、地域の森林・林業再生プランの策定に向けた地域での話し合い等を円滑化するために活用し、地域毎における森林整備等を促進する。未利用間伐材バイオマス利用推進事業の補助単価における根拠を整理したため、次年度以降の単価設定に活用する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

森林の大切さやみえ森と緑の県民税について、研究に係るアンケート等により告知することが出来た。

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

研究委託：委託

【実施方法の選定理由】

地域の森林・林業再生プラン策定等に関して専門知識を有しているため。

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約

【契約相手方の選定理由】

研究委託：地方自治法施行令第167条の２第１項第２号による

【事業費の積算根拠】

研究委託：50万円/年

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

研究委託：伊賀市の森林林業の現状把握と検証を行うことで、地域毎の森林・林業再生に活用させる。

【公的関与の必要性】

研究委託：伊賀市全体の森林林業の現状把握及び地域毎の森林林業再生に寄与する研究であり、公益性が認められる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外利用は想定されない。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	伊賀市

番号	事　業　名				
5	地域の森と緑のつながり支援事業				
事　業　費	500,000　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			500,000		

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	事業内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を行った。
TV（行政チャンネル等）	実施後	市民全体にPRを行うために、行政チャンネル（CATV)を通じて、県民税及び事業のPRを行った。
パネル展示	実施後	伊賀市役所内にて「みえ森と緑の県民税」事業についての説明パネルを展示した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

平成30年度実績：市内住民自治協議会６団体

令和元年度実績　：市内住民自治協議会６団体

（評価委員会資料）

対策区分	３．森を育む人づくり

市町名	伊賀市

事業名	地域の森と緑のつながり支援事業

令和２年度

伊賀市委託研究

「地域の森林・林業再生プラン策定等に関する委託研究」

成果報告書

令和３年３月２５日提出

三重大学

地域創生戦略企画室・大学院生物資源学研究科　教授　坂本竜彦
地域拠点サテライト東紀州サテライト　研究員　山本康介
大学院生物資源学研究科　博士前期課程　田中健三
地域創生戦略企画室　研究支援員　山村水帆

研究委託により提出された成果報告書

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	伊賀市

事業名	地域の森と緑のつながり支援事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
研究業務委託			500,000	500,000	
（内容の詳細を記載する）					
事業費				500,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
研究業務委託					500,000	
	計				500,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3.森を育む人づくり

市町名	伊賀市

番号	事業名				
6	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）				
事業費	700,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			700,000	0	0

1. 事業の目的

市内の間伐材の利用と地域の木材を活用できる人材の育成を目的とする。市民から必要とされている木製品を開発する中で、若い人材や地域団体などが、伊賀の木の活用ノウハウを身に着ける。

2. 事業実績概要

【事業内容】

三重とこわか国体及び伊賀をPRするため、国体開催までの日にちをカウントダウンする木製カウントダウンだんじりを、伊賀市内の間伐材を利用して伊賀白鳳高等学校の工芸部員が開発・制作する。なお、材木の活用ノウハウを学習するため、製材所見学及び木工技術の研修を予定していたが、新型コロナウィルス感染症対策のため、開催を断念した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

事業実施主体：三重とこわか国体伊賀市実行委員会（木製品開発・制作については白鳳高校等生徒主体）

【補助率等】

一定の範囲内で補助金100%、材料費（地域産材等）、制作道具費、使用料等

【箇所数】

市民が行きかう場であるハイトピア伊賀に、学生等が開発設計・制作した木製カウントダウンだんじりを設置。

（１箇所）

【事業量】

１校（伊賀白鳳高等学校）　（開発、材料、道具、広報）　700,000円　材積約0.1㎥

【事業実施期間】

令和２年４月１日から令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

受益者　市内公共施設利用者数　年間約54万人

参加者　伊賀白鳳高等学校他市内学校生徒　木材工芸部員　十数名、指導者、地域の木材生産者

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

補助金交付申請による。事業目的にあった事業であるか確認した。

【事業実施により得られた効果】

木工や建築を志す高校生が地域団体と共同でカウントダウンだんじりを開発・制作することで、三重とこわか国体及び伊賀のPRを行うことが出来た。また、地域の文化遺産であるだんじりに高校生が制作活動を通じて触れることにより、伊賀の地域文化の継承及びPRをすることが出来た。

地域材の活用技術が継承され、市民に直接木材の良さと木材利用の必要性を伝えることが出来た。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

国体開催に向けて、カウントダウンだんじりを設置しPRを継続して行う他、国体開催後も他イベントのカウントダウンPRに利用する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

開発・制作を通じて、高校生は木工技術の習得及び受益者へのプレゼンテーションを経験することになり、人材育成の貴重な機会となっている。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3.森を育む人づくり

市町名	伊賀市

番号	事　業　名				
6	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）				
事　業　費	700,000　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			700,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

事業実施主体（三重とこわか国体伊賀市実行委員会）が国体PRを行うため、市内の高校生（白鳳高校工芸部）に依頼し、木製カウントダウンんだんじりを開発し、市民の利用頻度が高いと思われるハイトピア伊賀に設置。

【実施方法の選定理由】

平成30年度から当事業で地域団体からの要望に応え木工品の制作を行っている白鳳高校工芸部に依頼。

【契約方法と落札率または補助率等】

木製カウントダウンだんじり：制作費等込み10/10（ただし上限70万円/1か所当たり）

【契約相手方の選定理由】

補助事業による選定のため、該当なし

【事業費の積算根拠】

木製カウントダウンだんじり：制作費等込み10/10（ただし上限70万円/1か所当たり）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

設置箇所は多くの市民が行き来する場（ハイトピア伊賀）であり、幅広い市民が利用することが想定される。

【公的関与の必要性】

制作主体が伊賀白鳳高校の生徒であり、その生徒達の木育・木活用人材育成となるような取り組みを目指しているものであるため、公的関与が必要であると考えられる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

木製カウントダウンだんじりは、三重とこわか国体をPRするという目的の元で開発・制作されるものであるため、転用の懸念は無いと考えられる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・中・後	事業内容及び「みえ森と緑の県民税」を財源とした事業であることの周知を行った。
TV（行政チャンネル等）	実施中	市民全体にPRを行うために、行政チャンネル（CATV)を通じて、県民税及び事業のPRを行った。
パネル展示	実施後	伊賀市役所内にて「みえ森と緑の県民税」事業についての説明パネルを展示した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	３．森を育む人づくり	市町名	伊賀市

事業名	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）

7．写真



写真1
木製カウントダウンだんじり制作状況



写真2
木製カウントダウンだんじり制作状況

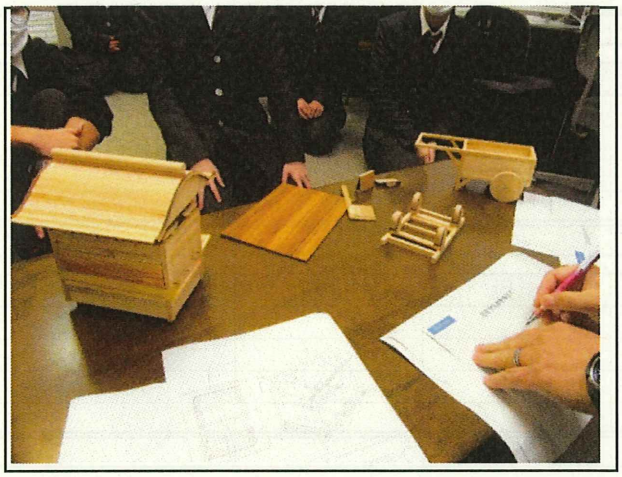


写真3
木製カウントダウンだんじりの模型

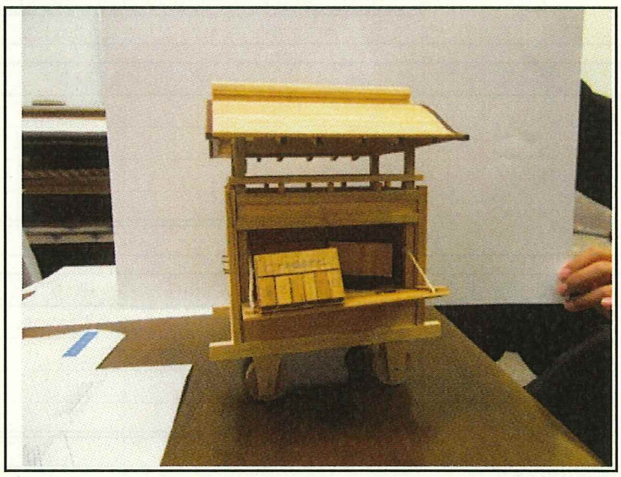


写真4
木製カウントダウンだんじりの模型



写真5
高校生によるプレゼンテーション



写真6
高校生によるプレゼンテーション

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	伊賀市

事業名	森のやすらぎ空間整備事業（伊賀の木活用人材育成）

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
補助金				700,000	
事業費				700,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
伊賀白鳳高等学校生徒による製品開発	使用料				8,840	
	原材料費				420,950	
	需用費				266,294	
	その他				3,916	
	計				700,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

尾鷲市

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

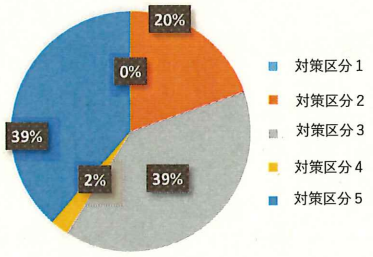
市町名	尾鷲市	三重県
人口（人）	16,567	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	9.1%	12.4%
森林面積(ha)	17,703.01	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	14,933.86	348,833.49
森林率(%)	92.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	6.0	10.1

＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	2	人家裏危険木伐採事業	1,548,000	1,548,000		1,548,000				
2	3	"森の国"尾鷲の自然環境人材育成事業	1,840,000	1,840,000			1,840,000			
3	3	クップ普及推進事業	1,265,590	1,265,590			1,265,590			
4	4	木とふれあう学校環境づくり事業	191,400	191,400				191,400		
5	5	三木里地区憩いの場整備事業	1,127,500	1,127,500					1,127,500	
6	5	中村山公園整備事業	1,914,000	1,914,000					1,914,000	
7		みえ森と緑の県民税市町交付金基金積立事業	2,357,510	2,357,510						2,357,510
計			10,244,000	10,244,000	0	1,548,000	3,105,590	191,400	3,041,500	2,357,510

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	近年では、災害による被害が拡大傾向にあることから、災害に強い森林づくりは大変重要なものであると考えている。また、危険木等を伐採したままにするのではなく、園児や児童、生徒への木育の機会を設けるツールとして利用する方法を考え、災害と森林教育の観点から事業の選定を実施している。
事業実施により得られた効果	人家裏や公園の危険木伐採は、災害に強い町づくりの推進に一定の効果が得られたと考えている。この点については、事業実施後の住民の反応や声をみても、いずれも好意的なものであったため、安全・安全の確保に効果があったと感じている。 しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、体験や木育等の事業は縮小又は中止せざるを得ない状況になってしまい、計画策定時に想定していた取組みが実施できず、大変残念なものとなってしまったが、次年度以降の課題として事業の展開方法を模索していきたい。
情報発信への取組	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、人を集めての活動がほとんど実施できなかったため、活動の場でＰＲを行うことができず、ホームページや広報誌での情報発信がほとんどであった。危険木除去等では伐採した箇所に看板を設置する等したが、イベントや活動の自粛等を想定した情報発信を考えていく必要があると痛感した。 そんな中にあって、地元誌に県民税の活動を取り上げていただいたのは大変よいＰＲとなった。

（参考資料）

令和2年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		（円）	内、譲与税
1	② 意向調査	3,530,000	3,530,000
2	⑬ 木造公共建築物の整備等	23,518,000	11,097,000
3	⑰ 基金積立（森林整備等）	13,807,000	13,807,000
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	40,855,000	28,434,000

※事業番号2
事業カテゴリー⑬木造公共建築物の整備等

こちらの事業については、本庁舎の耐震化と併せて庁舎の木質化を実施したものです。
「事業費」と「内、譲与税」の差額：12,421千円は、令和元年度に積み立てた基金より充当しています。

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	尾鷲市

番号	事業名				
1	人家裏危険木伐採事業				
事業費	1,548,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,548,000		

1. 事業の目的

人家に密接する放置林において、災害を未然に防止する観点から、自治会等による人家裏山林の危険木伐採費用の一部を補助する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

自治会等が事業主体となり、人家に隣接する山林内の危険木で緊急に伐採する必要がある場合に限り、その費用の一部を補助する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

自治会・自主防災会等

【補助率等】

補助率は伐採経費の10分の8とし、1申請者につき1年度50万円を上限とする。

（主な要件）・補助対象経費は伐採経費のみとする。
・緊急的な伐採が必要な危険木であること。
・地目は山林であること。

【箇所数】

須賀利地区、九鬼地区、大字南浦（坂場）地区の計３地区

【事業量】

須賀利地区：10本、九鬼地区：20本、大字南浦（坂場）地区：50本

【事業実施期間】

令和２年５月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

危険木伐採により生活環境が向上する地区は３地区の住民。

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

広報などでこの補助事業の趣旨を周知し、事前に倒木などの災害を防ぐため地区会や自主防災会から要望のあった危険木の箇所を職員が確認し、実施の必要性や緊急性を検討したうえで選定した。

【事業実施により得られた効果】

地域住民自ら行動することで災害に対しての心構えが芽生えるなどの効果に併せ、危険が想定される人家裏山林の危険木を伐採することにより、災害を未然に防止し、森林の適正な整備が促進された。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

今後の整備、管理については、地権者が行っていく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

民家の方、所有者の方、地域の方から災害時の危険が抑えられると大変感謝されている。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	尾鷲市

番号	事　業　名				
1	人家裏危険木伐採事業				
事　業　費	1,548,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,548,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

地域住民から組織されている地区会などへの補助事業であるため、地域内で危険個所を把握し、住民が一体となり山林に対する防災意識が生まれる。また、対象地区の住民が動くことで、事業をスムーズに進めることができる。

【契約方法と落札率または補助率等】

補助率は伐採経費の10分の８とし、１申請者につき１年度50万円を上限とする。

【契約相手方の選定理由】

補助事業であるため該当しない。

【事業費の積算根拠】

危険木の伐採に係る費用のみを補助対象としており、申請時に見積書を提出させ金額を確定し、実施報告書では領収書を提出させ支出内容の確認と現地確認を行っている。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

災害時の倒木等が懸念される箇所の選定、作業を実施することは、住民が普段から不安視している箇所であるため、住民の安全確保に繋がる公益性の高い取り組みであると考えられる。

【公的関与の必要性】

市が補助金を出すことで住民自ら危険木の伐採を進めることにより、災害時の倒木等を未然に防止する観点があるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者との調整は申請者（自治会等）が行っている。

申請者（自治会等）が森林所有者から事業実施の同意を得て危険木を伐採する事業であることから転用等の一定の制限はかけていない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	市のホームページにおいて活動内容の紹介
広報誌掲載	実施前・後	市の広報誌において活動内容の紹介
その他	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した事業である標識を設置
パネル展示	実施後	県尾鷲庁舎県民ホールにて展示

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	尾鷲市

事業名	人家裏危険木伐採事業

7. 写真



写真1
実施前（大字南浦（坂場）地区）



写真2
実施後（大字南浦（坂場）地区）



写真3
実施前（須賀利地区）



写真4
実施後（須賀利地区）



写真5
実施前（九鬼地区）



写真6
実施後（九鬼地区）

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	尾鷲市

事業名	人家裏危険木伐採事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考(伐採費用)
坂場第四自主防災会	式	1.00	482,000	482,000	602,580
須賀利区	式	1.00	500,000	500,000	781,000
九鬼区	式	1.00	500,000	500,000	770,000
需用費	個	3.00	22,000	66,000	
事業費				1,548,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
坂場第四自主防災会	危険木伐採（50本）	式	1.00	482,000	482,000	補助金
	計				482,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
須賀利区	危険木伐採（10本）	式	1.00	500,000	500,000	補助金
	計				500,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
九鬼区	危険木伐採（20本）	式	1.00	500,000	500,000	補助金
	計				500,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
需用費	みえ森と緑の県民税看板	個	3.00	22,000	66,000	
	計				66,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考

※補助率等
補助率は伐採経費の10分の8とし、1申請者につき1年度50万円を上限とする。
（主な要件）
・補助対象経費は伐採経費のみとする。
・緊急的な伐採が必要な危険木であること。

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	尾鷲市

番号	事業名				
2	"森の国"尾鷲の自然環境人材育成事業				
事業費	1,840,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,840,000		

1. 事業の目的

尾鷲の豊かな森林環境を活かして、森林や自然を総合的に理解する能力を身につけながら、理解したことを地域の人々にわかりやすく伝えることができる人材育成事業の実施と、環境教育のプログラムづくりを行う。また、それらのプログラムを活用して、市内小学生を中心に、森林学習会を開催する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

地域住民や大学生を対象とした森林や自然を総合的に理解することのできる人材育成事業を、三重大学自然環境リテラシー学などと連携し実施する。また、地域住民や大学と協働し、尾鷲市の自然を活かした木育や山と海の繋がり、それに大きく関わる川と雨の関係性を学ぶことができる自然体験プログラムを開発し、小学生を対象とした森林環境学習会を実施する。自然体験プログラムについては、令和元年度に作成した自然体験プログラムがあるので、今年度に実施する事業と併せて市内の小学生を対象とした活動を実施した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【補助率等】

補助事業ではなく該当しない

【箇所数】

市内小学校、八鬼山

【事業量】

①大学生を対象とした自然環境人材育成事業：年４回（９日間）開催

②地域の小学生、教員を対象とした自然環境人材育成事業：年16回（15日間）開催

※②の内、５回は令和２年度の新しい自然体験プログラムを実施し、残り11回は令和元年度に実施したプログラムと、令和２年度の新しいプログラムを小学生を対象に実施した。

【事業実施期間】

令和２年５月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

①大学生を対象とした自然環境人材育成事業：延べ82名が参加

②地域の小学生、教員を対象とした自然環境人材育成事業：延べ教員48名、児童222名が参加

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

地域の自然環境について学習したり体験できる場所について、受注者や地域住民と協議の上で決定。

【事業実施により得られた効果】

①山と海の繋がりを学び体験する中で、山での危険や対処方法、学生自身が子どもを相手にした際の林内での安全な体験のさせ方に対する知識の習得がなされ、森林に対する理解が深まった。

②活動に参加した児童のレポートから、傘を山に見立てた雨と森林の関係性、山での危険や対処方法、山中にある岩石の性質、桧と杉の葉の違いなどを学び、地域の自然や森林に対する理解が深まった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

本事業で得られた参加児童の声等を取り込み、新しい自然体験プログラムの開発や実施、フィールドとなった山や川等の整備や活用方法の検討に生かしていく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

外遊びやアウトドア体験に関しては、「危ない」という考えが無意識に先行してしまうこともあってか、自然の中で思いっきり体を動かす体験が難しい昨今にあって、今回のような体験はとても楽しく、大変有意義なものであったとの声をいただいた。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	尾鷲市

番号	事　業　名				
2	"森の国"尾鷲の自然環境人材育成事業				
事　業　費	1,840,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,840,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

業務委託

【実施方法の選定理由】

随意契約

【契約方法と落札率または補助率等】

三重大学との特命随意契約

【契約相手方の選定理由】

昨年度以前より受託者とは様々な事業での連携や情報共有を行っており、本事業の構想段階より強力いただいているため。

【事業費の積算根拠】

見積りによる。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

今後も、本事業のデータを基礎として新しい自然体験プログラムの開発を予定しており、事業の継続による情報の蓄積と、トライアンドエラーによる改善を繰り返すことによって、より多くの方に体験していただきやすいプログラムやフィールドづくりに生かされると考えており、将来的な視点から見ても公益性は高いと捉えている。

【公的関与の必要性】

児童の頃から地元の自然を深く体験することは、郷土愛を育むことにも繋がると感じており、また、自ら考え行動する意識の醸成は、学習面だけでなく災害等における緊急時にも生かされる要素であることから、そのような「ひと」を一人でも多く育てることは公的関与の必要性が高いと考える。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有林のように市が管理するものは引き続き市が管理する。成果品（報告書）についても市の管理とする。

また、本事業によって購入した物品については、今後も継続して実施予定である自然体験の事業やプログラム開発に使用するものであるため、三重大学において保管しているものについても、目的外に使用することのないよう市が管理を行っていく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前・後	市のホームページにおいて活動内容の紹介
広報誌掲載	実施前・後	市の広報誌において活動内容の紹介
その他	実施中	事業の合間に森林教育と併せて参加者に伝える。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市

事業名	"森の国"尾鷲の自然環境人材育成事業

7. 写真



写真1
活動状況①



写真2
活動状況②

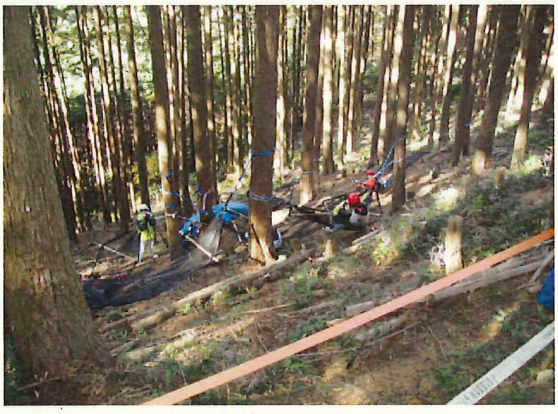


写真3
活動状況③



写真4
活動状況④



写真5
活動状況⑤

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市

事業名	"森の国"尾鷲の自然環境人材育成事業

積算資料（実績報告参考資料）　自然環境人材育成事業委託業務料

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考(請負額)
謝礼				790,000	
旅費				490,000	
消耗品費				470,000	
借上料				485,000	
印刷製本費				140,000	
事業費				2,375,000	1,840,000

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
謝礼	講師料・ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ料	人	14.00	30,000	420,000	
	講師料	人	10.00	10,000	100,000	
	地元協力者謝礼	人	18.00	5,000	90,000	
	ｻﾎﾟｰﾄｽﾀｯﾌ謝礼	人	60.00	3,000	180,000	
	計				790,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
旅費	打合せ	人	2.00	10,000	20,000	
	事業実施	人	47.00	10,000	470,000	
	計				490,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
消耗品費	機材・消耗品	式	1.00	470,000	470,000	
	計				470,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
借上料	バス借上料	回	1.00	100,000	100,000	大学往復
	装備レンタル料	人	90.00	3,000	270,000	
	渡船借上料	隻	3.00	10,000	30,000	
	バス借上料	台	5.00	17,000	85,000	事業実施
	計				485,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
印刷製本費	印刷製本費	式	1.00	140,000	140,000	体験ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ制作
						及びﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ印刷
	計				140,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	尾鷲市

番号	事業名				
3	クッブ普及推進事業				
事業費	1,265,590 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,265,590		

1. 事業の目的

クッブ普及の推進は、地元産の木材を利用した木育事業と併せ、生涯スポーツの振興につなげるべく行っているところであり、より競技の普及を図るため、全国規模の大会を行う東京都立川市を視察し、ジャパンオープン大会の開催をしていく。

2. 事業実績概要

【事業内容】

スポーツ振興と木育活動の一環として「クッブ」を普及するため、全国規模の大会を行う東京都立川市を視察し、市民等に向けた講習会の実施や、ジャパンオープン大会を実施していく。また、令和3年度に行われる国体では、多くの方に尾鷲ヒノキ林業を知っていただく絶好の機会として、地元の尾鷲ヒノキを利用した国体で行われる競技の参加賞及び盾を作成してこの地域森林や林業のＰＲを行なっていく。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市教育委員会

【補助率等】

該当しない

【箇所数】

該当しない

【事業量】

・東京都立川市への旅費（2名分）　・講習会（20回）　・国体用盾（大2基、小4基）
・クッブ普及用品（とこまるくんオリジナルピンバッチ1000個、内クッブ600個）
・国体用参加賞（とこまるくんオリジナルコースター1300枚、内クッブ600枚）

【事業実施期間】

令和２年５月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

普及員によるクッブ指導：今年度イベント、講習会参加者約1,000人（目視による数の確認。）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

スポーツ振興と木育活動の一環として「クッブ」を市内外に対して広く普及を行うため。

【事業実施により得られた効果】

「クッブ」という木材を利用した競技を普及させ、地元の尾鷲ヒノキを身近に感じ、触れることで、学校児童生徒や、大人等の利用者に対し、森林の重要性や必要性の認識を深め、県民税に対する理解を得ることが出来た。今回の視察を行ったことにより、県外の方に対して広く普及することが出来た。今後、ジャパンオープン大会等を開催する時に活かしていきたい。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

参加者に木育についても併せて行っていく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

参加者は、とても興味を持っていただき、市内の小学生やその父兄などにはかなり浸透してきた。放課後などにクッブをする学校もある。使っているクッブを県民税を活用して作ったこと、普及啓発用品を配り県民税の周知も行った。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり

市町名	尾鷲市

番号	事　業　名				
3	クッブ普及推進事業				
事　業　費	1,265,590 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,265,590		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
請負契約、その他
【実施方法の選定理由】
市の関係規定による
【契約方法と落札率または補助率等】
一般競争入札、旅費規程
【契約相手方の選定理由】
市の関係規定による
【事業費の積算根拠】
業者からの見積もりによる積算

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
参加者名簿等の作成、目視による数の確認。今年度イベント、講習会参加者約1,000人
【公的関与の必要性】
小中学校や市民全般にクッブの普及を図るため。
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
該当しない

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
その他	実施前・中・後	イベント開催時に県民税も併せて周知している。
HP掲載	実施前・後	市のホームページにおいて活動内容の紹介
広報誌掲載	実施前・後	市の広報誌において活動内容の紹介
パネル展示	実施後	県尾鷲庁舎県民ホールにて展示
ロゴマーク掲示(ｼｰﾙ・ﾌﾟﾚｰﾄ等)	実施中・後	イベント用の盾に県民税のロゴをプリント
啓発物品配布	実施中・後	県民税のロゴが入った啓発物品を配布

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市

事業名	クッブ普及推進事業

7. 写真



写真1
先進地視察①



写真2
先進地視察②

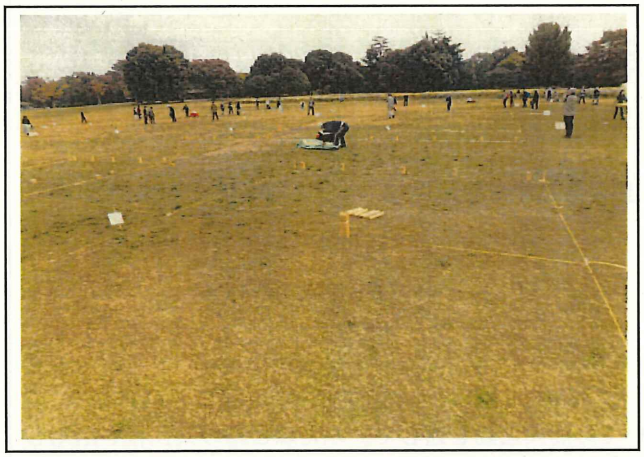


写真3
先進地視察③



写真4
大会用盾



写真5
啓発物品①



写真6
啓発物品②

（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	尾鷲市

事業名	クップ普及推進事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
国体用盾				90,900	
尾鷲ヒノキのコースター（とこわか国体仕様）				792,000	
国体啓発用ブローチピンバッチ				181,455	
消費税	%	10.00	1,064,355	106,435	
視察旅費	人	2.00	47,400	94,800	
事業費				1,265,590	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
国体用盾	トロフィー（大）	基	2.00	17,150	34,300	無地桧材 40×300×450
	トロフィー（小）	基	4.00	14,150	56,600	無地桧材 40×270×400
	計				90,900	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
尾鷲ヒノキのコースター（とこわか国体仕様）	とこまるくんオリジナルコースター	枚	100.00	600	60,000	ユニカール
	とこまるくんオリジナルコースター	枚	500.00	600	300,000	ウォーキング
	とこまるくんオリジナルコースター	枚	600.00	600	360,000	クップ
	とこまるくんオリジナルコースター	枚	100.00	600	60,000	ＯＷＳ
	データ製作費	式	1.00	12,000	12,000	
	計				792,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
国体啓発用ブローチピンバッチ	とこまるくんオリジナルピンバッチ	個	1000.00		181,455	クップ・ウォーキング・ユニカール
	計				181,455	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	尾鷲市

番号	事　業　名				
4	木とふれあう学校環境づくり事業				
事　業　費	191,400　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			191,400		

1. 事業の目的

本交付金を活用し、市産材で製作した木製の机・椅子を平成26年度に宮之上小学校へ、令和元年度に賀田小学校へ配置し、木の温もりにふれあう快適な学習環境を構築した。将来にわたって児童が自分の机・椅子として使用するとしているが、日々の使用によって損傷する為、これを修理し再使用する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

木製机の修理または損傷の激しいものは部品（県産材）交換を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市教育委員会

【補助率等】

補助事業ではなく該当しない

【箇所数】

尾鷲市立宮之上小学校、尾鷲市立賀田小学校

【事業量】

市産材で製作した組立式の机の天板（宮之上小学校20枚、賀田小学校９枚）

【事業実施期間】

令和２年６月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

宮之上小学校・賀田小学校の児童

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

児童用木製机・椅子を整備した学校で、継続して事業を実施することが効果的であるため。

【事業実施により得られた効果】

児童自ら組み立てた木製机・椅子を使い続けることで、愛着を持ち、物を大切にする心を継続的に育み、木の温もりに触れあう機会を提供できた。また同時に森林に対する説明を行い、尾鷲の林業を知るきっかけとする良い教材となっている。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

各小学校が管理する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

児童は自分たちで組立てた机であることから大切に使用し木の温もりを感じながら日々、学習に励んでいる。また、学校の教職員等についても、木の良さや物を大切にする気持ちを児童や保護者に伝えると共に、子供が思い出となる机、椅子になることで喜ばれている。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	尾鷲市

番号	事　業　名				
4	木とふれあう学校環境づくり事業				
事　業　費	191,400　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			191,400		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
市による請負契約（天板表面研磨）

【実施方法の選定理由】
宮之上小学校・宮之上小学校の机（備品）であるため

【契約方法と落札率または補助率等】
随意契約

【契約相手方の選定理由】
備品整備した木製机・椅子は、契約事業体の独自モデルであることから、メンテナンスについて熟知しており、迅速な対応が可能であるため。

【事業費の積算根拠】
業者から見積を徴収し費用を算出。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
宮之上小学校　児童89名　賀田小学校　児童36名

【公的関与の必要性】
小学校の机（備品）であるため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
小学校の木製机・椅子であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
その他	実施前・中・後	組立ての際に親も参加していただき、県民税の説明を行なった。
HP掲載	実施前・後	市のホームページにおいて活動内容の紹介
広報誌掲載	実施前・後	市の広報誌において活動内容の紹介
パネル展示	実施後	県尾鷲庁舎県民ホールにて展示

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	尾鷲市

事業名	木とふれあう学校環境づくり事業

7. 写真



写真1
活動状況①



写真2
活動状況②

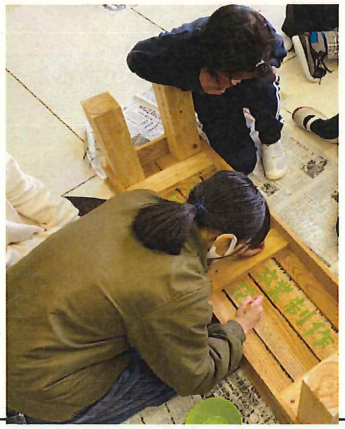


写真3
活動状況③



写真4
活動状況④



写真5
活動状況⑤

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	尾鷲市

番号	事　業　名				
5	三木里地区憩いの場整備事業				
事　業　費	1,127,500　円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,127,500		

1. 事業の目的

市外からも多くの来訪者がある三木里海水浴場。その近傍にある忠魂碑は地域住民から「招魂さん」と呼び親しまれ、住民の集まりの場となっているが、地内には楠の大木などが存在している。しかし、これらの木から枝などが大きく張り出し、安全上支障があるため、来訪者や通行人に危険を及ぼす可能性があることから、枝払いなどの整備を行うことで市民や来訪者の安全を確保すると共に身近な自然と触れあうことができる環境をつくることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

来訪者や通行人が安全安心に身近な自然と触れ合うことが出来るよう、樹木の枝払いを行い日が差し込み明るくなるような景観にする。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【補助率等】

補助事業ではなく該当しない

【箇所数】

三木里地区１箇所

【事業量】

植生している樹木の枝払い（面積：約440㎡）

【事業実施期間】

令和２年６月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

地区住民および来訪者。（H30年海水浴客数：9,573人　尾鷲市統計書より）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

市内だけでなく県内からの来訪者も多い場所であることから選定した。

【事業実施により得られた効果】

枝払いにより来訪者の安全・安心が確保できた。また日照量の増加により広場が明るくなり、今後の利用増加が見込まれる。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

地区住民や来訪者の憩いの場として活用する。本来であれば、地域住民を集めての森林教育等の事業も予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、やむを得ず中止とした。今後は、本事業で整備した広場を活用した取組み等を検討していきたい。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

通行時の安全・安心が確保され、また広場が利用しやすくなったことで住民等の反応は良好であった。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	尾鷲市

番号	事　業　名				
5	三木里地区憩いの場整備事業				
事　業　費	1,127,500　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,127,500		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託（請負）

【実施方法の選定理由】

高所の枝払いであり専門性が高いため。

【契約方法と落札率または補助率等】

指名競争入札　落札率：94.7％

【契約相手方の選定理由】

競争入札による。

【事業費の積算根拠】

見積書による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

市内だけでなく県内からの来訪者に安全・安心と憩いの場を提供できた。

【公的関与の必要性】

通行時の安全・安心の確保及び憩いの場の提供を目的とするため、公的関与の必要性は高いと思われる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市が継続的に管理していく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
標識・標柱等設置	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した事業である標識を設置
HP掲載	実施前・後	市のホームページにおいて活動内容の紹介
広報誌掲載	実施前・後	市の広報誌において活動内容の紹介

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	尾鷲市

事業名	三木里地区憩いの場整備事業

7. 写真



写真1
作業前



写真2
作業後①



写真3
作業後②



写真4
作業後③



写真5
標柱設置①



写真6
作業後 伐採状況確認

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	尾鷲市

事業名	三木里地区憩いの場整備事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考(請負額)
三木里地内危険木伐採	式	1.00	1,167,100	1,167,100	1,105,500
需要費	式	1.00	22,000	22,000	22,000
事業費				1,189,100	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
三木里地内危険木伐採	立木枝払い・処分費	式	1.00	816,670	816,670	明細1
	諸経費	式	1.00	244,330	244,330	30%以内
	消費税	%	10.00	1,061,000	106,100	
	計				1,167,100	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
明細1 立木枝払い・処分費	枝払い・集積	式	1.00	596,650	596,650	
	積込・運搬	式	1.00	175,020	175,020	
	幹・枝葉処理	式	1.00	45,000	45,000	
	計				816,670	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
需用費	みえ森と緑の県民税看板	基	1.00	22,000	22,000	
	計				22,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	尾鷲市

番号	事業名				
6	中村山公園整備事業				
事業費	1,914,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,914,000		

1. 事業の目的

木と親しむことのできる市街地の中心にある自然豊かな中村山公園を整備し、安全安心に多くの市民が自然に触れ合う機会を設け、豊かな生活環境を実現することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市民が自然と触れ合える親しみやすい公園を整備するため、樹木及び雑草等の除去を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

尾鷲市

【補助率等】

補助事業ではなく該当しない

【箇所数】

中村山公園１ヶ所

【事業量】

中村山公園に植生している樹木の伐採及び雑草等の除去（面積：約6,600㎡）

【事業実施期間】

令和２年５月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

利用する市民

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

市街地の中心にあり、住民が多く集まる場所であるため

【事業実施により得られた効果】

遊歩道の沿いの樹木や雑草の除去を行った結果、明るく景観もよくなったことで住民が集まりやすい環境となり、安全・安心に遊べる場所となった

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

市有地であるため、市が管理する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

公園を利用される住民、遊歩道を利用する住民、頂上に天文科学館があることから活用する住民などから景観も良くなり、公園を活用しやすくなったと評判である。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	尾鷲市

番号	事　業　名				
6	中村山公園整備事業				
事　業　費	1,914,000　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,914,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

入札による業務委託

【実施方法の選定理由】

安全面と専門的な技術が必要となるため

【契約方法と落札率または補助率等】

指名競争入札

【契約相手方の選定理由】

市に登録されている３社による指名競争入札

【事業費の積算根拠】

業者からの見積りにより積算

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

市有地であり、都市公園であることから、公園施設や遊歩道としての利用、また頂上に天文科学館があることから老若男女を問わず幅広い世代の住民に利活用されている。

【公的関与の必要性】

市有地であるため、市が管理を行う必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有地であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
その他	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した事業である標識を遊歩道入口に設置
HP掲載	実施前・後	市のホームページにおいて活動内容の紹介
広報誌掲載	実施前・後	市の広報誌において活動内容の紹介
パネル展示	実施後	県尾鷲庁舎県民ホールにて展示

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	尾鷲市

事業名	中村山公園整備事業

7. 写真

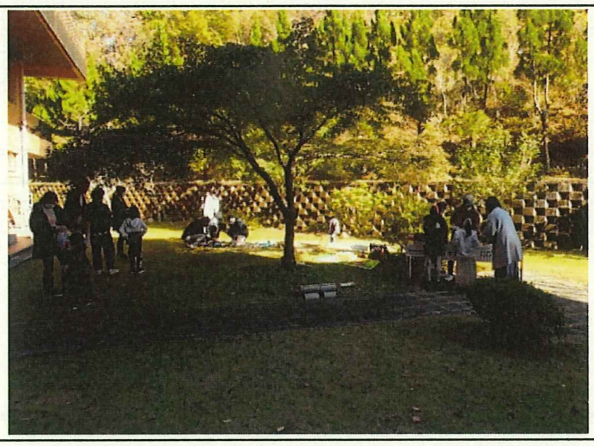


写真1
整備後の活用状況（１）



写真2
整備後の活用状況（２）

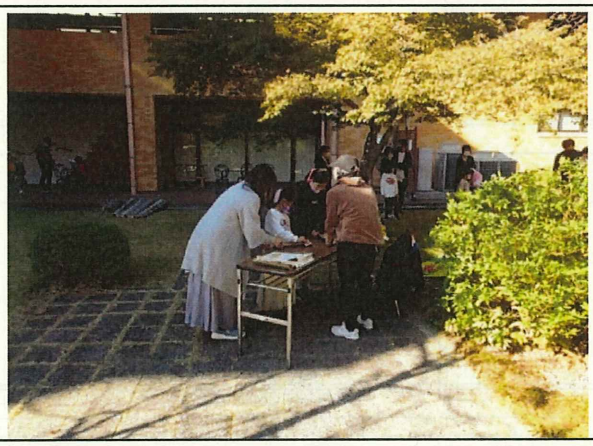


写真3
整備後の活用状況（３）



写真4
設置看板（遊歩道入口）



写真5
事業実施前（R2.10.20）

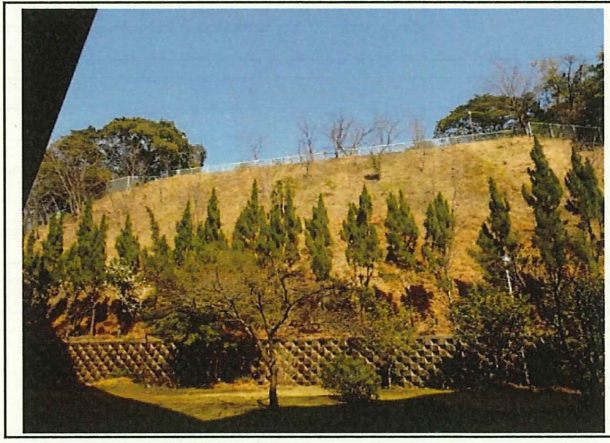


写真6
事業実施後

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	尾鷲市

事業名	中村山公園整備事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考(請負費)
中村山公園危険木伐採	式	1.00	1,995,400	1,995,400	1,892,000
需用費	式	1.00	22,000	22,000	22,000
事業費				2,017,400	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
中村山公園危険木伐採	伐採・集積	式	1.00	579,300	579,300	明細1
	積込・運搬	式	1.00	669,270	669,270	明細2
	処理費	t	15.00	3,000	45,000	
	交通誘導員	日	8.00	12,800	102,400	
	諸経費	式	1.00	418,030	418,030	30%以内
	消費税	%	10.00	1,814,000	181,400	
	計				1,995,400	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
明細1 伐採・集積	特殊作業員	人	13.00	22,100	287,300	
	とび工	人	6.00	26,700	160,200	
	土木一般世話役	日	1.00	22,800	22,800	
	高所作業車	日	4.00	15,000	60,000	12m
	ミニキャタトラ賃料	日	2.00	7,000	14,000	1t、小運搬用
	牽引具損料	日	7.00	5,000	35,000	
	計				579,300	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
明細2 積込・運搬	特殊作業員	人	10.00	22,100	221,000	
	土木一般世話役	人	1.00	22,800	22,800	
	バイオ運搬費	車	19.00	12,130	230,470	2t、30km
	バックホウ賃料	日	9.00	15,000	135,000	3t、ハサミ付
	上記機械回送費	回	3.00	6,000	18,000	
	軽トラック賃料	日	7.00	6,000	42,000	小運搬用
	計				669,270	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
需用費	みえ森と緑の県民税看板	個	1.00	22,000	22,000	
	計				22,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

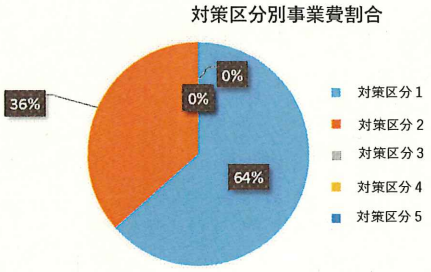
紀北町

第１６号様式（評価委員会資料）

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報：「三重県市町要覧（令和2年度版）」、「令和元度版森林・林業統計」による

市町名	紀北町	三重県
人口（人）	14,556	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	8.1%	12.4%
森林面積(ha)	22,934.39	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	18,009.40	348,833.49
森林率(%)	89.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	41.3	10.1



＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）
＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	1	河川周辺森林立枯木整備事業	4,229,237	4,229,237	4,229,237					
2	2	危険木伐採事業	2,255,000	2,255,000		2,255,000				
3	2	集落周辺森林（里山）整備事業	169,200	169,200		169,200				
4		みえ森と緑の県民税市町交付金基金積立事業		4,380,563						4,380,563
計			6,653,437	11,034,000	4,229,237	2,424,200	0	0	0	4,380,563

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	7.26ha	4,608,784	4,608,784	等高線並べの間伐による緩衝林化
森林再生力強化対策事業	3,773m	2,175,556	2,175,556	鳥獣害防護柵新設・補修
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0	0	0	

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	町民の安全・安心を守る暮らしに身近な森林づくりと、次代を担う子どもたちが森林の大切さを学ぶ機会の創出
事業実施により得られた効果	河川周辺森林立枯木整備事業では、立枯木を伐採してしまうことにより、大雨が降った際に下流域の橋梁等を損傷させてしまうリスクを減らすことができた。危険木伐採事業においては、事業実施主体である各区の森林管理の意識の向上が見られ、補助金活用の要望が増加した。 ※森林環境教育活動支援事業については、新型コロナウイルスの感染が懸念されたため交付金を活用することができませんでした。
情報発信への取組	紀北パーキングエリア内の始神テラスの一角に展示スペースを設け事業成果を示したパネル展示や、ノベルティの配布を行った。 また、町民向けの行政放送テレビチャンネルで県民税について取り扱いを行い、事業実施地にはPR用の木製標柱を設置した。

（参考資料）

令和2年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		(円)	内、譲与税
1	② 意向調査	4,326,727	4,326,727
2	⑬ 木造公共建築物の整備等	4,345,000	4,345,000
3	⑳ 基金積立（執行残額等）	37,475,273	37,475,273
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	46,147,000	46,147,000

第７号様式（その２）

令和2　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり

市町名	紀北町

番号	事業名				
1	河川周辺森林立枯木整備事業				
事業費	4,229,237 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,229,237		

1. 事業の目的

近年、集中豪雨や台風の襲来により山腹崩壊等が多発し、土砂が河川沿いに堆積し、河川沿い山林の立木の立ち枯れが生じている。これらの立枯木を放置すれば、今後の集中豪雨等により立ち枯れ木が下流域に流れ出し、災害の発生を引き起こす恐れが高いため、これらを伐採、搬出する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

河川周辺森林内において、河川沿いの立ち枯れ木等を伐採、搬出して流木の発生を抑制させる。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

町

【補助率等】

－

【箇所数】

２カ所

【事業量】

搬出材積　77.154㎥　（内訳　　音原　65.637㎥　　鍛治屋又　11.517㎥　）

【事業実施期間】

令和２年４月27日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

２級河川赤羽川流域周辺住民

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

職員が現地調査により現状を確認し、実施の必要性を検討して決定している。

【事業実施により得られた効果】

集中豪雨等により立ち枯れ木が下流域に流れ出したことによる災害の発生危険性を未然に回避し、赤羽川流域周辺住民の安全、安心の向上が果たされた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

立枯木伐採のため、活用予定はなし。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

周辺住民や伐採を行った立枯木の所有者から河川内の状況が良くなったと好評を得ている。

令和2　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり

市町名	紀北町

番号	事　業　名				
1	河川周辺森林立枯木整備事業				
事　業　費	4,229,237　円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,229,237		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

流木伐採の作業の経験を有する事業体への委託とした。

【契約方法と落札率または補助率等】

見積書による随意契約　　音原　96.6%　　鍛治屋又　97.6%

【契約相手方の選定理由】

地域の林業の活性化の主観的役割を果たし、山林所有者等地域山林に熟知し、経験、知識等を有する者として森林組合おわせを選定した。

【事業費の積算根拠】

見積書による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

安全性が向上し流域周辺住民の安心につながる。

【公的関与の必要性】

個人では立枯木の伐採には手間も費用もかかることで伐採が遅れてしまうため、町が関与する必要性がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

特に設けていない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	紀北PA始神テラス
施工看板に掲示	実施後	実施場所にて
TV（行政チャンネル等）	実施後	県民税全般に関する情報紹介

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり	市町名	紀北町
事業名	河川周辺森林立枯木整備事業		

7. 写真



写真1
音原【実施前】



写真2
音原【実施後】

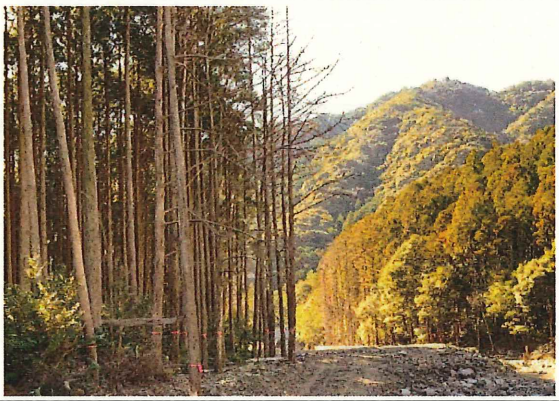


写真3
鍛冶屋又【実施前】



写真4
鍛冶屋又【実施後】



写真5
看板設置状況

第７号様式（その２）

令和2　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	紀北町

番号	事　業　名				
2	危険木伐採事業				
事　業　費	2,255,000　円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,255,000		

1. 事業の目的

人家その他公共施設等に密接し、倒木の危険性のある立木による被害を未然に防止し、生活環境の保全や向上を図る観点から人家裏山林の危険木の伐採費用について補助を行う。

2. 事業実績概要

【事業内容】

人家に隣接し、倒木になる恐れのある山林内の危険木について、緊急に伐採等する必要がある場合に限り、その費用の一部を自治会に補助する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

自治会

【補助率等】

補助率は伐採経費の10分の９とし、１申請者につき１年度50万円（千円未満は切り捨て）を上限とする。

補助対象経費は伐採経費のみとする。

当該危険木の森林所有者とその隣接する人家等の所有者が同一でないこと。

緊急的な伐採が必要な危険木であること。

地目は山林であること。

【箇所数】

８箇所（６自治会）

上里区２カ所計４本、船津区２カ所計100本、島勝浦区１ヶ所７本、山本区１ヶ所30本、

田山区１ヶ所33本、片上区１ヶ所18本

【事業量】

８ヶ所　192本

【事業実施期間】

令和２年４月27日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

危険木伐採により生活環境が向上した地区は６地区。

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

自治会からの要望、補助申請箇所について、職員が写真及び現地調査により現状を確認し、実施の必要性を検討して交付を決定している。

【事業実施により得られた効果】

集中豪雨や強風時の倒木による危険性を未然に回避し、地域住民の生活環境が向上し、安全、安心が確保された。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

危険木伐採のため、活用予定はなし。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

今回の事業実施により、森林所有者はもとより、各地区の住民が森林の管理の必要性を再認識し、森林整備の意識の醸成につながった。また、各自治会からは、人家裏山林の状況を再度確認した上で事業に取り組みたいと聞いている。

令和2　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	紀北町

番号	事　業　名				
2	危険木伐採事業				
事　業　費	2,255,000　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			2,255,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

町が主体となり個人所有の樹木の伐採はできないため、自治会を主体とした補助事業とした。

【契約方法と落札率または補助率等】

伐採事業費の90%（千円未満切捨て）、上限50万円

【契約相手方の選定理由】

契約ではない。

【事業費の積算根拠】

見積書による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

要望をされた自治会の生活の安全性が向上する。

【公的関与の必要性】

個人では危険木の伐採には手間も費用もかかることで伐採が遅れてしまうため、補助によって早期に伐採することが出来る。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町の補助金交付要綱により、自治会が森林所有者から事業実施の同意は得ているが、転用や目的外使用について書面により一定の制限はかけていない。但し、森林内での必要最低限の危険木伐採であり、転用等の話も聞き及んでいない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	紀北PA始神テラス
施工看板に掲示	実施後	実施場所にて
TV（行政チャンネル等）	実施後	県民税全般に関する情報紹介

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

暮らしに身近な森林づくりの重要性を再認識し、税を活用する事業であることを自治会（地区住民）で議論していただくために、自治会としての要望書の提出を事前に義務付けている。

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町

事業名	危険木伐採事業

7. 写真

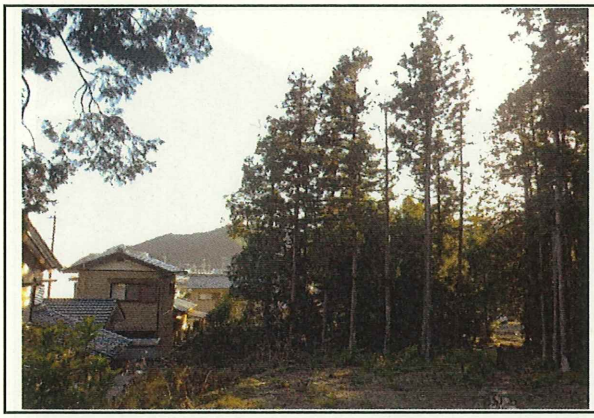


写真1
山本地区【実施前】



写真2
山本地区【実施後】



写真3
山本地区【実施前】



写真4
山本地区【実施後】

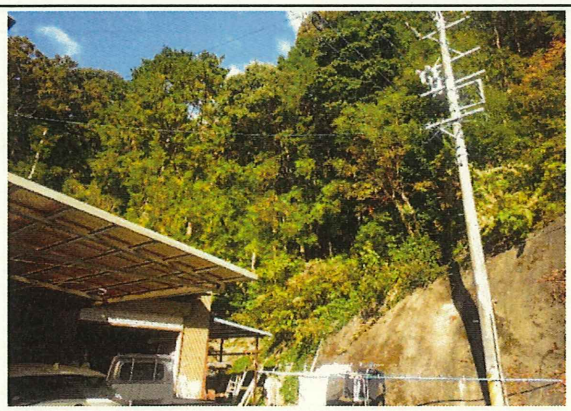


写真5
山本地区【実施前】

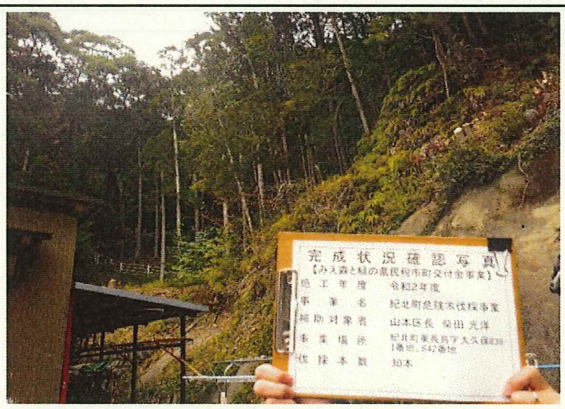


写真6
山本地区【実施後】

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
事業名	危険木伐採事業		

7. 写真



写真７
上里地区【実施前】



写真８
上里地区【実施後】



写真９
上里地区【看板設置状況】



写真10
上里地区【実施前】

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町

事業名	危険木伐採事業

7. 写真



写真11
船津地区【実施前】



写真12
船津地区【実施後】



写真13
船津地区【実施前】



写真14
船津地区【実施後】

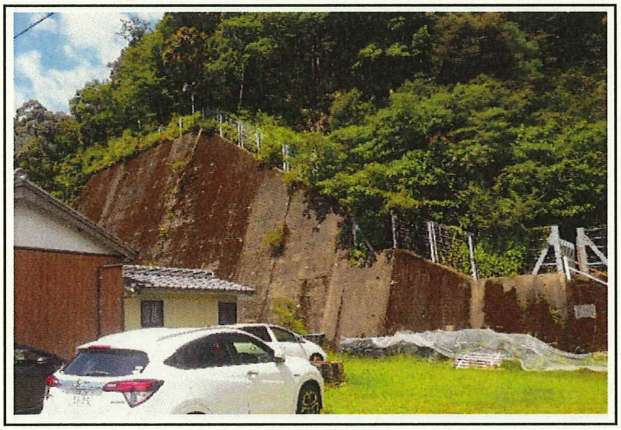


写真15
船津地区【実施前】



写真16
船津地区【実施後】

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町

事業名	危険木伐採事業

7. 写真



写真17
田山地区【実施前】

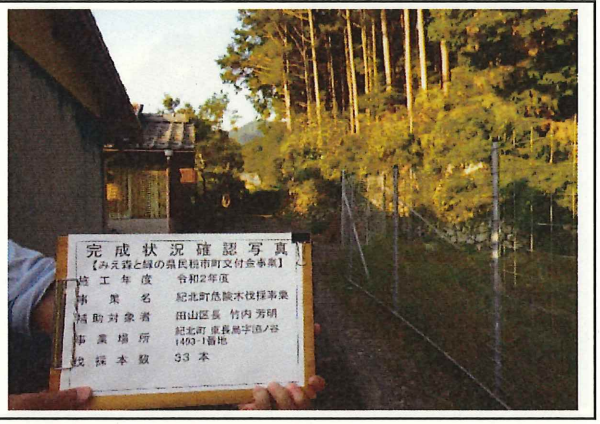


写真18
田山地区【実施後】



写真19
田山地区【実施前】



写真20
田山地区【実施後】



写真21
田山地区【標柱設置】



写真22
田山地区【標柱設置】

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
事業名	危険木伐採事業		

7. 写真



写真23

片上地区【実施前】



写真24

片上地区【実施後】



写真25

片上地区【看板設置状況】



写真26

片上地区【看板設置状況】

第７号様式（その２）

令和2　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	紀北町

番号	事　業　名				
3	集落周辺森林（里山）整備事業				
事　業　費	169,200　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			169,200		

1. 事業の目的

当地域は、沿岸部に人家が密集し、背後に急傾斜地を有する人家が多く、近い将来想定される東南海地震による津波の襲来が心配される。また、近年人家周辺山林に人が入ることが少なくなり、野生動物の隠れ場になっているケースも多い。

このような集落周辺等の荒廃が進む森林を住民自らが整備し、森林の持つ多面的な機能を活用し、安全安心・快適な生活環境を創出していく。

2. 事業実績概要

【事業内容】

集落周辺等の荒廃森林や登山道において、風倒木の伐採、不要萌芽の除去、雑草木の刈払い、歩道の作設、土留めなどの森林整備活動費を実施した地域住民で組織する団体（ボランティア組織）に補助する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域住民で組織する団体（ボランティア組織）

【補助率等】

３名以上で組織する団体が自主的に取り組む、集落周辺の森林整備等に関する保全活動及び森林環境整備活動に直接必要と認められる経費（人件費、食糧費等は除く。）で、1ヘクタール当たり16万円を上限とする。

補助金の額は１団体、年度当たり20万円を上限とする。

集落から概ね１km圏内の森林であること。

【箇所数】

１箇所（１団体）、箇所名：大台ヶ原尾鷲道、木津道、白石湖周回登山道　団体名：NTRC

【事業量】

登山道整備

大台ケ原尾鷲道　11,100m　　木津道　3,240m　　白石湖周回登山道　9,850m　　面積　計1.84ha

1.84ha×80,000円/ha=147,200円　　PR看板　22,000円/本

【事業実施期間】

令和２年４月９日～令和３年３月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

整備は３つの登山道で実施されており、受益人数の把握は困難だが、多くの登山者への波及効果が期待できる。

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

団体からの補助申請箇所について、職員が写真及び現地調査により現状を確認し、実施の必要性を検討して交付を決定している。

【事業実施により得られた効果】

不要な萌芽を除去し、散策路の安全、安心が図られると期待できる。また、登山道が整備され、登山者の安全、安心が図られる。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

登山道として活用される。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

登山者からは、登山道の環境が整備され、安全性が増したという意見をいただいている。

令和2　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	紀北町

番号	事　業　名				
3	集落周辺森林（里山）整備事業				
事　業　費	169,200　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			169,200		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助事業

【実施方法の選定理由】

荒廃した里山等の再生並びに集落周辺の森林整備など、暮らしに関わりの深い森林づくりが地域住民の自主的な取り組みにより継続的に実施されることを期待するとともに、最小限の費用で整備することが可能であることから団体への補助事業としている。

【契約方法と落札率または補助率等】

森林整備活動に直接必要と認められる経費（人件費、食糧費は除く。）で、1ヘクタール当たり単価は、新規箇所では16万円、継続箇所は8万円とし、1団体、年度当たり20万円を上限とする。

【契約相手方の選定理由】

契約はしていない。

【事業費の積算根拠】

集落周辺森林（里山）の整備に必要な活動経費（人件費、食糧費は除く。）を補助対象としており、実績報告により提出された請求書や領収書により、町職員が支出内容を確認している。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

大台ヶ原への登山道の整備であり、多くの登山者の利用が期待できる。

【公的関与の必要性】

紀北町は「自然と共生の町」を宣言しており、豊かな自然のある大台ヶ原への登山道の整備であることから、税を活用した登山者の安全確保は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

登山道については以前から登山者や森林所有者が利用しており、今後も同様の活用となると考えられる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	紀北PA始神テラス
施工看板に掲示	実施後	実施場所にて
TV（行政チャンネル等）	実施後	県民税全般に関する情報照会

7. 写真

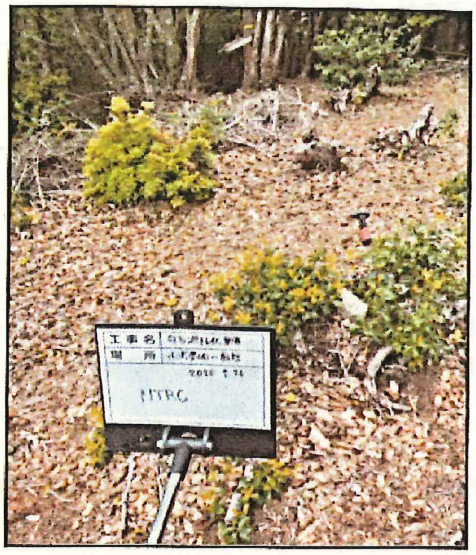
別紙のとおり

8. その他特記事項

『NTRC』に対し、本事業の取り組みを継続的に実施するよう求めた。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町
事業名	集落周辺森林（里山）整備事業		

7. 写真



白石湖周回登山道整備
撮影者：NTRC
日付：2020年04月26日
備考：作業内容: 標識・道標更新(小浦峠、生熊山分岐、大田賀ノ頭分岐)、刈払い、マーキングテープ更新、ガイドロープ更新・設置、再伐開、ベンチ補修、etc



白石湖周回登山道整備
撮影者：NTRC
日付：2020年04月26日
備考：作業内容: 標識・道標更新(小浦峠、生熊山分岐、大田賀ノ頭分岐)、刈払い、マーキングテープ更新、ガイドロープ更新・設置、再伐開、ベンチ補修、etc



白石湖周回登山道整備
撮影者：NTRC
日付：2020年04月26日
備考：作業内容: 標識・道標更新(小浦峠、生熊山分岐、大田賀ノ頭分岐)、刈払い、マーキングテープ更新、ガイドロープ更新・設置、再伐開、ベンチ補修、etc

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町

事業名	集落周辺森林（里山）整備事業

7. 写真



白石湖周回登山道整備
撮影者：NTRC
日付：2020年04月26日
備考：作業内容: 標識・道標更新(小浦峠、生熊山分岐、大田賀ノ頭分岐)、刈払い、マーキングテープ更新、ガイドロープ更新・設置、再伐開、ベンチ補修、etc



白石湖周回登山道整備
撮影者：NTRC
日付：2020年04月26日
備考：作業内容: 標識・道標更新(小浦峠、生熊山分岐、大田賀ノ頭分岐)、刈払い、マーキングテープ更新、ガイドロープ更新・設置、再伐開、ベンチ補修、etc



白石湖周回登山道整備
撮影者：NTRC
日付：2020年04月26日
備考：作業内容: 標識・道標更新(小浦峠、生熊山分岐、大田賀ノ頭分岐)、刈払い、マーキングテープ更新、ガイドロープ更新・設置、再伐開、ベンチ補修、etc

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	紀北町

事業名	集落周辺森林（里山）整備事業

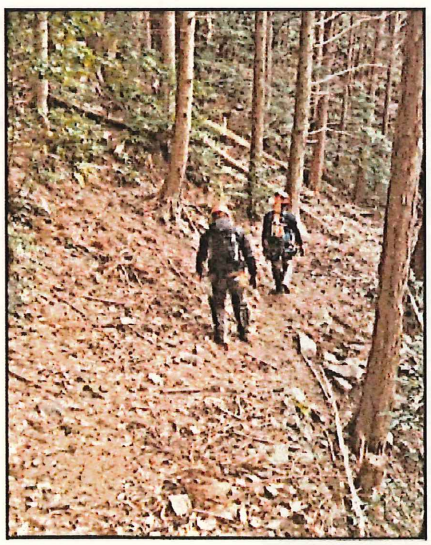
7. 写真



木津道登山道整備
撮影者：NTRC
日付：2021年01月17日
備考：作業内容: 倒木処理、作道(路盤・路面修復)、支障木伐採、安全対策施工(ガイドロープ設置)



木津道登山道整備
撮影者：NTRC
日付：2021年01月17日
備考：作業内容: 倒木処理、作道(路盤・路面修復)、支障木伐採、安全対策施工(ガイドロープ設置)



木津道登山道整備
撮影者：NTRC
日付：2021年01月17日
備考：作業内容: 倒木処理、作道(路盤・路面修復)、支障木伐採、安全対策施工(ガイドロープ設置)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀北町

事業名	集落周辺森林（里山）整備事業

7. 写真



大台ヶ原尾鷲道登山道整備
撮影者：
日付：2020年08月09日
備考：作業内容:道標更新・新規設置、倒木除去、マーキングテープ更新、標識補修



大台ヶ原尾鷲道登山道整備
撮影者：
日付：2020年08月09日
備考：作業内容:道標更新・新規設置、倒木除去、マーキングテープ更新、標識補修



大台ヶ原尾鷲道登山道整備
撮影者：
日付：2020年08月09日
備考：作業内容:道標更新・新規設置、倒木除去、マーキングテープ更新、標識補修







熊野市

第１６号様式（評価委員会資料）

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報

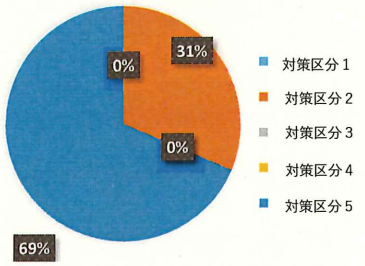
市町名	熊野市	三重県
人口（人）	16,113	1,782,190
年少人口割合（%）＊１	9.9%	12.4%
森林面積(ha)	32,935.18	372,352.55
民有林面積(ha)＊２	29,621.62	348,833.49
森林率(%)	88.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊３	9.8	10.1

＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	2	森林病害虫等防除実施事業	1,054,900	1,054,900		1,054,900				
2	2	身近なみどり整備推進事業	107,000	107,000		107,000				
3	2	暮らしを守る危険木伐採事業	1,433,300	1,433,300		1,433,300				
4	5	森とふれあいの場拠点づくり事業	3,520,000	3,520,000					3,520,000	
5	5	景勝林等保護事業	2,156,000	2,156,000					2,156,000	
6		基金積立	6,163,019	6,162,800						6,162,800
計			14,434,219	14,434,000	0	2,595,200	0	0	5,676,000	6,162,800

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量（ha・m）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業	18.18	10,870,200	10,870,200	山腹崩壊抑制のための森林整備
森林再生力強化対策事業	2,687	1,418,545	1,418,545	獣害防止施設等に対する一部補助
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	森林環境譲与税を財源とした森林施策とのすみ分けを行いながら、市の総合計画における森林政策の１つである「市民と共存する豊かな森づくり」を推進する財源としてみえ森と緑の県民税を活用し、森林とのふれあいの場や癒しの効果を体験しながら四季折々の自然の美しさを満喫できる森林レクリエーションを充実するための整備を進める。
事業実施により得られた効果	市が公益性の判断で実施する事業には特定機能の維持を図るもののほか、生活道路や施設の利用者など多くの人々に効果を及ぼすものが多く、県民税事業を行うことにより、安全・安心に地元の森林や自然とふれあう環境を整備することができ、市民だけでなく市への来訪者も恩恵を受けている。
情報発信への取組	事業実施の際にはのぼりや看板によって県民税のPRを行っているが、広い市域の中にあって事業箇所が点在しており、利用者の目にふれる機会が少ないことから、市のホームページに事業の計画と実績の紹介や市の玄関口であるJR熊野市駅や市街地に近い市文化交流センターにおいて例年パネル展示を行っている。

＊評価の参考として、別紙「森林環境譲与税事業の実績」を添付すること。

（参考資料）

令和２年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		（円）	内、譲与税
1	① 意向調査の準備作業	39,214,480	39,214,480
2	⑳ 基金積立（執行残額等）	47,357,467	47,357,467
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	86,571,947	86,571,947

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	熊野市

番号	事　業　名				
1	森林病害虫等防除実施事業				
事　業　費	1,054,900　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,054,900		

1. 事業の目的

高度公益機能森林として防風・防潮・飛砂防止など、地域の暮らしの環境を守っている有馬町防風保安林内において、松くい虫の蔓延を防止するため、松くい虫防除作業を実施する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

松くい虫被害を防止するため、樹幹への薬剤注入を行った。また、松くい虫の駆除を促進し、その蔓延を防止するため、伐倒駆除・くん蒸処理により森林の保全を行った。（昨年度からの継続事業）

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

熊野市（委託先：三重くまの森林組合）

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

高度公益機能森林：1.8ha

【事業量】

薬剤注入：病木73本（薬剤297本使用）、伐倒・くん蒸：2.0㎥

【事業実施期間】

令和２年５月１日～令和３年3月1日

【受益者、参加者、利用者数等】

１地区（有馬町…2,050世帯・3,889人）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

地域森林計画で指定された高度公益機能森林であるため

【事業実施により得られた効果】

松林が有する防風・防潮・飛砂防止などの森林機能の発揮が維持され、地域住民の快適な暮らしを守ることができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

防風・防潮・飛砂の防止などの森林機能が今後も発揮されていく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

事業箇所外の七里御浜海岸内に立ち枯れした松が存在していることから、当事業の成果を維持していくためには、海岸の管理者である三重県にも市と連携した防除施策をお願いしたいとの声が受託者等から寄せられている。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	熊野市

番号	事　業　名				
1	森林病害虫等防除実施事業				
事　業　費	1,054,900 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,054,900		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

薬剤確保など直営での実施が困難であり、専門的な知識と技術を有する者への委託が最適であると判断したため。

【契約方法と落札率または補助率等】

１者見積りによる随意契約（落札率　薬剤注入：100.0%、伐倒くん蒸：98.5%）

【契約相手方の選定理由】

当事業で行う薬剤の樹幹注入には専門的な知識と技術が必要であるため、類似業務の実績が豊富な森林組合に委託するのが適当であると判断したため。

【事業費の積算根拠】

関連業務の単価表をもとにして適正な設計を行っている。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

対象森林は集落に近く、地域住民の日常生活に多大な影響を与えるものであるとともに、国道42号に接していることから森林が機能不全に陥ると市内外・県内外の交通・物流に甚大な被害をもたらす危険性がある。

【公的関与の必要性】

複数の森林所有者が存在しているため、森林所有者の自主的な防除の実現可能性が極めて低く、早急に防除を実施する必要があることから市が行うのが適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者が通常の責務を果たしていくことにより、森林の適正な維持が保たれる。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施中	看板に県民税活用を記載した。
のぼり設置	実施中	工事個所に県民税ののぼり旗を設置した。
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行った。
HP掲載	実施前	県民税活用事業として年度当初にHPで公表した。。
HP掲載	実施後	事業結果については事業実施翌年度当初にHPで公表した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市

事業名	森林病害虫等防除実施事業

7. 写真



写真1
薬剤注入（実施後）①



写真2
薬剤注入（実施後）②



写真3
伐倒駆除・くん蒸（実施後）①



写真4
伐倒駆除・くん蒸（実施後）②



写真5
情報発信（のぼり旗、看板）：伐倒駆除中



写真6
情報発信（のぼり旗、看板）：樹幹注入中

（評価委員会資料）

対策区分		市町名	熊野市

事業名	情報発信（各事業共通）

7. 写真



写真1
パネル展示（熊野市文化交流センター）



写真2
パネル展示（熊野市文化交流センター）



写真3
HP掲載



写真4
HP掲載（前年度(R01)事業実績紹介）

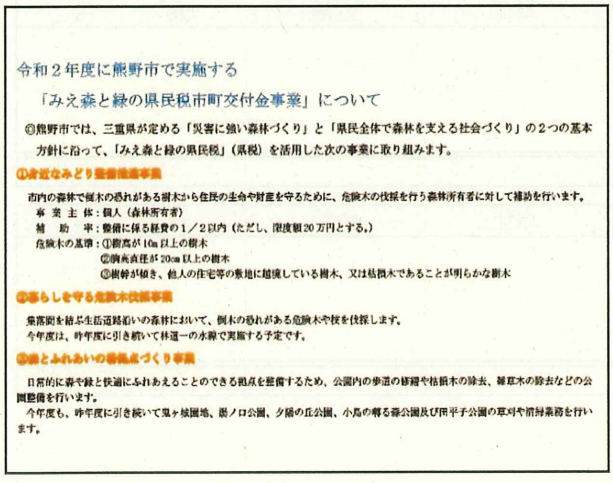


写真5
HP掲載（今年度（R02)事業紹介）



写真6
HP掲載（今年度（R02)事業紹介）

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	熊野市

事業名	森林病害虫等防除実施事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
樹幹注入	式	1.00	984,500	984,500	
伐倒駆除・くん蒸	式	1.00	71,500	71,500	
入札に伴う減額				△ 1,100	
事業費				1,054,900	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
樹幹注入	薬剤費	本	297.00	2,500	742,500	参考：令和２年度森林病
	薬剤注入費	百本	2.97	43,230	128,393	害虫等防除事業単価表
	設計書調整				△ 893	
	諸経費（20%以内）				25,000	
	消費税				89,500	
	計				984,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
伐倒駆除・くん蒸	伐倒費	m3	2.00	12,152	24,304	参考：令和２年度森林病
	薬剤費	m3	2.00	5,008	10,016	害虫等防除事業単価表
	くん蒸費	m3	2.00	10,976	21,952	
	小計				56,000	千円未満切り捨て
	諸経費（20%以内）				9,000	千円未満切り捨て
	計				71,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市

番号	事　業　名				
2	身近なみどり整備推進事業				
事　業　費	107,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			107,000		

1. 事業の目的

市民の暮らしに関わりの深い、集落周辺等の森林や公共の場等の緑地を整備することにより、生活環境の保全や向上を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

台風等による倒木のおそれがあり、住民生活に支障をきたす危険木の除去に対して支援した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

区又は個人（森林所有者）

【補助率等】

整備に係る経費の１／２以内（ただし、限度額20万円とする。）

【箇所数】

私有林１箇所

【事業量】

広葉樹３本

【事業実施期間】

令和２年５月１日～令和３年３月26日

【受益者、参加者、利用者数等】

１集落（106人）が整備によって倒木被害を受けるおそれがなくなった。

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

熊野市身近なみどり整備推進事業費補助金交付要綱に規定する補助要件を満たしているため、補助を行った。

【事業実施により得られた効果】

危険木の除去により住民の身近な森林環境が整備されたことで、地域住民の生命及び財産に対する脅威を減らすことができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

市民生活への脅威がなくなった場所として、地域住民が快適に暮らすことができるとともに、身近な森林として親しむことができる。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

住み慣れた環境で今後も安心して暮らすことができると喜ばれている。

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	熊野市

番号	事　業　名				
2	身近なみどり整備推進事業				
事　業　費	107,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			107,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

補助

【実施方法の選定理由】

当事業の整備は森林所有者が行うべきものと判断されるため、森林所有者が費やした経費の一部を補助することとした。

【契約方法と落札率または補助率等】

危険木の伐採に要した経費の１／２（上限20万円）

【契約相手方の選定理由】

委託事業ではなく、該当しない。

【事業費の積算根拠】

伐採業者の見積書及び領収書の写しを添付させている。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

集落に居住する者が106人と少数ではあるが、当市のような過疎が進んだ地域にとっては、住み慣れた土地に住み続けることができ、安全・安心の住環境を整備することは極めて重要であり、また、地域住民だけではなく森林利用者にとっても受益を得られるものである。

【公的関与の必要性】

経費の一部補助を行うことにより、森林所有者自らによる危険防止伐採が促進される。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者が適切に管理していく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行う。
HP掲載	実施前	県民税活用事業として年度当初にHPで公表する。
HP掲載	実施後	事業結果については事業実施翌年度当初にHPで公表する。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市

事業名	身近なみどり整備推進事業

7. 写真

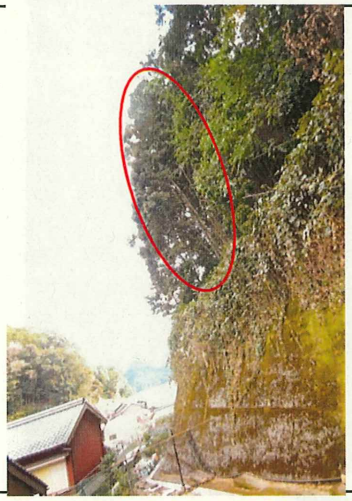


写真1
実施前

写真2

写真2
実施後写真は別紙のとおり

写真3

写真3

写真4

写真4

写真5

写真5

写真6

写真6

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市

事業名	身近なみどり整備推進事業

7. 写真





伐採後

（評価委員会資料）

対策区分		市町名	熊野市

事業名	情報発信（各事業共通）

7. 写真



写真1
パネル展示（熊野市文化交流センター）



写真2
パネル展示（熊野市文化交流センター）



写真3
HP掲載



写真4
HP掲載（前年度(R01)事業実績紹介）

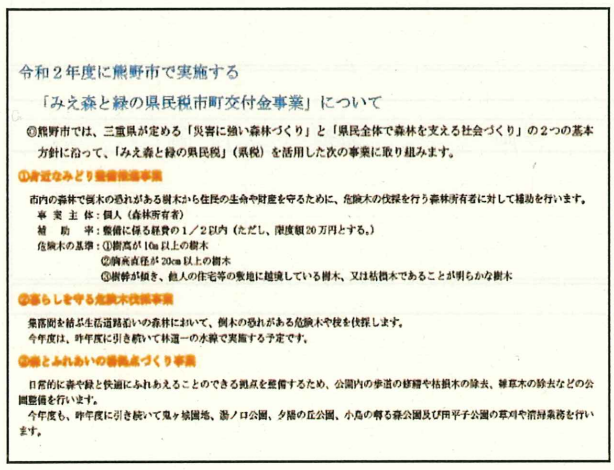


写真5
HP掲載（今年度（R02)事業紹介）



写真6
HP掲載（今年度（R02)事業紹介）

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	熊野市

事業名	身近なみどり整備推進事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
補助金	件	1.00		107,000	対象経費214,060円
事業費		1.00		107,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	熊野市

番号	事　業　名				
3	暮らしを守る危険木伐採事業				
事　業　費	1,433,300　円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,433,300		

1. 事業の目的

集落間を結ぶ生活道路沿いの倒木等のおそれのある危険木や枝を伐採することにより、台風等の影響により倒木となり生活道路が閉鎖され、集落が孤立することを未然に防止し、日常生活が確保されることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

集落間の生活道路（林道評議峠線）沿いにおいて、倒木等のおそれのある危険木や枝を伐採する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

熊野市（委託先：三重くまの森林組合）

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

１路線

【事業量】

危険木除去延長　1,722m

【事業実施期間】

令和２年５月１日～令和２年12月25日

【受益者、参加者、利用者数等】

対象道路が関係する３集落の1,972世帯3,489人の安心・安全な交通が確保された。

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

危険木伐採の未整備路線であり、生活物資の購入などを行う市街地に通じる生活道路であるため。

【事業実施により得られた効果】

倒木等によるライフラインの断絶のおそれがなくなり、地域住民が住み慣れた環境で安全・安心の暮らしをしていくことが維持される。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

道路管理者である熊野市が適正に維持管理することにより、今後も多数の地域住民が利用する集落間道路の役割を果たしていく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

買い物や通勤の安全性が確保され、住み慣れた環境で今後も安心して暮らすことができると喜ばれている。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	熊野市

番号	事　業　名				
3	暮らしを守る危険木伐採事業				
事　業　費	1,433,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,433,300		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

直営での実施が困難であり、専門的な知識と技術を有する者への委託が最適であると判断したため。

【契約方法と落札率または補助率等】

１者見積りによる随意契約（落札率　98.4%）

【契約相手方の選定理由】

当事業で行う危険木伐採は地質や樹木の形状などによって方法が異なるため、類似業務の実績が豊富であり、専門的な知識と技術を有する森林組合に委託するのが適当であると判断したため。

【事業費の積算根拠】

見積りをもとにして適正な設計を行っている。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

森林に囲まれた集落間道路の危険を未然に防ぐことは、地域住民の日常生活を維持するために必要不可欠であり、その公益性は極めて高いものである。

【公的関与の必要性】

道路沿いの森林所有者は複数存在しており、早期の整備を行うためには道路管理者である市が行うのが適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

道路管理者である熊野市が適正に管理していく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施中	看板に県民税活用を記載した。
のぼり設置	実施中	工事個所に県民税ののぼり旗を設置した。
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行った。
HP掲載	実施前	県民税活用事業として年度当初にHPで公表した。。
HP掲載	実施後	事業結果については事業実施翌年度当初にHPで公表した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市

事業名	暮らしを守る危険木伐採事業

7. 写真

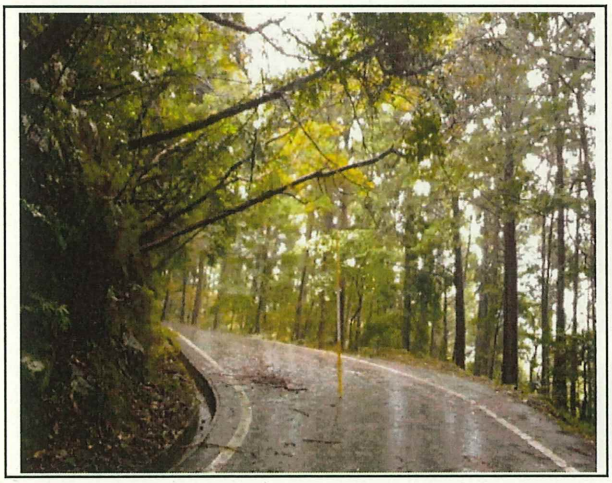


写真1
林道評議峠線①（実施前）



写真2
林道評議峠線①（実施後）

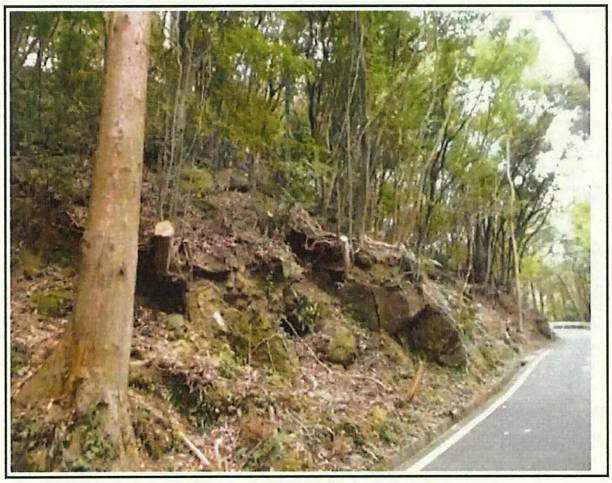


写真3
林道評議峠線②（実施後）



写真4
林道評議峠線③（実施後）



写真5
林道評議峠線④（実施後）



写真6
情報発信（のぼり旗、工事看板）：実施中

（評価委員会資料）

対策区分		市町名	熊野市

事業名	情報発信（各事業共通）

7. 写真



写真1
パネル展示（熊野市文化交流センター）



写真2
パネル展示（熊野市文化交流センター）



写真3
HP掲載



写真4
HP掲載（前年度(R01)事業実績紹介）

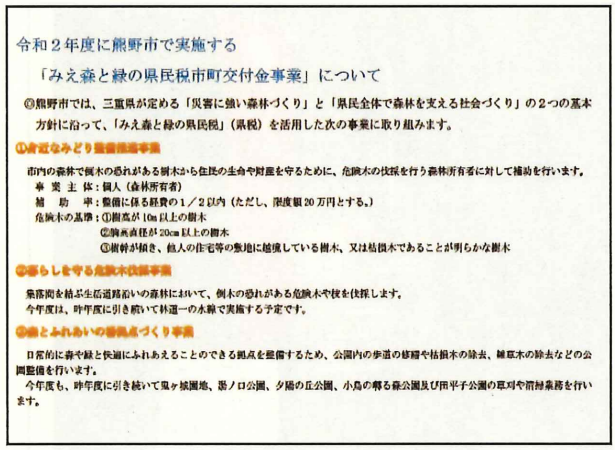


写真5
HP掲載（今年度（R02)事業紹介）



写真6
HP掲載（今年度（R02)事業紹介）

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	熊野市

事業名	暮らしを守る危険木伐採事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
直接費（伐採工）	式	1.00		1,021,000	
諸経費				304,000	直接費の30%以内
小計				1,325,000	
消費税				132,500	
設計額				1,457,500	変更1
入札減額				24,200	98.4%
事業費				1,433,300	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
直接費	伐採工	m	1722.00	593	1,021,146	
	設計額調整				△ 146	
	計				1,021,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　　２　　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	熊野市

番号	事　業　名				
4	森とふれあいの場拠点づくり事業				
事　業　費	3,520,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			3,520,000		

1. 事業の目的

癒しや健康づくり、森林環境教育の場として活用するなど、地域住民にとって身近に森や緑とふれあうことのできる森林公園の整備を行う。

2. 事業実績概要

【事業内容】

森林公園内の歩道の修繕や枯損木の除去、雑草木の除去など森林公園の維持に必要な作業を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

熊野市（委託先：三重くまの森林組合）

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

５森林公園（鬼ヶ城園地、小鳥の囀る森公園、田平子公園、夕陽の丘公園、湯ノ口公園）

【事業量】

合計13.32ha

【事業実施期間】

令和２年５月１日～令和２年11月6日

【受益者、参加者、利用者数等】

公園利用者：合計21,950人（鬼ヶ城園地18,000人・小鳥の囀る森公園150人・湯ノ口公園3,500人・夕陽の丘公園150人・田平子公園150人）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

熊野市が管理し、一定の利用者が見込まれる森林公園であるため。

【事業実施により得られた効果】

新型コロナウイルス感染症の影響により、森林公園を利用するイベントの一部が開催が中止されたが、日常的に森林や緑にふれあうことのできる拠点を利用者に提供することができている。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

熊野古道を訪れる観光客や、近年増加しているトレイルランニングやボルダリングの愛好者、温泉施設の利用客などが周辺森林環境を快適に利用するための拠点として活用していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少しているが、利用者からは今後も森林公園を快適に利用できるよう整備を維持してほしいとの要望が寄せられている。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	熊野市

番号	事業名				
4	森とふれあいの場拠点づくり事業				
事業費	3,520,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			3,520,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

直営での実施が困難であり、森林に対する専門的な知識と山林内での作業技術を有する者への委託が最適であると判断したため。

【契約方法と落札率または補助率等】

１者見積りによる随意契約（落札率　99.9%）

【契約相手方の選定理由】

当事業で行う森林公園の下刈りは、公園管理としてではなく森林整備として実施するものであるため、類似業務の実績が豊富であり、専門的な知識と技術を有する森林組合に委託するのが適当であると判断したため。

【事業費の積算根拠】

森林整備に関連した単価表をもとにして適正な設計を行っている。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

獣害圧が高い当地域にとって、身近と言えども快適な利用が難しい立地条件にある森林公園を快適な利用環境におくことは、身近な森と緑の環境づくりにとって意義の高いものであり、公益性が高い。

【公的関与の必要性】

森林公園の管理者である市が行うのが適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林公園の管理者である熊野市が適正に管理していく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施中	看板に県民税活用を記載した。
のぼり設置	実施中	工事個所に県民税ののぼり旗を設置した。
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行った。
HP掲載	実施前	県民税活用事業として年度当初にHPで公表した。。
HP掲載	実施後	事業結果については事業実施翌年度当初にHPで公表した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分		市町名	熊野市

事業名	情報発信（各事業共通）

7. 写真



写真1
パネル展示（熊野市文化交流センター）



写真2
パネル展示（熊野市文化交流センター）



写真3
HP掲載



写真4
HP掲載（前年度(R01)事業実績紹介）

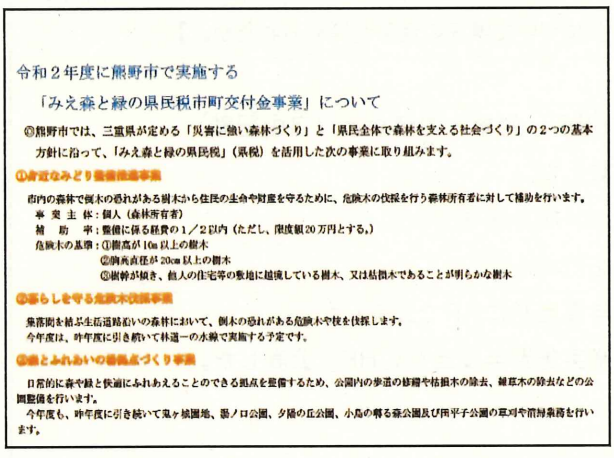


写真5
HP掲載（今年度（R02)事業紹介）



写真6
HP掲載（今年度（R02)事業紹介）

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業

7. 写真

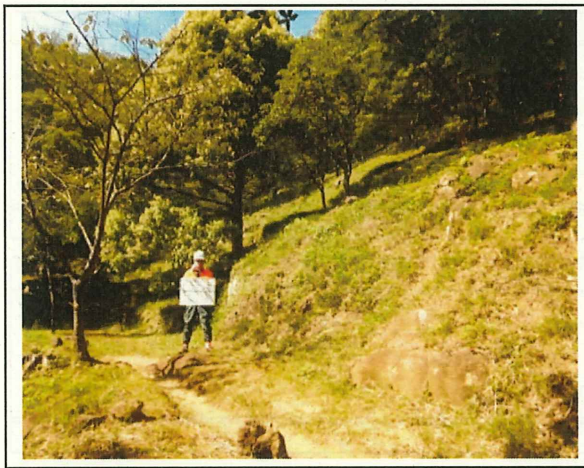


写真1
鬼ヶ城園地（実施後）



写真2
小鳥の囀る森公園（実施後）

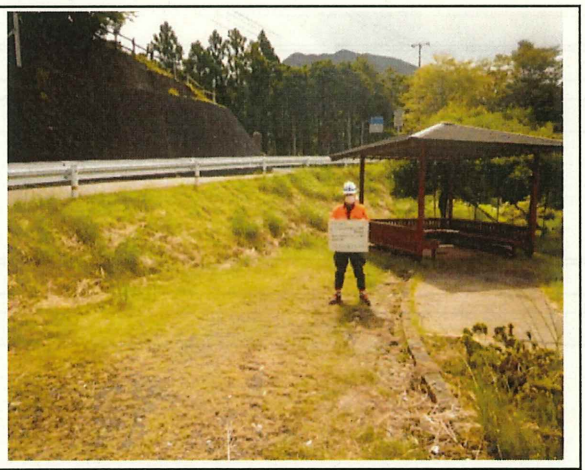


写真3
田平子公園（実施後）



写真4
夕陽の丘公園（実施後）

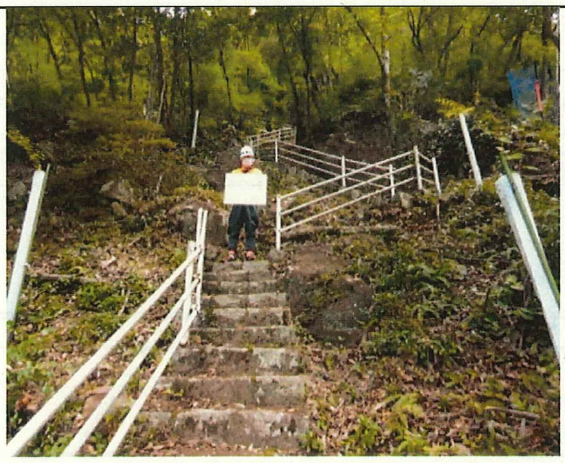


写真5
湯ノ口公園（実施後）



写真6
情報発信（のぼり旗、看板）：歩道整備中

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	熊野市

事業名	森とふれあいの場拠点づくり事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
下刈り	ha	13.05	173,440	2,263,000	
歩道草刈り	ha	0.27	264,604	71,000	
諸経費				870,000	
消費税				320,400	
入札による差金				△ 4,400	
				3,520,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	熊野市

番号	事業名				
5	景勝林等保護事業				
事業費	2,156,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,156,000		

1. 事業の目的

さくら類てんぐ巣病に侵された桜木に適切な処置を行うことにより、景勝林としての役割を維持し、地域の身近な森林環境の適正な管理を行う。

2. 事業実績概要

【事業内容】

景勝林として資源化している鬼ヶ城園地及び夕陽の丘公園において、てんぐ巣病に侵されたサクラの患部の除去、林外への搬出を行うとともに、クマノザクラ植栽に向けた現地調査を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

熊野市（委託先：三重くまの森林組合）

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

２箇所（鬼ヶ城園地、夕陽の丘公園）

【事業量】

①鬼ヶ城園地：毎木調査4.0ha（894本）、②夕陽の丘公園：病木伐採６本

【事業実施期間】

令和２年５月１日～令和３年３月18日

【受益者、参加者、利用者数等】

公園利用者：鬼ヶ城園地18,000人、夕陽の丘公園150人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

熊野市が管理し、一定の利用者が見込まれる森林公園であるため。

【事業実施により得られた効果】

今後も景勝林としての役割が期待でき、地域内外からの園地の利用が促進される環境づくりができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

熊野古道を訪れる観光客や、年々増加しているトレイルランニングやボルダリングの愛好者、温泉施設の利用客などが周辺森林環境を快適に利用するための拠点として活用していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少しているが、利用者からは今後も周辺を快適に利用できるよう整備を維持してほしいとの要望が寄せられている。

令和　２　年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	熊野市

番号	事　業　名				
5	景勝林等保護事業				
事　業　費	2,156,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			2,156,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

直営での実施が困難であり、森林に対する専門的な知識と山林内での作業技術を有する者への委託が最適であると判断したため。

【契約方法と落札率または補助率等】

１者見積りによる随意契約（落札率　99.7%）

【契約相手方の選定理由】

当事業で行う病木伐採は地質や樹木の形状などによって方法が異なり、また、てんぐ巣病の判定についても樹木に関する知識が必要であるため、類似業務の実績が豊富であり、専門的な知識と技術を有する森林組合に委託するのが適当であると判断した。

【事業費の積算根拠】

森林整備に関連した単価表をもとにして適正な設計を行っている。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

地域資源として多くの利用者が存在する園地・公園内において、利用者を枯損木の倒木の危険から守り、快適な利用環境におくことは、身近な森と緑の環境づくりにとって意義の高いものであり、公益性が高い。

【公的関与の必要性】

施設管理者である市が行うのが適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設管理者である熊野市が適正に管理していく。また、クマノザクラへの樹種転換への検討を進めていく。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施中	看板に県民税活用を記載した。
のぼり設置	実施中	工事個所に県民税ののぼり旗を設置した。
パネル展示	実施後	事業結果のパネル展示を行った。
HP掲載	実施前	県民税活用事業として年度当初にHPで公表した。。
HP掲載	実施後	事業結果については事業実施翌年度当初にHPで公表予定。（R02新規のため）

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	５．地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	熊野市

事業名	景勝林等保護事業

7．写真



写真1
鬼ヶ城園地・てんぐ巣病

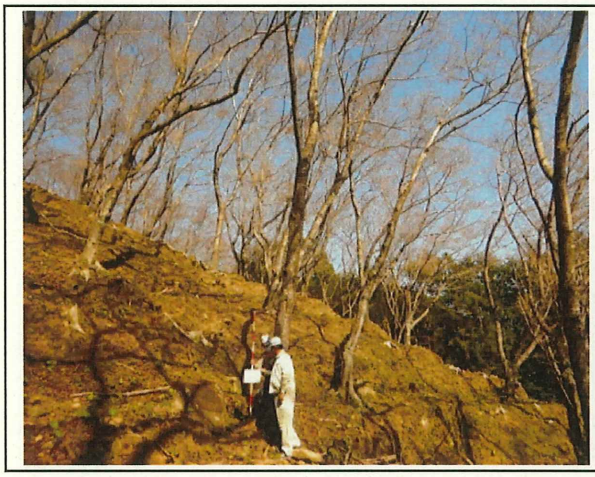


写真2
鬼ヶ城園地・毎木調査（実施後）



写真3
夕陽の丘公園・患部除去（実施後）

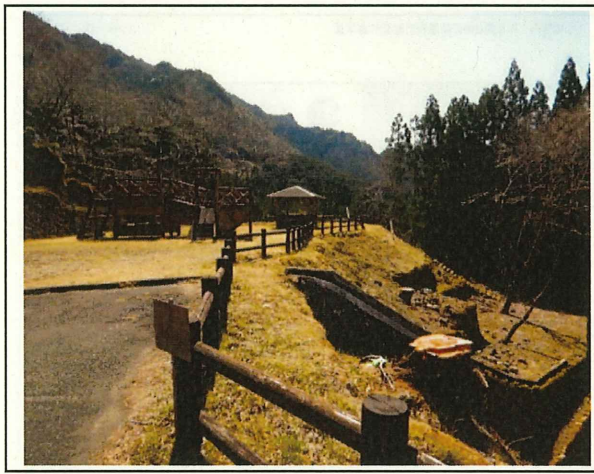


写真4
夕陽の丘公園・伐採（実施後）



写真5
情報発信（のぼり旗）：毎木調査実施中

写真6

写真6

（評価委員会資料）

対策区分		市町名	熊野市
事業名	情報発信（各事業共通）		

7. 写真



写真1
パネル展示（熊野市文化交流センター）



写真2
パネル展示（熊野市文化交流センター）



写真3
HP掲載



写真4
HP掲載（前年度(R01)事業実績紹介）

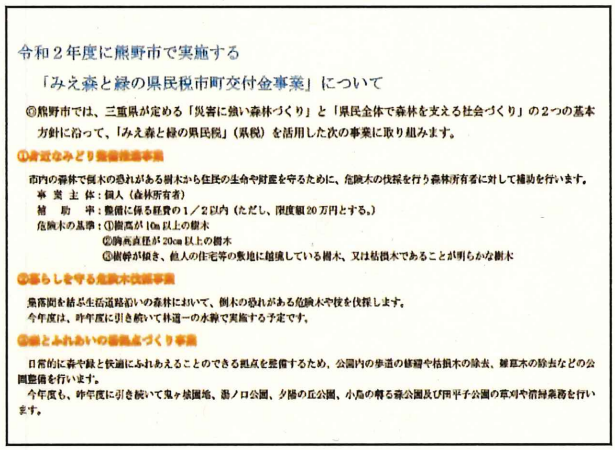


写真5
HP掲載（今年度（R02)事業紹介）



写真6
HP掲載（今年度（R02)事業紹介）

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	熊野市

事業名	景勝林等保護事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
現地調査（鬼ヶ城園地）	式	1.00		211,000	
病木伐採（夕陽の丘公園）	式	1.00		1,183,000	
共通仮設費（直接工事費の7.7%）				107,000	
間接費 （直接工事費＋共通仮設費の31%以内）				465,000	
消費税				196,600	
入札による差金				△ 6,600	
				2,156,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

御浜町

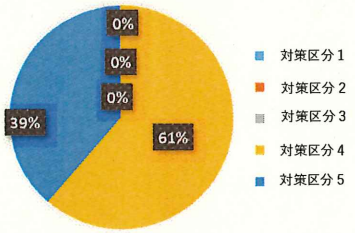
第１６号様式（評価委員会資料）

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

市町名	御浜町	三重県
人口（人）	8,200	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	11.0%	12.4%
森林面積(ha)	5,691.76	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	5,598.49	348,833.49
森林率(%)	65.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	20.4	10.1

対策区分別事業費割合



＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	4	中央公民館木質化事業	3,257,802	3,257,802				3,257,802		
2	5	森林公園等環境整備事業	1,254,000	1,254,000					1,254,000	
3	5	熊野古道道標等設置事業	1,372,000	788,000					788,000	
4		みえ森と緑の県民税市町交付金積立事業	2,563,198	2,563,198						2,563,198
5				0						
6				0						
7				0						
計			8,447,000	7,863,000	0	0	0	3,257,802	2,042,000	2,563,198

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	森林は木材価格の低迷により未整備森林の増加が懸念されており、公益的機能を十分発揮できない森林の整備については森林環境譲与税を活用して整備を行い、一方県民税では、森林公園等のフィールド整備を行い、住民が森林や緑とふれあう機会を創出し、また森林環境教育を行う公共施設等で木材を利用することにより、木材の良さを伝え、木材を使うことが森林整備につながることへの理解を深めていく。
事業実施により得られた効果	多くの児童が利用する図書館や世界遺産熊野古道での備品等の木質化を行い、県産材に触れながら森林についての学習ができる場を提供することができた。また、森林公園の整備を行うことにより、住民に森や緑に触れ合う機会を創出することができた。
情報発信への取組	町民や施設利用者へ県民税を活用して整備が行われていることを周知するため、作業期間中に県民税ののぼり等の設置、庁舎内でのパネル掲示、事業により導入した備品等への県民税ロゴマークの貼付、事業実施施設への県民税ポスターの掲示を実施した。

（参考資料）

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		（円）	内、譲与税
1	① 意向調査の準備作業	3,494	3,494
2	⑰ 基金積立（森林整備等）	6,904	6,904
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	10,398	10,398

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	御浜町

番号	事業名				
1	中央公民館木質化事業				
事業費	3,257,802 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			3,257,802	0	0

1. 事業の目的

平成25年8月、御浜町では公共建築物等木材利用方針を定め、町が整備する公共建築物においては率先して木材を利用することとしている。そこで、木づかいを通じて森林を支えるため、御浜町立の公民館における木材製品の導入や施設の木質化などを通じて、木材利用を促進し、木材と町民との関係を深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

木製製品の導入

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

御浜町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

１箇所（御浜町立中央公民館）

【事業量】

○図書返却ポスト×1　○移動書架×2　○机×5　○イス×20　○ベンチ×4　○掲示板×1

【事業実施期間】

令和2年6月～令和3年3月

【受益者、参加者、利用者数等】

町民等年間利用者数　20,000 人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

町内の公共施設であり、幅広い年代に学びの場として利用される施設であるため、優先的に事業を行った。

【事業実施により得られた効果】

木材製品を利用することによって、木材との関係性を深めることができる場となった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

学びの場、地域住民の憩いの場、情報発信の場等として活用し、町で維持管理する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

利用者より木材を利用することで「雰囲気が柔らかくなり、過ごしやすくなった。」「落ち着いた環境で居心地が良くなった。」等の声をいただいている。

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	御浜町

番号	事業名				
1	中央公民館木質化事業				
事業費	3,257,802 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,257,802	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
町の直営事業（備品購入）

【実施方法の選定理由】
町管理施設のため

【契約方法と落札率または補助率等】
指名競争入札（96.7%）、随意契約

【契約相手方の選定理由】
①指名競争入札
②随意契約にあたっては、地方自治法施行令第167条の2第1項第1号および御浜町契約規則第12条に基づき2者より見積りを徴収し予算の範囲内で実施した。

【事業費の積算根拠】
複数事業者の見積り額及び定価を参考に積算

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
公共施設の整備であり、町民すべてが受益を得られる取組みであり、その公益性は極めて高い。

【公的関与の必要性】
公共施設の整備であり、主たる利用者が町民であることから町で整備を行った。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
町管理施設のため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	今後	ホームページに事業についての掲載を行う
パネル展示	実施後	御浜町役場において事業実施結果の写真パネル展示
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施後	設置した備品にみえ森と緑の県民税ロゴマークの貼付
ポスター掲示	実施後	備品設置箇所に県民税ポスターを掲示

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	御浜町

事業名	中央公民館木質化事業

7. 写真

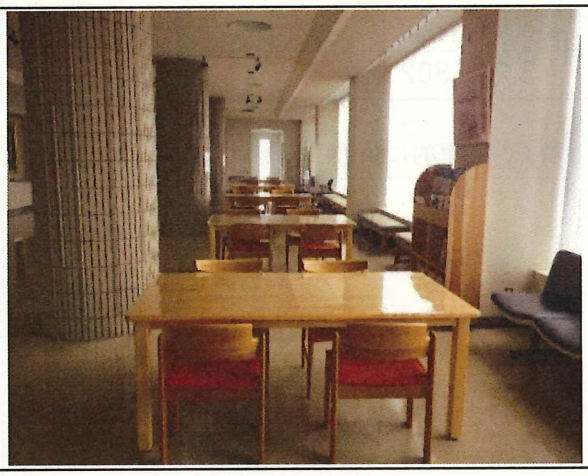


写真1
中央公民館ロビー（机、イス）



写真2
中央公民館ロビー（ベンチ）



写真3
中央公民館ロビー（移動書架）

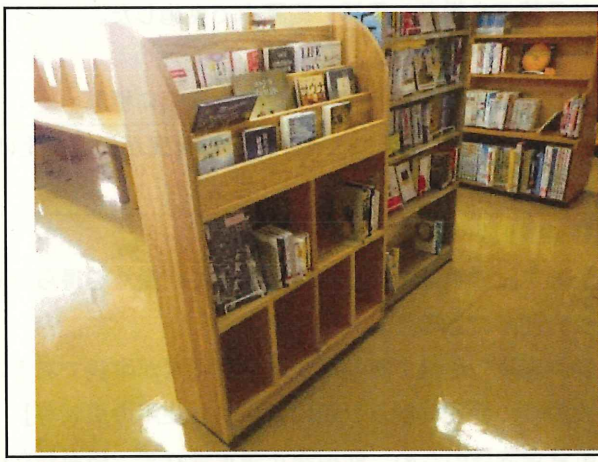


写真4
中央公民館図書室（移動書架）

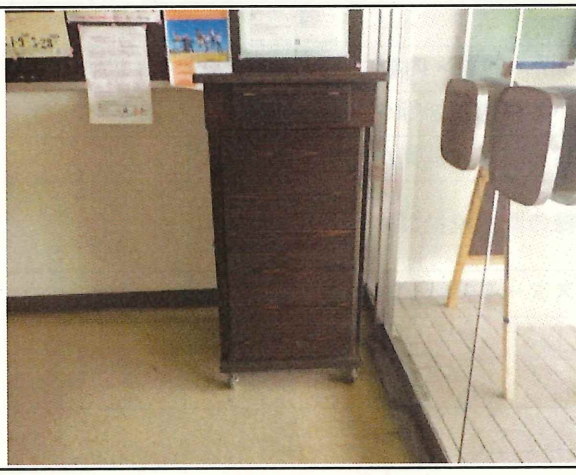


写真5
中央公民正面玄関（図書返却用ポスト）



写真6
中央公民館図書室前（掲示板）

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	御浜町

事業名	中央公民館木質化事業

7. 写真

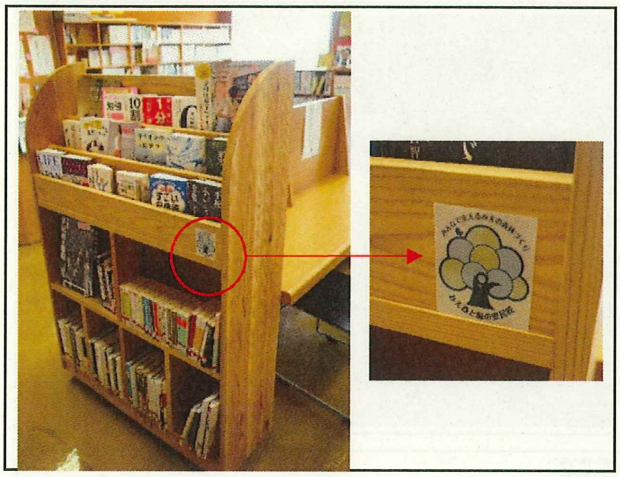


写真7
情報発信（ロゴマーク貼付）：移動式書庫



写真8
情報発信（ロゴマーク貼付）：机



写真9
情報発信（ロゴマーク貼付）：掲示板



写真10
情報発信（購入備品配置箇所に県民税ポスターを掲示）



写真11
小学生　児童利用状況

（評価委員会資料）

対策区分		市町名	御浜町

事業名	情報発信（事業共通）

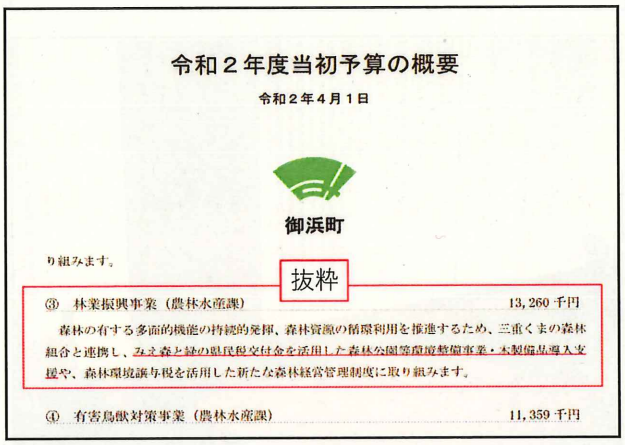
7. 写真



写真1
情報発信（パネル展示）御浜町役場



写真2
情報発信（パネル展示）御浜町役場



令和２年度当初予算の概要

令和２年４月１日

御浜町

り組みます。

抜粋

③　林業振興事業（農林水産課）　13,260千円

森林の有する多面的機能の持続的発揮、森林資源の循環利用を推進するため、三重くまの森林組合と連携し、みえ森と緑の県民税交付金を活用した森林公園等環境整備事業・木製備品導入支援や、森林環境譲与税を活用した新たな森林経営管理制度に取り組みます。

④　有害鳥獣対策事業（農林水産課）　11,359千円

写真3
情報発信（御浜町HP　予算概要）

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	御浜町

事業名	中央公民館木質化事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
中央公民館木質化事業	式	1.00		3,356,540	
				設計	請負
事業費				3,356,540	3,257,802

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
返却ポスト	返却ポスト	台	1.00	209,400	209,400	
	消費税				20,940	
					設計	請負
	計				230,340	220,702

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
移動書架	移動書架	台	2.00	160,000	320,000	
	消費税				32,000	
					設計	請負
	計				352,000	347,600

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
机	机	台	5.00	110,000	550,000	
	消費税				55,000	
					設計	請負
	計				605,000	594,000

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
いす・ベンチ	いす①	脚	10.00	62,000	620,000	
	いす②	脚	10.00	62,000	620,000	
	ベンチ	台	4.00	163,000	652,000	
	消費税				189,200	請負
					設計	
	計				2,081,200	2,013,000

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
掲示板	掲示板	台	1.00	80,000	80,000	
	消費税				8,000	
					設計	請負
	計				88,000	82,500

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	御浜町

番号	事業名				
2	森林公園等環境整備事業				
事業費	1,254,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,254,000	0	0

1. 事業の目的

健康づくりの一環として山歩きや森林浴など森林とのふれあいにより行おうとする機運が高まってきている。御浜町には遊歩道を有する小高い山とそれに隣接する公園があり、住民が緑にふれられる場として親しまれている。これらの登山道及び公園を整備することで、住民が森林や緑とふれあう環境を身近なものにする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

浅間山登山道及び寺谷公園の整備

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

御浜町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

３箇所（浅間山、寺谷公園、川瀬東屋）

【事業量】

歩道整備　0.90ha（浅間山）

下刈り　　3.33ha（寺谷公園2.94ha、川瀬東屋0.39ha）

【事業実施期間】

令和2年6月～令和3年3月

【受益者、参加者、利用者数等】

施設年間利用者数　約9,000人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

町内の公共施設の中でも町民だけでなく、町外からの利用者も多い施設であるため、優先的に事業を行った。

【事業実施により得られた効果】

公園を整備をすることで、利用者がより快適に森林と触れ合うことができるようになった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

町管理地であり、町で維持管理する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

利用者の方から、「きれいになり気持ちよく施設が利用できる。」「景観が良くなり居心地が良くなった。」等の声をいただいている。

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	御浜町

番号	事　業　名				
2	森林公園等環境整備事業				
事　業　費	1,254,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			1,254,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

町による事業委託

【実施方法の選定理由】

町管理施設であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約（99.1%）

【契約相手方の選定理由】

町の規程（地方自治法施行令第167条の2第1項第2号）に基づき、随意契約とした。

随意契約にあたっては３社より見積りを徴取し、予算の範囲内で実施した。

【事業費の積算根拠】

森林環境創造事業標準単価

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

公共施設の整備であり、関係町民すべてが受益を得られる取組であり、その公益性は極めて高いものである。

【公的関与の必要性】

町の施設であり、主たる利用者が町民であることから町で整備を行った。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町管理施設のため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	今後	ホームページに事業についての掲載を行う
パネル展示	実施後	御浜町役場において事業実施結果の展示
施工看板に掲示	実施前・中	工事個所において、工事看板へのみえ森と緑の県民税活用の掲示
のぼり設置	実施前・中	実施箇所においてみえ森と緑の県民税ののぼり旗を設置
ポスター掲示	実施後	寺谷総合公園管理棟に県民税ポスターの掲示
その他	実施後	県民税活用の看板をポスターと合わせて掲示

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	5．地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町

事業名	森林公園等環境整備事業

7．写真



写真1
施工実施後



写真2
施工実施後

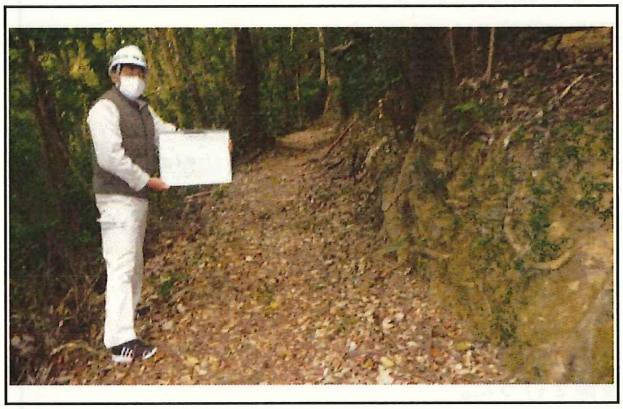


写真3
施工実施後

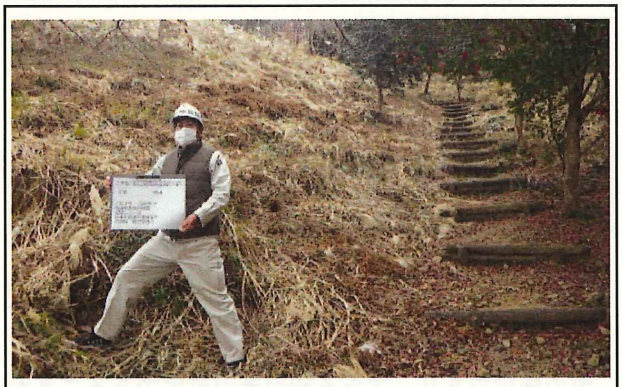


写真4
施工実施後



写真5
情報発信（ポスターと県民税活用周知看板）：管理棟



写真6
情報発信（県民税活用周知看板）：管理棟

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町

事業名	森林公園等環境整備事業

7. 写真



写真7
情報発信（のぼり旗、看板）:施工箇所



写真8
情報発信（のぼり旗、看板）:施工箇所



写真9
情報発信（パネル展示）御浜町役場



写真10
情報発信（パネル展示）御浜町役場

令和２年度当初予算の概要

令和２年４月１日

御浜町

り組みます。

抜粋

⑤ 林業振興事業（農林水産課） 13,260 千円

森林の有する多面的機能の持続的発揮、森林資源の循環利用を推進するため、三重くまの森林組合と連携し、みえ森と緑の県民税交付金を活用した森林公園等環境整備事業・木製備品導入支援や、森林環境譲与税を活用した新たな森林経営管理制度に取り組みます。

④ 有害鳥獣対策事業（農林水産課） 11,359 千円

写真11
情報発信（御浜町HP　予算概要）

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	御浜町

事業名	森林公園等環境整備事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
歩道整備	ha	0.90	264,604	238,143	
下刈り	ha	2.94	173,440	509,913	
下刈り	ha	0.39	173,440	67,641	
直接工事費計				815,697	
共通仮設費	%	7.70	815,697	62,808	
工事原価				878,505	
間接費	%	31.00	878,505	272,336	
工事価格				1,150,000	千円未満切り捨て
消費税相当額	%	10.00	1,150,000	115,000	
				設計額	請負額
事業費				1,265,000	1,254,000

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	御浜町

番号	事業名				
3	熊野古道道標等設置事業				
事業費	1,372,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			0	788,000	584,000

1. 事業の目的

県産材を使用した道標及び案内看板を設置することにより、熊野古道等を利用した方が木材と触れ合い、また木材による良好な景観に触れる機会が増え、木材の活用や森林づくりへの理解が深まる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

熊野古道等への木製案内看板の設置

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

御浜町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

御浜町内 15基

【事業量】

誘導板　9基　補助板　6基（熊野古道浜街道他）

【事業実施期間】

令和2年6月～令和3年3月

【受益者、参加者、利用者数等】

七里御浜（熊野古道浜街道）入込客数約　13,000人

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

熊野古道という世界的な文化遺産を訪れる県民に対して、森林を支える機運醸成が期待されるため。

【事業実施により得られた効果】

熊野古道を訪れた県民に対して、森林を支える社会づくりの重要性を啓発することができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

適切に維持管理を行い、森林を支える社会づくりを長く啓発していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

周辺景観と違和感のない木製の道標を設置したことにより、充実した古道歩きを楽しんでいただいている。

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	御浜町

番号	事　業　名				
3	熊野古道道標等設置事業				
事　業　費	1,372,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			0	788,000	584,000

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

物品修繕契約

【実施方法の選定理由】

御浜町契約規則による。

【契約方法と落札率または補助率等】

指名競争入札　落札率：47.0%

【契約相手方の選定理由】

最も低い入札額を提示したため。

【事業費の積算根拠】

落札額による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

熊野古道ルート上に設置しているため、広くここを訪れる県民に利用していただくことができる。

【公的関与の必要性】

熊野古道の道標については、広く受益が及ぶため公的な整備が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

設置者である御浜町が台帳を整備し、目的外に使用することなく適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	今後	ホームページに事業についての掲載を行う
パネル展示	実施後	御浜町役場にて事業実施結果のパネル展示を行った。
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施中	ロゴマークを道標に貼付

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町

事業名	熊野古道道標等設置事業

7. 写真

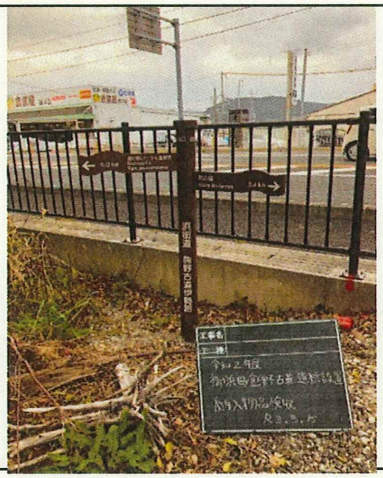


写真1
誘導板（御浜町大字志原）



写真2
誘導板（御浜町大字阿田和）



写真3
誘導板（御浜町大字下市木）



写真4
補助板（御浜町大字下市木）



写真5
補助板（御浜町大字下市木）



写真6
補助板（御浜町大字下市木）

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	御浜町

事業名	熊野古道道標等設置事業

7. 写真



写真7
情報発信（県民税ロゴマーク貼付）



写真8
情報発信（県民税ロゴマーク貼付）



写真9
情報発信（パネル展示）御浜町役場



写真10
情報発信（パネル展示）御浜町役場

令和２年度当初予算の概要

令和２年４月１日

御浜町

り組みます。

抜粋

③ 林業振興事業（農林水産課） 13,260 千円

森林の有する多面的機能の持続的発揮、森林資源の循環利用を推進するため、三重くまの森林組合と連携し、みえ森と緑の県民税交付金を活用した森林公園等環境整備事業・木製備品導入支援や、森林環境譲与税を活用した新たな森林経営管理制度に取り組みます。

④ 有害鳥獣対策事業（農林水産課） 11,359 千円

写真11
情報発信（御浜町HP　予算概要）

写真6

写真12

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	御浜町

事業名	熊野古道道標等設置事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
誘導版	式	1.00		1,824,000	
補助版	式	1.00		360,000	
看板撤去	式	1.00		80,000	
諸経費				390,314	
小計				2,654,000	千円未満切り捨て
消費税				265,400	
				設計額	請負額
事業費				2,919,400	1,372,000

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
誘導版	製作	基	9.00	156,000	1,404,000	
	設置	基	6.00	70,000	420,000	
	計				1,824,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
補助版	製作	基	6.00	40,000	240,000	
	設置	基	6.00	20,000	120,000	
	計				360,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
看板撤去	季節看板撤去	基	4.00	20,000	80,000	
	計				80,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

紀宝町

第１６号様式（評価委員会資料）

令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業　市町別総合評価シート

１．基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

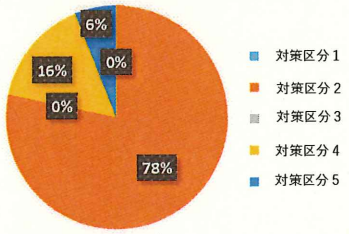
市町名	紀宝町	三重県
人口（人）	10,588	1,782,190
年少人口割合（%）＊1	11.8%	12.4%
森林面積(ha)	6,073.00	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	6,027.34	348,833.49
森林率(%)	76.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	7.6	10.1

＊１：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊２：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊３：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



２．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分１	対策区分２	対策区分３	対策区分４	対策区分５	基金積立
1	2	生活環境林整備事業	4,332,900	4,332,900		4,332,900				
2	4	飛雪の滝キャンプ場木製備品購入事業	869,000	869,000				869,000		
3	5	クマノザクラ整備事業	330,000	330,000					330,000	
4		みえ森と緑の県民税市町交付金積立金	1,803,100	1,803,100						1,803,100
計			7,335,000	7,335,000	0	4,332,900	0	869,000	330,000	1,803,100

３．令和２年度　みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
連携枠（流域防災機能強化対策事業）	5.9	2,715,900	2,715,900	間伐事業
連携枠（流域防災機能強化対策事業）	6.95	3,654,200	3,654,200	間伐事業
連携枠（流域防災機能強化対策事業）	17.73	369,600	369,600	測量事業

４．事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	本町は海・山・川の自然に恵まれ、それらの自然は人々の生活やまちの文化に大きな影響を与えてきた。特に、海岸部及び熊野川沿岸の一部は吉野熊野国立公園区域に位置付けられており、この貴重な自然を保護するとともに、自然にふれあえる場として保全・整備を進めていく。なお、県民税導入後継続して実施している「森と緑の環境教育事業」（対策区分3：森を育む人づくり）は、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度は実施できなかったが、町民からの要望が多くあり、終息後は再開していく予定である。
事業実施により得られた効果	「生活環境林整備事業」「クマノザクラ整備事業」を実施したことにより、安全安心なまちづくりと自然にふれあう施設整備が行われた。また、熊野川沿いの「飛雪の滝キャンプ場木製備品導入事業」により、施設利用者へ木材の魅力について普及できた。このような取組により、町民、周辺の県民、及び遠方からの観光客などが恩恵を受けることができたことは大きな成果である。
情報発信への取組	各種集客イベントの際、チラシや啓発物品の配布を行っている。また、施工現場ではのぼり旗の設置や県民税活用の看板の設置、備品購入等の場合は、施設内に県民税ポスターの掲示や購入備品へのロゴマークの貼付を行い、事業実績のパネル展示は役場内町民ホールで行っている。

（参考資料）

令和２年度森林環境譲与税事業の実績

事業番号	事業カテゴリー	事業費	
		（円）	内、譲与税
1	② 意向調査	2,409	2,409
2	⑬ 木造公共建築物の整備等	9,666	9,666
3	⑰ 基金積立（森林整備等）	4,780	4,780
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	16,855	16,855

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	紀宝町

番号	事業名				
1	生活環境林整備事業				
事業費	4,332,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,332,900		

1. 事業の目的

公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地の整備や危険木等の伐採または枝下ろししすることにより、災害時等の倒木を未然に防ぎ、生活環境の向上を図った。

2. 事業実績概要

【事業内容】

公共施設の周辺や生活道路沿いの緑地の整備や危険木等の伐採及び枝下ろしを行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

紀宝町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

３地区（大里、鵜殿、成川）公共施設・生活道周辺緑地

【事業量】

３地区　危険木伐採　①鵜殿地区（矢渕中学校入口）整備面積0.035ha
②大里地区（京城跡地）　伐採本数56本
③鵜殿地区（森林公園）　整備面積0.09ha

【事業実施期間】

令和２年５月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

３地区（大里、鵜殿、成川）の住民

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

施設の周辺や生活道路沿いの緑地で、倒木等の恐れのある箇所や生活環境の向上の為、緑地整備が必要である箇所として、伐採・緑地整備箇所を選定。

【事業実施により得られた効果】

倒木等の未然防止・緑地整備による施設の利用向上をが図った。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

今後も森林所有者（町・個人）により適切に管理する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

生活道路の通行環境が良くなり、災害時等の危険が軽減され、緑地整備により、景観も良くなった。

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	紀宝町

番号	事　業　名				
1	生活環境林整備事業				
事　業　費	4,332,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,332,900		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

委託

【実施方法の選定理由】

専門技術を有する事業体へ委託することで効率的に事業を実施できるため。

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約

【契約相手方の選定理由】

紀宝町内において、伐採・下刈り等森林整備の実績がある業者及び町建設業組合に加盟している業者。

【事業費の積算根拠】

別紙のとおり。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

公共施設（公園、道路）周辺の整備であり、関係町民すべてが受益を得られる取組みであり、その公益性は極めて高いものである。

【公的関与の必要性】

町有地の整備又は、個人所有の山林であるが、危険性が高く個人での対応が困難な場所の整備の為、町で整備を行った。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者による管理のもと、危険木等の伐採・緑地整備であり、皆伐等を考えていない為、転用制限等を考えていない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施後	紀宝町役場にて前年度実績をパネル展示にて紹介
のぼり設置	実施中	県民税活用の内容を記載した看板と一緒に掲示
その他	実施中	県民税活用の内容を記載した看板をのぼり旗と一緒に現場に掲示

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	２．暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町

事業名	生活環境林整備事業

7．写真

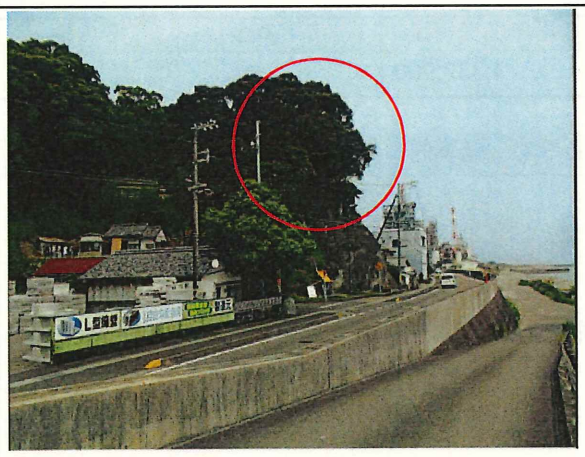


写真1
①　鵜殿地区（矢渕中学校入口）　　伐採前

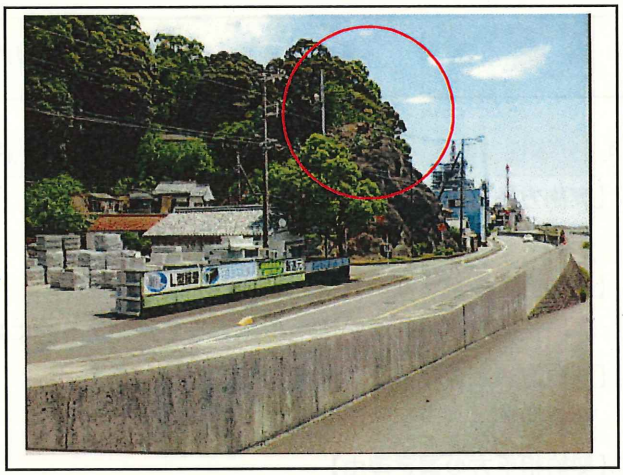


写真2
①　鵜殿地区（矢渕中学校入口）　伐採後



写真3　①　鵜殿地区（矢渕中学校入口）
高所作業車使用状況

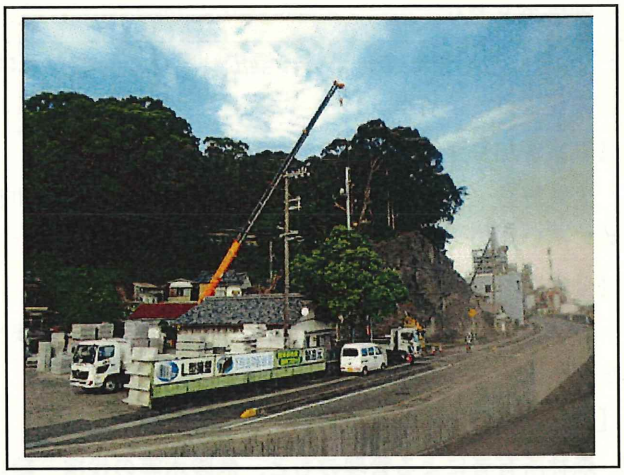


写真4　①　鵜殿地区（矢渕中学校入口）
ラフタークレーン使用状況



写真5　①　鵜殿地区（矢渕中学校入口）
ラフタークレーンでの吊るし伐り

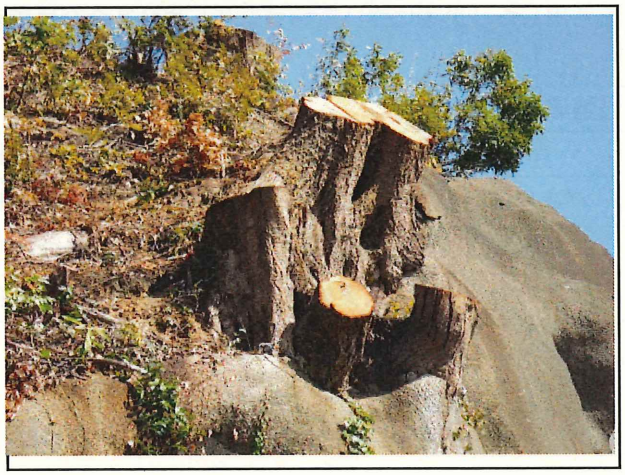


写真6
①　鵜殿地区（矢渕中学校入口）　伐採後

（評価委員会資料）

対策区分	２．暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町

事業名	生活環境林整備事業

7．写真



写真7
②　大里地区（京城跡地）伐採前



写真8
②　大里地区（京城跡地）　伐採後



写真9
②　大里地区（京城跡地）伐採前



写真10
②　大里地区（京城跡地）　伐採後



写真11
③　鵜殿地区（森林公園）　伐採前

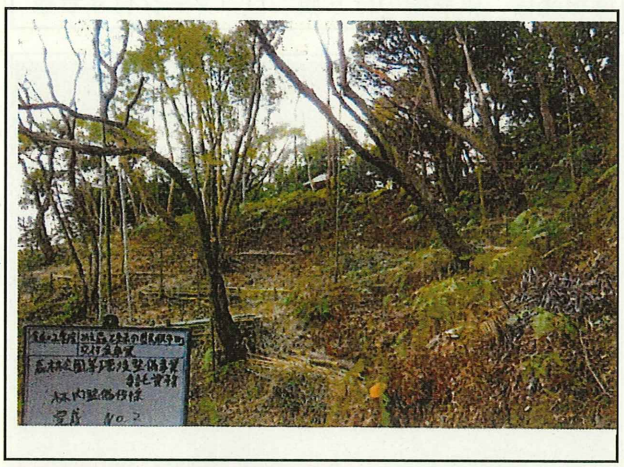


写真12
③　鵜殿地区（森林公園）伐採後

（評価委員会資料）

対策区分	２．暮らしに身近な森林づくり	市町名	紀宝町

事業名	生活環境林整備事業

7．写真



写真13
③　鵜殿地区（森林公園）　伐採前

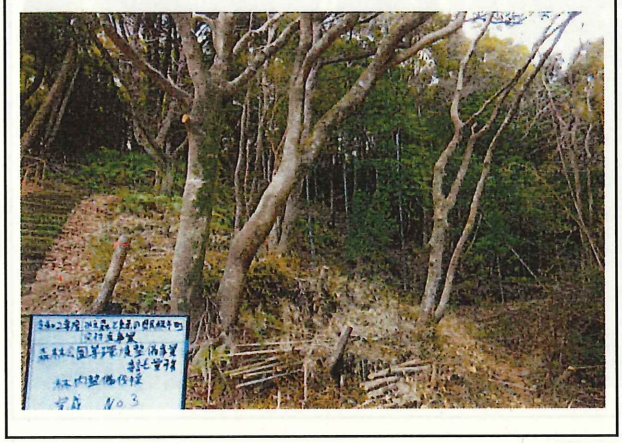


写真14
③　鵜殿地区（森林公園）伐採後

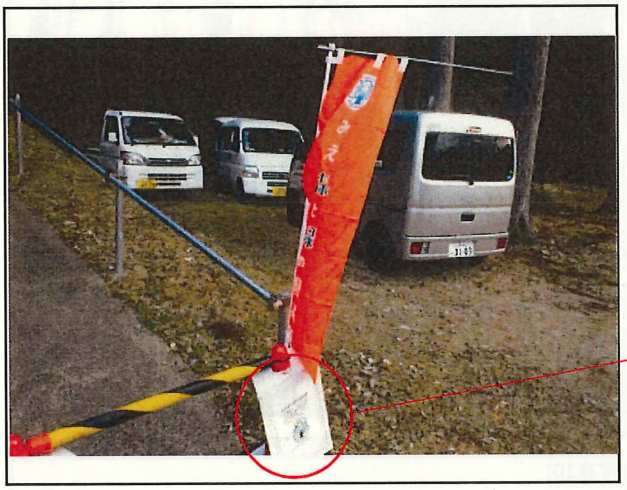


写真15
情報発信　県民税のぼり旗　ロゴマーク付き看板

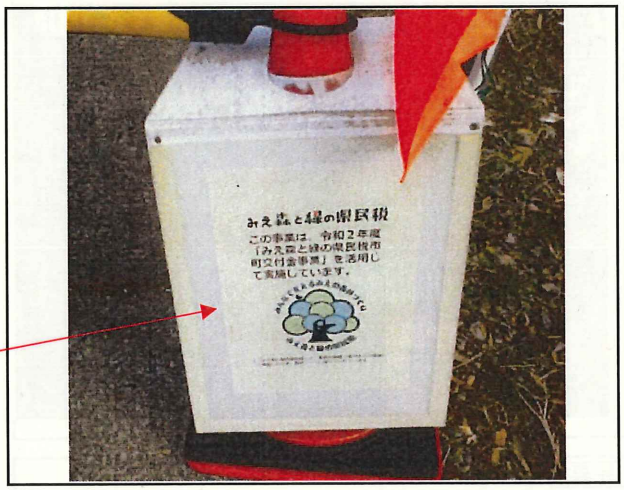


写真16
情報発信　ロゴマーク付き看板



写真17
情報発信（事業実績パネル展示）紀宝町役場



写真18
情報発信（事業実績パネル展示）紀宝町役場

（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名	紀宝町

事業名	生活環境林整備事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
①鵜殿地区（矢渕中学校入口）支障木、危険木伐採	箇所	1.00		3,482,600	
②大里地区(京城跡地）緑地整備	箇所	1.00		495,000	
③鵜殿地区公共施設周辺緑地整備	箇所	1.00		355,300	
事業費				4,332,900	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
①鵜殿地区（矢渕中学校入口）支障木、危険木伐採	作業員	日	49.00	19,100	935,900	
	バックホー	日	7.00	15,700	109,900	
	グラップル	日	7.00	15,000	105,000	
	ラフタークレーン	日	5.00	80,000	400,000	
	高所作業車	日	2.00	37,000	74,000	
	ダンプトラック（4T）	日	14.00	10,800	151,200	
	枝葉処分	t	30.00	25,000	750,000	
	交通誘導員	人	14.00	15,000	210,000	
	小計				2,736,000	
	諸経費				410,000	
	工事価格				3,146,000	
	重機回送費				20,000	
	消費税				316,600	
	計				3,482,600	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
②大里地区(京城跡地）緑地整備	作業員	人	16.00	19,600	313,600	
	燃料費等	日	16.00	2,700	43,200	
	労務諸経費	%	31.00	313,600	97,216	
	小計				454,016	
	端数処理				▲ 4,016	
	計				450,000	
	消費税	%	10.00	450,000	45,000	
	計				495,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
③鵜殿地区公共施設周辺緑地整備	作業員（林内整備伐採）	人	10.00	19,600	196,000	
	作業員（危険木伐採）	人	2.00	19,600	39,200	
	共通仮設費	%	7.50	235,200	17,640	
	諸経費	%	30.00	235,200	70,560	
	小計				323,400	
	端数処理				▲ 400	
	計				323,000	
	消費税	%	10.00	323,000	32,300	
	計				355,300	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	紀宝町

番号	事業名				
2	飛雪の滝キャンプ場木製備品購入事業				
事業費	869,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			869,000		

1. 事業の目的

年々増加している飛雪の滝キャンプ場の利用者に対し、三重県産材によるテーブル椅子セット及び遊具を設置し、木や緑について学び、ふれあう機会を提供することにより、森や緑を守り育てることの大切さを、より一層理解していただくことを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

キャンプ場利用者に幅広く三重の木にふれていただくことにより、森林や緑の大切さについて理解いただく。

【事業主体】

紀宝町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

紀宝町浅里地内　飛雪の滝キャンプ場

【事業量】

テーブルと椅子のセット　10セット　　木製遊具　１基

【事業実施期間】

令和２年５月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

飛雪の滝キャンプ場利用者(日帰り利用者含む)

（令和2年度利用者数9,847人、令和元年度利用者数13,768人）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

町が管理を行う集客施設として、重要な拠点施設である。

【事業実施により得られた効果】

テーブルや椅子を設置することでゆっくり森や緑とふれあい、守り育てることの大切さを学ぶ環境を整備する

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

屋外における森林環境教育実施時に活用していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

木のぬくもりを感じることができ、また森林林業の学習の場としても拠点となり再利用者が増加している。また、地元住民、日帰り利用者からも、好評を得ている。

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	紀宝町

番号	事業名				
2	飛雪の滝キャンプ場木製備品購入事業				
事業費	869,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			869,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
委託

【実施方法の選定理由】
紀宝町規則により決定した。

【契約方法と落札率または補助率等】
随意契約

【契約相手方の選定理由】
類似製品の製作実績があり、製作技術が水準以上であることが確認できたため。

【事業費の積算根拠】
見積りをもとにして適正な扱いを行っている。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
施設の利用者は、だれでも利用することができ、多くの方に地元材の良さを感じてもらっている。

【公的関与の必要性】
町民に森林の大切さを伝える場として町（行政）が購入し、設置は適当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
施設内において適切に管理され、目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ポスター掲示	実施後	キャンプ場管理棟にて県民税のポスターを掲示
パネル展示	実施後	紀宝町役場において前年度実績をパネルにて紹介
ロゴマーク掲示(ｼｰﾙ・ﾌﾟﾚｰﾄ等)	実施後	購入した物品に県民税ロゴマークを貼付

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀宝町

事業名	飛雪の滝キャンプ場木製備品購入事業

7. 写真



写真1
資材　組み立て前



写真2
木製品　テーブル　椅子設置状況（左は飛雪の滝）



写真3
木製品　テーブル　椅子

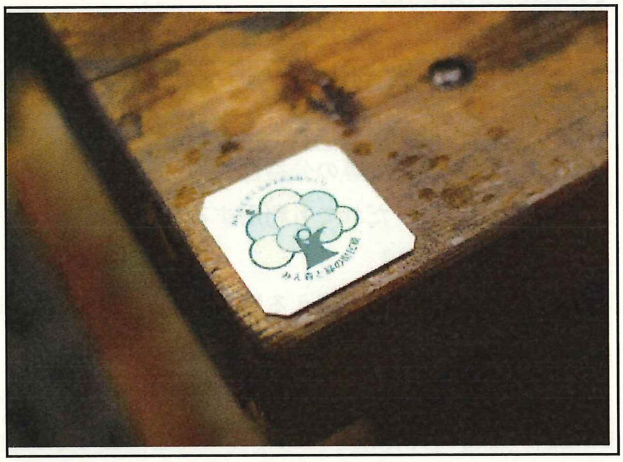


写真4
情報発信（県民税ロゴマーク）



写真5
木製品遊具

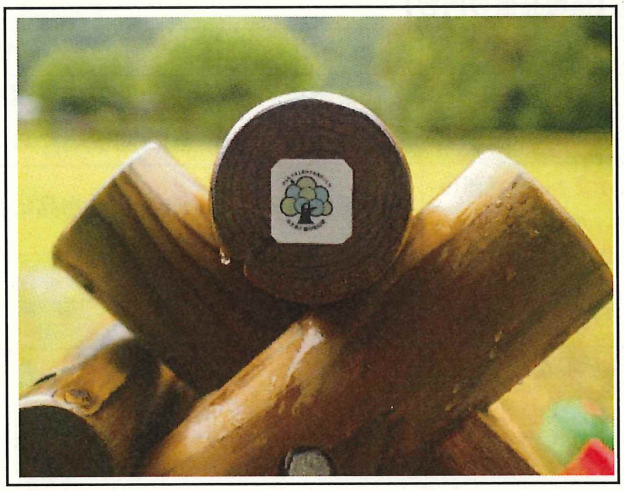


写真6
情報発信（県民税ロゴマーク）

（評価委員会資料）

対策区分	4．森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	紀宝町

事業名	飛雪の滝キャンプ場木製品購入事業

7．写真



写真7
情報発信（管理棟へ県民税ポスター掲示）



写真8
情報発信（四阿へ県民税ポスター掲示）



写真9
情報発信（事業実績パネル展示）紀宝町役場



写真10
情報発信（事業実績パネル展示）紀宝町役場

（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名	紀宝町

事業名	飛雪の滝キャンプ場木製品購入事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
テーブル　椅子	セット	10.00	71,500	715,000	
木製遊具(施工費含む)	式	1.00	154,000	154,000	
事業費				869,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

第７号様式（その２）（評価委員会資料）

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	紀宝町

番号	事業名				
3	クマノザクラ整備事業				
事業費	330,000 円	（財源内訳）	当年度交付金	市町基金	その他
			330,000		

1. 事業の目的

野生種の桜として、2018年に約100年ぶりの新種発見と発表された紀伊半島南部の「クマノザクラ」を新種と確認した森林総合研究所の勝木俊雄氏や三重県樹木医の中村昌幸氏と連携し、地元における整備の取組みを行った。

2. 事業実績概要

【事業内容】

森林総合研究所の勝木俊雄氏と三重県樹木医の中村昌幸氏の研究により生成された、クマノザクラの苗木を地元のNPO法人「熊野さくらの会」と連携し、町内への植樹及び経過観察等を行った。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

紀宝町及びNPO法人熊野さくらの会

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

町内公園、NPO法人熊野さくらの会保有林

【事業量】

クマノザクラ苗木150本及び整備資材一式

【事業実施期間】

令和２年５月～令和３年３月

【受益者、参加者、利用者数等】

地域住民、NPO法人熊野さくらの会　植樹祭参加者（約80名）

3. 有効性【２つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

例年行っている事業で、効率的かつ事業の趣旨からも最適な場所であったと認められた。

【事業実施により得られた効果】

クマノザクラに対する理解や関心が高まるとともに、憩いの場としての森林の価値向上、森林に対する理解を深めることができた。また、多くのマスコミ関係者に取り上げていただき、当地域のＰＲにも貢献した。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

クマノザクラについての普及啓発、今後の研究箇所として活用。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

今後のクマノザクラの成長に期待を寄せる声が多く集まった。自生しているクマノザクラの調査へ関心を寄せる声も多くあがった。

令和２年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	紀宝町

番号	事　業　名				
3	クマノザクラ整備事業				
事　業　費	330,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			330,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

紀宝町が苗木を購入し、NPO法人へ原材料支給を行った。

【実施方法の選定理由】

ボランティア参加者が植樹した。

【契約方法と落札率または補助率等】

随意契約（1社）

【契約相手方の選定理由】

森林総合研究所の勝木俊雄氏と三重県樹木医の中村昌幸氏の研究により、生成された「クマノザクラ」の苗木を直接購入した。

【事業費の積算根拠】

別紙のとおり

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

植樹祭には、誰でも参加することができ、その後のクマノザクラの育成状況等確認については、一部の危険区域等を除き、可能である。

【公的関与の必要性】

貴重な品種の植物であることから、行政機関、研究機関等の助言等周知は、必須である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町及びNPO法人熊野さくらの会による管理のもと、転用や目的外使用は想定されていない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
啓発物品配布	実施中	参加者へ啓発物品の配布
パネル展示	実施後	紀宝町役場にて前年度実績をパネル展示にて紹介
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施後	現地看板に県民税ロゴマークを掲示

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	紀宝町

事業名	クマノザクラ整備事業

7. 写真

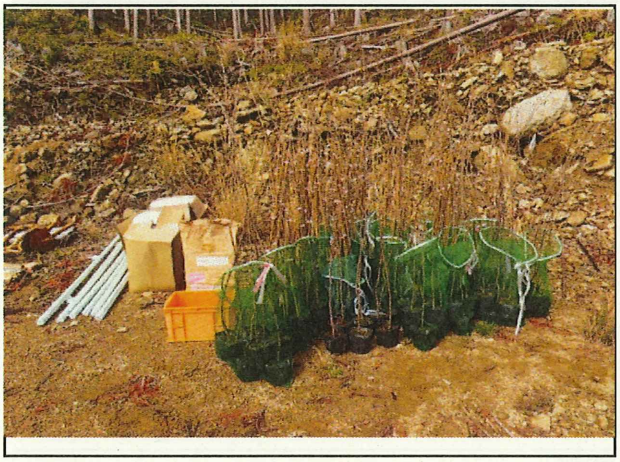


写真1
苗木　　資材一式（県民税対象：苗木）



写真2
植栽方法の説明



写真3 クマノザクラ植樹祭　参加者集合写真
2021.3.7



写真4
獣害対策資材の設置　植樹



写真5 クマノザクラ植栽状況
（説明看板は県民税対象外）



写真6
情報発信（県民税ロゴマーク）

（評価委員会資料）

対策区分		市町名	紀宝町

事業名	情報発信（事業共通）

7. 写真



写真1
情報発信（事業実績パネル展示）紀宝町役場



写真2
情報発信（事業実績パネル展示）紀宝町役場

（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名	紀宝町

事業名	クマノザクラ整備事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
クマノザクラ苗木	本	150	2,200	330,000	
				330,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

みえ森と緑の県民税制度運営事業

令和３年６月

１．事業の目的

この事業は、みえ森と緑の県民税の制度が円滑に運営されるよう、県民への周知や評価委員会の設置・運営等を行うものです。

２．令和２年度事業実績

１）みえ森と緑の県民税評価委員会の運営

令和２年７月に第１回評価委員会を、８月に第２回評価委員会を開催し、令和２年８月 27 日付け森緑評第７号によりみえ森と緑の県民税基金事業の実施後の評価について、答申を受けました。

1-1）委員の任命

令和２年 10 月１日から令和４年９月 30 日の２年間を任期として、次の 10 名を委員に任命しました。

委員氏名	所属団体等	分　野
石川 知明	三重大学大学院生物資源学研究科 教授	学識経験者
上ノ坊 淳	三重県小中学校長会　幹事	教育
大浦 由美	和歌山大学観光学部 教授	学識経験者
新海 洋子	一般社団法人 SDGs コミュニティ゛代表理事	NPO 活動
林 拙郎	三重大学名誉教授	学識経験者
藤井 恭子	皇學館大学現代日本社会学部 准教授	学識経験者
松井 寿人	三重県中小企業団体中央会 事務局長	商工
三田 泰雅	四日市大学総合政策学部　准教授	学識経験者
矢田 真佐美	三重県地域婦人団体連絡協議会 副会長	消費者
吉田 正木	吉田本家山林部 代表	林業

五十音順・敬称略 令和３年６月末現在

なお、令和２年９月30日までの委員は次のとおりです。

委員氏名	所属団体等	分　野
石川　知明	三重大学大学院生物資源学研究科　教授	学識経験者
大浦　由美	和歌山大学観光学部　教授	学識経験者
小林　慶太郎	四日市大学総合政策学部　教授	学識経験者
新海　洋子	一般社団法人 SDGs コミュニティ　代表理事	NPO 活動
林　拙夫	三重大学名誉教授	学識経験者
藤井　恭子	皇學館大学現代日本社会学部　准教授	学識経験者
松井　寿人	三重県中小企業団体中央会　事務局長	商工
矢田　真佐美	三重県地域婦人団体連絡協議会　副会長	消費者
山下　高弘	三重県小中学校長会　幹事	教育
吉田　正木	吉田本家山林部　代表	林業

五十音順・敬称略　令和２年９月末現在

１-２）評価委員会概要

【令和２年度第１回みえ森と緑の県民税評価委員会】

１　日時　令和２年７月13日（月）　14時00分から16時30分

２　場所　三重県農協会館　５階　大会議室

３　出席委員　８名（欠席２名）

４　議題

（１）令和元年度みえ森と緑の県民税基金事業の実績

（２）令和元年度市町別総合評価についての情報交換

５　会議の公開・非公開　　公開

６　傍聴者　16名



令和２年度第１回みえ森と緑の県民税評価委員会の様子

【令和２年度第２回みえ森と緑の県民税評価委員会】

１　日時　令和２年８月27日（木）　14時00分から16時30分

２　場所　三重県教育文化会館　５階　大会議室

３　出席委員　６名（欠席４名）

４　議題

（１）令和２年度第１回みえ森と緑の県民税評価委員会での意見

（２）令和元年度みえ森と緑の県民税基金事業の評価

５　会議の公開・非公開　　公開

６　傍聴者　10名



令和２年度第２回みえ森と緑の県民税評価委員会の様子

【令和２年度第３回みえ森と緑の県民税評価委員会】

１　日時　令和３年２月８日（月）　14時30分から16時15分

２　場所　三重県農協会館　５階　大会議室

３　出席委員　10名（内、５名はリモートによる参加）

４　議題

（１）委員長、副委員長選出

（２）みえ森と緑の県民税評価委員会への諮問について

（３）令和２年度みえ森と緑の県民税基金事業の進捗状況

５　会議の公開・非公開　　公開

６　傍聴者　８名（リモートによる傍聴）





令和２年度第３回みえ森と緑の県民税評価委員会の様子
（新型コロナウィルス感染症対策のためウエブ会議システムを活用して開催）

２）みえ森と緑の県民税の普及啓発

ポスターの掲示や令和元年度事業成果発表会の開催などにより、令和元年度事業の成果や本県民税の意義について周知を図りました。

２-１）啓発物品による広報

様々な啓発物品を活用して、みえ森と緑の県民税の必要性と活用事例について広く県民に知っていただくための広報活動を行いました。

（活用した啓発物品）



2-2）事業成果の広報

① みえ森と緑の県民税令和元年度成果発表会の開催

事業実施担当者が、事業成果を直接県民に報告するとともに、市町間の情報共有を図り、市町交付金事業実施の一助とするため、事業成果発表会を開催しました。



成果発表会の様子



成果発表会の案内チラシの内容

② みえ森と緑の県民税令和元年度事業成果報告書の作成

令和元年度事業成果を総括し、詳細に報告するため、みえ森と緑の県民税令和元年度事業成果報告書を作成・配布しました。

2-3）メディアを活用した広報

ラジオや映画館での宣伝や番組の活用、主要駅や商業施設における「みえ森と緑の県民税」の啓発ポスターの掲出により、広くみえ森と緑の県民税の趣旨や活用成果を広報しました。



近鉄鳥羽駅における啓発ポスターの掲出の様子

2-4）パネル展示等による広報

県施設において、みえ森と緑の県民税ＰＲのためのパネル展示を行うとともに、アンケート調査をしました。

【パネル展示の実施状況】

所属	期間	場所	内容
四日市農林事務所	R3.1.12～R3.1.22	四日市庁舎１階県民ホール	県民税事業 PR のためのパネル展示とアンケート調査
津農林水産事務所	R3.2.15～R3.2.25	津庁舎１階県民ホール	県民税事業 PR のためのパネル展示
松阪農林事務所	R3.3.8～R3.3.22	松阪庁舎１階ロビー	県民税事業 PR のためのパネル展示とアンケート調査
伊勢農林水産事務所	R2.10.19～R2.10.30	伊勢庁舎１階県民ホール	県民税事業 PR のためのパネル展示とアンケート調査
	R2.11.2～R3.3.31	伊勢庁舎２階ロビー	県民税事業 PR のためのパネル展示とアンケート調査
伊賀農林事務所	R2.8.3～R2.8.31	伊賀庁舎２階県民ホール	県民税事業 PR のためのパネル展示とアンケート調査
	R3.1.15～R3.1.29	伊賀庁舎２階県民ホール	県民税事業 PR のためのパネル展示とアンケート調査
尾鷲農林水産事務所	R2.8.17～R2.8.28	尾鷲庁舎県民ホール	県民税事業 PR のためのパネル展示とアンケート調査
熊野農林事務所	R3.1.20～R3.1.29	熊野庁舎１階県民ホール	県民税事業 PR のためのパネル展示
みどり共生推進課	R2.12.8～R3.1.28	三重県立図書館	県民税事業 PR のためのパネル展示とアンケート調査
	R3.2.12～R3.1.15	県庁県１階県民ホール	県民税事業 PR のためのパネル展示とアンケート調査



伊勢庁舎におけるパネル展示の様子



熊野庁舎におけるパネル展示の様子

3）「みえ森と緑の県民税」の認知度

3－1）e-モニター制度の活用

e-モニター制度を活用し、みえ森と緑の県民税にかかるアンケート調査を実施しました。調査結果は、ホームページで公表しています。

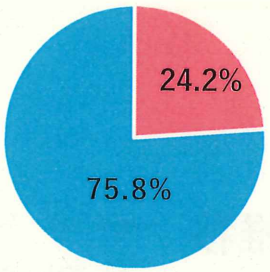
【みえ森と緑の県民税に関するアンケート】

1　実施期間　令和２年８月６日から８月 20 日まで

2　回答率等　40.4%（回数者 385 人/対象者 952 人）

3　設問と回答

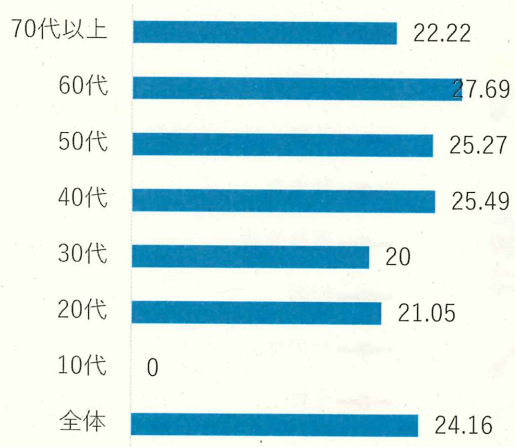
（1）「みえ森と緑の県民税」は、個人と法人の県民税均等割に上乗せして納めていただいており、税額は、個人が年額１，０００円、法人は資本金額に応じた県民税均等割の１０％相当額（年額２，０００円～８０，０００円）です。あなたは、「みえ森と緑の県民税」が課税されていることをご存じですか。



全体の認知度（%）

■ 知っている
■ 知らない

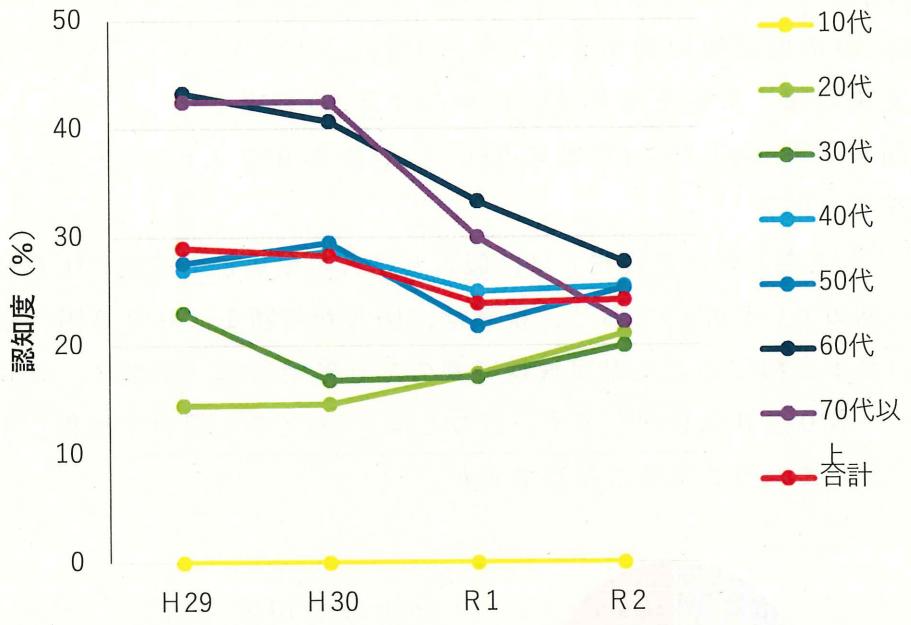
年代別認知度（%）



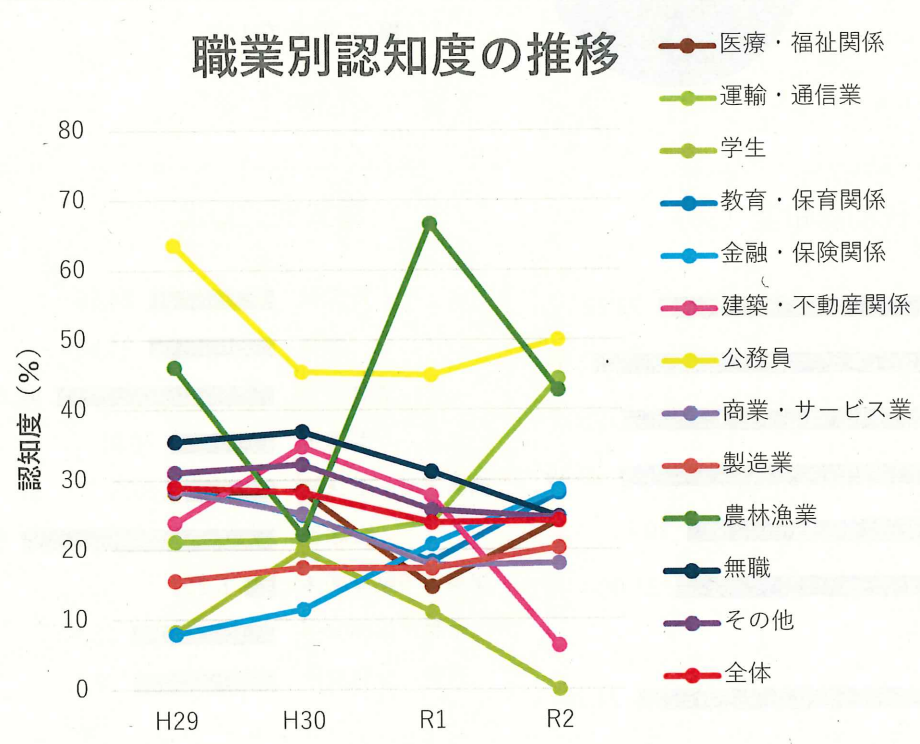
職業別認知度（%）



年代別認知度の推移

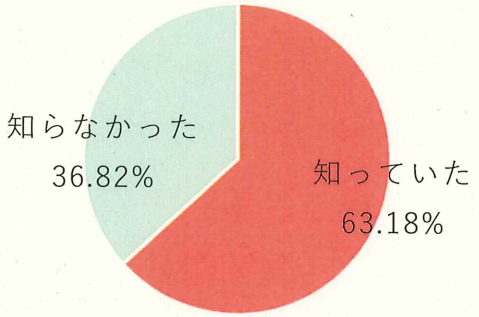


職業別認知度の推移



【パネル展示と同時に実施したアンケート結果】

問：あなたは「みえ森と緑の県民税」を以前から知っていましたか。（有効回答数：２５８）



「みえ森と緑の県民税」の認知度（%）

問：「災害に強い森林づくり」は必要な取組だと思いますか。（有効回答数：２１５）

